

専門工事業者におけるリスクアセスメント
の実施事例に関する調査研究

報 告 書

平成21年 3月

建設業労働災害防止協会

目 次

アンケート調査票.....	1
アンケート調査結果.....	5
1. 調査概要と回答者の属性.....	5
(1) 調査概要.....	5
(2) 回答者の属性.....	5
2. リスクアセスメント実施状況（問1）.....	7
(1) 「現在は実施していない」会社の今後についての考え（問1-1）.....	10
3. リスクアセスメント導入年次（問2）.....	13
4. リスクアセスメント導入のきっかけ（問3）.....	15
5. リスクアセスメント実施方法（問4）.....	19
6. 労働安全衛生マネジメントシステムの種類（問5）.....	21
7. 会社におけるリスクアセスメントの実施状況（問6）.....	23
(1) 総括責任者及び実務責任者の職名（問6-1）.....	23
(2) リスクアセスメント結果の利用（問6-2）.....	28
(3) リスクアセスメント実施の参考（問6-3）.....	32
(4) リスクアセスメント教育の受講（問6-4）.....	39
(5) リスクアセスメントで取り入れている項目（問6-5）.....	43
8. リスクの見積りの代表的な方法（問7）.....	55
(1) リスク見積り項目（問7-1）.....	55
(2) リスクを見積もる方法（問7-2）.....	60
(3) リスクレベルの段階数（問7-3）.....	62
(4) 危険度＝優先度の軽減対策を取る段階（問7-4）.....	64
9. リスクアセスメントの効果（問8）.....	69
10. リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点（問9）.....	74
11. リスクアセスメントに関する教育（問10）.....	79

アンケート調査票

専門工事業者のリスクアセスメントに関するアンケート調査票

問1 労働安全衛生法では、平成18年4月から「危険性又は有害性等の調査」(本調査票では「リスクアセスメント」という。)の実施が努力義務となっています。

あなたの会社では、リスクアセスメントについて現在どのような状況ですか。会社及び現場について該当するものを一つだけ選び数字に○をつけてください。

1. 会社と現場で実施している →
 2. 会社で実施し、現場では実施していない →
 3. 会社では実施せず、現場で実施している →
 4. 会社、現場のいずれも実施していない
- } 問2～問10についてお答えください。

問1-1 「現在は実施していない」とのことですが、今後についてはどのような考えをお持ちでしょうか。該当するものを一つだけ選び数字に○をつけてください。

1. 今後の実施に向けた準備を現在している
 2. 今後の実施について現在検討を進めている
 3. 現在のところ実施する予定はない
- } 問9～問10についてお答えください。
- その理由をご記入ください。

{ }

問2 あなたの会社でリスクアセスメントを導入したのはいつからですか。導入した年次をご記入ください。

平成 () 年から

問3 リスクアセスメントを導入したきっかけは何ですか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 社長の指示による
2. 会社内で実施することが必要と感じたから
3. 元請からの指導があったから
4. 発注者（発注官庁を含む）の指導があったから
5. 労働安全衛生法の改正があったから
6. 労働局、労働基準監督署の指導があったから
7. 業界で導入が進んでいるから
8. その他

{ }

問4 リスクアセスメントはどのような方法で実施していますか。該当する数字に○をつけてください。

1. 労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している → 問5～問10についてお答えください。
2. リスクアセスメントを単独で実施している → 問6～問10についてお答えください。
(労働安全衛生マネジメントシステムを実施していない)

問5 問4で「1. 労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している」と回答された方にお聞きします。
労働安全衛生マネジメントシステムの種類はなんですか。該当する数字に○をつけてください。

1. 建設業労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)を実施している
2. コスモス以外のマネジメントシステムで実施している

[]

問6 会社におけるリスクアセスメントの実施状況についてお聞きします。

問 6-1 会社で実施するリスクアセスメントの総括責任者及び実務責任者の職名はなんですか。それぞれ該当する数字に○をつけてください。

	職 名
総括責任者	1. 社長 2. 専務 3. 部長 4. その他 ()
実務責任者	1. 安全課長 2. 安全責任者 3. 職長 4. その他 ()

問6-2 会社で実施したリスクアセスメントの結果はどのように利用していますか。該当するすべての数字に○をつけてください。 (これに関する資料等があればコピーを添付して下さい。)

1. 会社の安全衛生計画、安全衛生目標に利用している
2. 現場で使うリスクアセスメントの標準、指針等に活用する
3. 施工計画書、工事施工要領書、工事の安全衛生目標に活用する
4. その他 []

]

問 6-3 会社でリスクアセスメントを実施する際は何を参考にしていますか。該当するすべての数字に○をつけてください。また、その情報を会社で保存している場合には [] 内にレをつけてください。

1. 社内・外で起きた災害事例 []
2. リスクアセスメントの実施結果 []
3. 施工要領書、作業手順書 []
4. 施工計画書 []
5. 危険予知活動 (KY活動) []
6. 安全衛生パトロールの実施結果 []
7. 建災防発行のテキスト等 [] (テキスト名:)
8. その他 [] (情報名:)

問 6-4 建災防が行っているリスクアセスメントの教育を受講したことがありますか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 「職長のためのリスクアセスメント」教育
2. 「職長・安全衛生責任者教育」
3. 「職長・安全衛生責任者教育講師養成講座」(新CFT講座)
4. 「総合工事業者のためのリスクアセスメント」講習
5. その他 []

]

問 6-5 会社で実施しているリスクアセスメントの中で取り入れている項目はどれですか。該当するすべての数字に○をつけてください。また、取り入れた項目について、期待していた通りの効果が出ていますか。〔 〕内に、○（効果あり）、△（それほど効果はない）、×（効果はない）のいずれかを記入してください。

1. 作業所の工事安全衛生目標、工事安全衛生計画 []
2. 工事施工計画 []
3. 工事施工要領書、作業手順書 []
4. 工事着工時検討会等 []
5. 災害分析 []
6. 危険予知活動（KY活動） []
7. 安全衛生パトロール結果の分析 []
8. 毎日の工事安全工程打ち合わせ []
9. 職長会活動 []
10. 災害防止協議会（安全衛生協議会） []
11. その他 []

問7 リスクの見積もりについて、代表的な方法についてお伺いします。

問 7-1 あなたの会社でリスクの見積りに用いている項目はどれですか。該当するすべての数字に○をつけてください。また、その項目は何段階(区分)で評価していますか。該当する段階数を一つだけ選び○をつけてください。(これに関する資料等があればコピーを添付して下さい。)

- | | 段階(区分)数 | | | |
|--------------------|---------|-----|-----|-------|
| 1. 負傷・疾病の重篤度(重大性) | (3段階 | 4段階 | 5段階 | その他) |
| 2. 発生の可能性の度合い(可能性) | (3段階 | 4段階 | 5段階 | その他) |
| 3. その他 | (| | |) |

問 7-2 リスクを見積もる方法としてどのような方法で行っていますか。該当するものを一つだけ選び数字に○をつけてください。

1. 数値の加算式（足し算）
2. 数値の乗算式（掛け算）
3. 見積りの記号（○△×等）の組合せ
4. その他の方法 []

問 7-3 リスクを見積もった結果（リスクレベル＝危険度＝優先度）は何段階で評価していますか。該当する段階数を一つだけ選び○をつけてください。

(3段階 4段階 5段階 その他)

問 7-4 危険度＝優先度の軽減対策は何段階目から対策を取っていますか。あてはまる段階数を記入して下さい。

()段階

問8 リスクアセスメントを実施したことにより、会社にどのような効果がありましたか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 特に効果はみられない
2. 会社内でどこに危険があったか分かった
3. 会社内で危険に対する認識が共有できた
4. 安全対策を一番に行うことを決めることができた
5. 現場のルールを守ることが重要であることが分かった
6. 会社の全員が参加することで、危険に対して自分を守る能力がついた
7. 重篤な労働災害が減った
8. 災害発生件数が減った
9. その他 ()

(以下の質問はすべての方がお答えください)

問9 会社で、リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点がありますか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 特に問題はない
2. 経営トップ（社長等）がリスクアセスメントに対して理解がない
3. 元請の考えている要求が専門工事業者に理解されていない
4. 施工条件が日々変わっていくので、リスクを評価することはむずかしい
5. 時間と手間がかかるのでリスクアセスメントを行うのはむずかしい
6. 危険を判断して対策を取る方法が人によって個人差があるので、むずかしい
7. リスクアセスメントのやり方、評価の仕方など、リスクアセスメントがどのようなものかを具体的に理解するのはむずかしい
8. 危険予知活動で十分と考えている
9. その他 ()

問10 あなたの会社では、リスクアセスメントに関する教育を実施していますか。該当するものを一つだけ選び数字に○をつけてください。また、実施している場合、その教育はどのようなものですか。該当するすべての数字に○をつけてください。

- | | | |
|---|----------|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育を実施している 2. 教育を実施していない | <p>→</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社内で教育を実施した 2. 安全衛生協力が実施する教育に参加した 3. 元請が実施する教育に参加させた 4. 建災防が実施する教育に参加させた 5. 建災防以外の教育機関が実施する教育に参加させた 6. その他 () |
|---|----------|--|

最後に会社名等のご記入をお願いします。(調査内容についてお聞きさせていただくこともあります。)

会社名			従業員数	人
			資本金	万円
	業種		元請の経験	有り 無し
役職・氏名			会社所在地	都道府県
連絡先電話番号	()			

以上でアンケート調査は終了です。大変お忙しい中ご協力を賜り、ありがとうございました。

アンケート調査結果

1. 調査概要と回答者の属性

(1) 調査概要

①調査対象

建設産業専門団体連合会加盟団体の会員企業 850 社

②調査時期

平成 20 年 11 月～12 月

③発送・回収票数

発送：850 票、回収：557 票、回収率：65.5%

(2) 回答者の属性

①職種

回答会社の職種は、仕上系が 34%、躯体系が 31%と多い。

表 1-1 回答会社の職種分類と職種

職種分類	件数	比率(%)	職種	件数	比率(%)
躯体系	175	31.4	鳶土工	36	6.5
			型枠大工	20	3.6
			鉄筋	20	3.6
			鉄骨	33	5.9
			圧接	12	2.2
			圧送	16	2.9
			クレーン	16	2.9
			建具	22	3.9
仕上系	190	34.1	板金	17	3.1
			塗装	33	5.9
			左官	19	3.4
			タイル	16	2.9
			瓦	14	2.5
			内装	66	11.8
			防水	25	4.5
設備系	72	12.9	管	12	2.2
			消防施設	17	3.1
			標識	27	4.8
			断熱	16	2.9
土木系	120	21.5	基礎	23	4.1
			機械土工	16	2.9
			カッター	18	3.2
			アンカー	7	1.3
			造園	56	10.1
全体	557	100.0	全体	557	100.0

②資本金と従業員数

回答会社の資本金階層は、1,000万円以上2,000万円未満が33%、2,000万円以上5,000万円未満が31%と多い。従業員数は、20人以上50人未満が30%と多い。

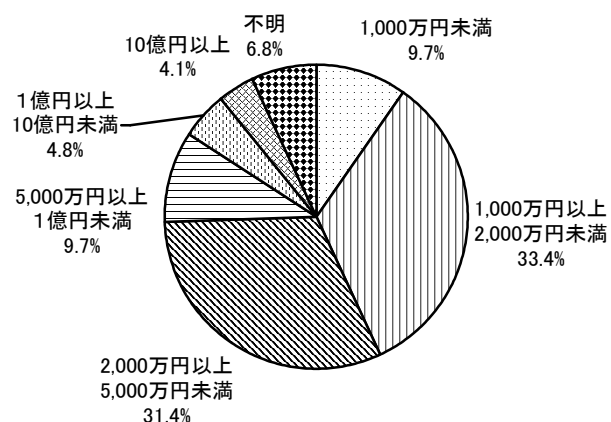


図 1-1 回答会社の資本金

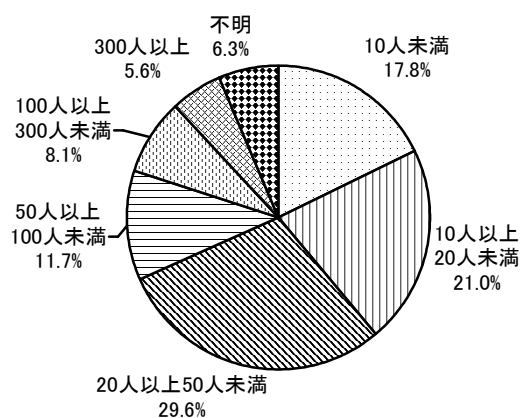


図 1-2 回答会社の従業員数

④元請の経験

回答会社における元請の経験は、有りが60%と多い。

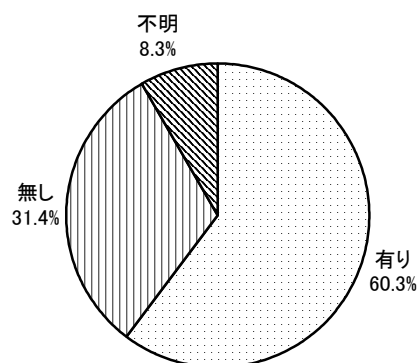


図 1-3 回答会社における元請の経験

⑤会社所在地

回答会社の会社所在地は、関東が27%と多い。

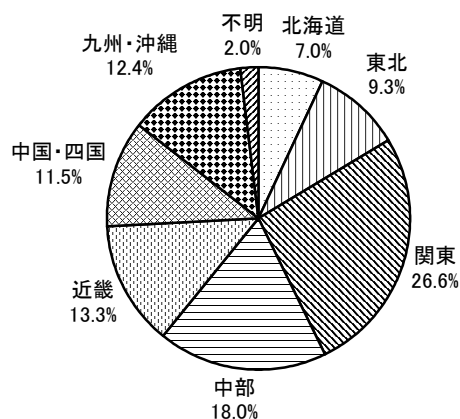


図 1-4 回答会社の会社所在地

2. リスクアセスメント実施状況（問1）

問1 労働安全衛生法では、平成18年4月から「危険性又は有害性等の調査」（本調査票では「リスクアセスメント」という。）の実施が努力義務となっています。
 あなたの会社では、リスクアセスメントについて現在どのような状況ですか。会社及び現場について該当するものを一つだけ選び数字に○をつけてください。

1. 会社と現場で実施している
2. 会社で実施し、現場では実施していない
3. 会社では実施せず、現場で実施している
4. 会社、現場のいずれも実施していない

リスクアセスメントの実施状況は、「会社と現場で実施している」が38%と多く、次いで「会社、現場のいずれも実施していない」が34%、「会社では実施せず、現場で実施している」が23%となっている。「会社で実施し、現場では実施していない」は5.2%とわずかである。会社と現場又はそのいずれかで実施している割合は、合わせて66%を占めている。

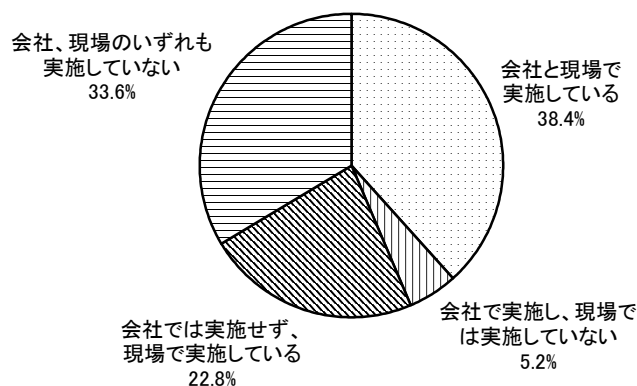


図 2-1 リスクアセスメント実施状況 (n=557)

リスクアセスメントの実施状況を職種分類別に見ると、会社と現場又はそのいずれかで実施している割合が高いのは躯体系であり、やや低いのは設備系である。

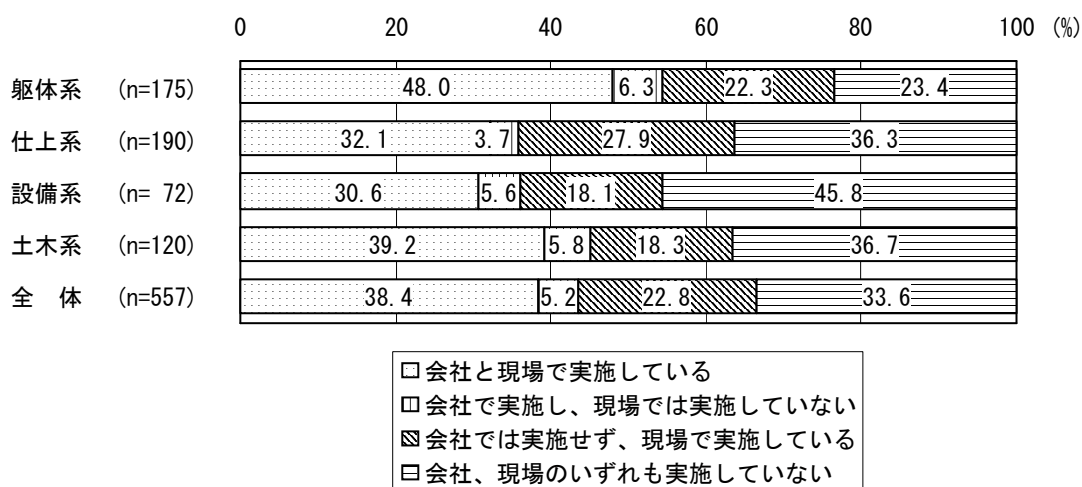


図 2-2 リスクアセスメント実施状況（職種分類別）

リスクアセスメントの実施状況を職種別に見ると、会社と現場又はそのいずれかで実施している割合が高い職種は、鳶土工、鉄筋、圧接、クレーン、左官、基礎（いずれも80%以上）であり、低い職種は、瓦、管、造園（いずれも50%以下）である。

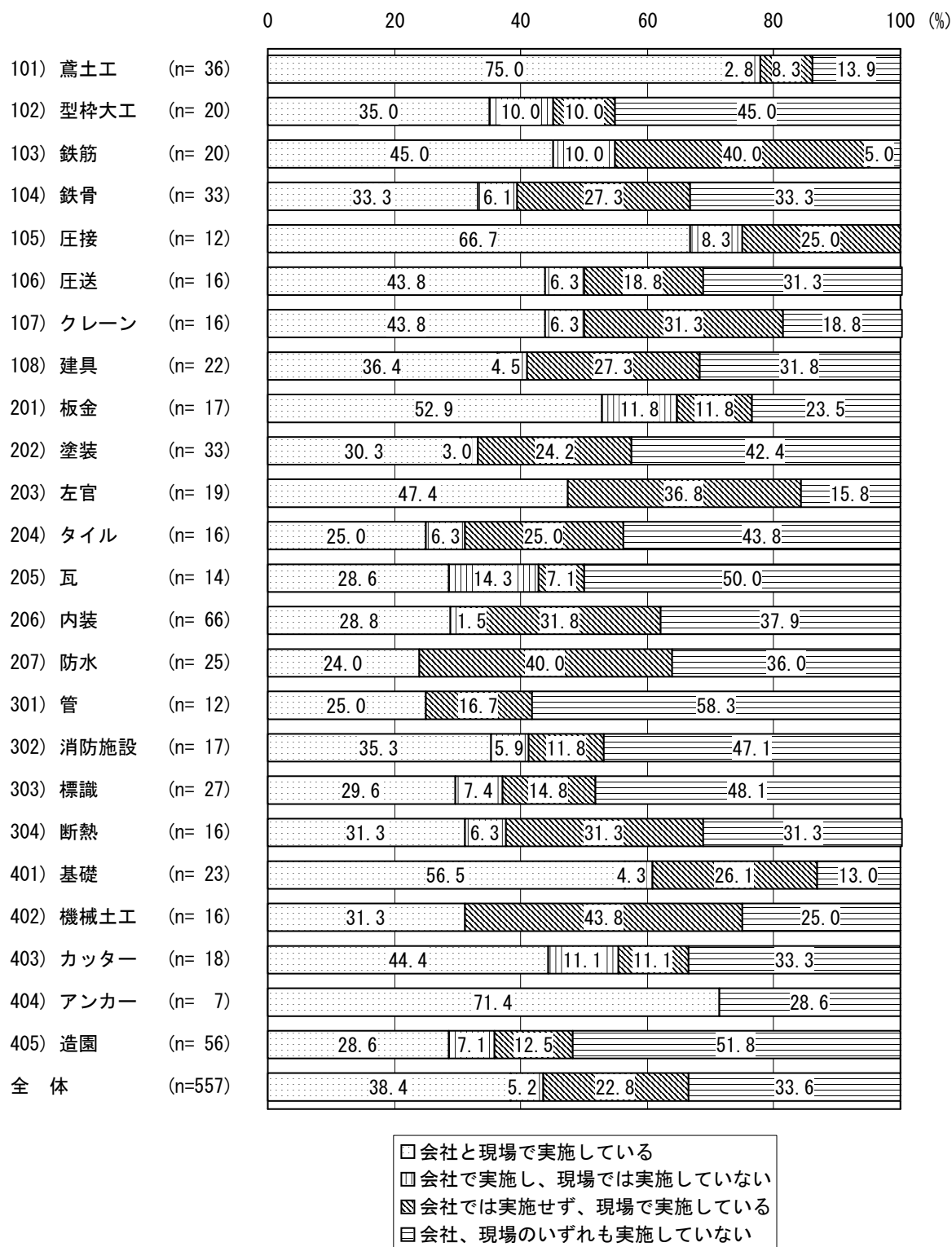


図 2-3 リスクアセスメント実施状況（職種別）

リスクアセスメントの実施状況を資本金階層別に見ると、会社と現場又はそのいずれかで実施している割合が高いのは資本金 5,000 万円以上の会社であり、やや低いのは資本金 1,000 万円未満の会社である。また、資本金 1 億円以上 10 億円未満の会社で、「会社では実施せず、現場で実施している」割合が「会社と現場で実施している」割合を大きく上回っていることが特徴的である。

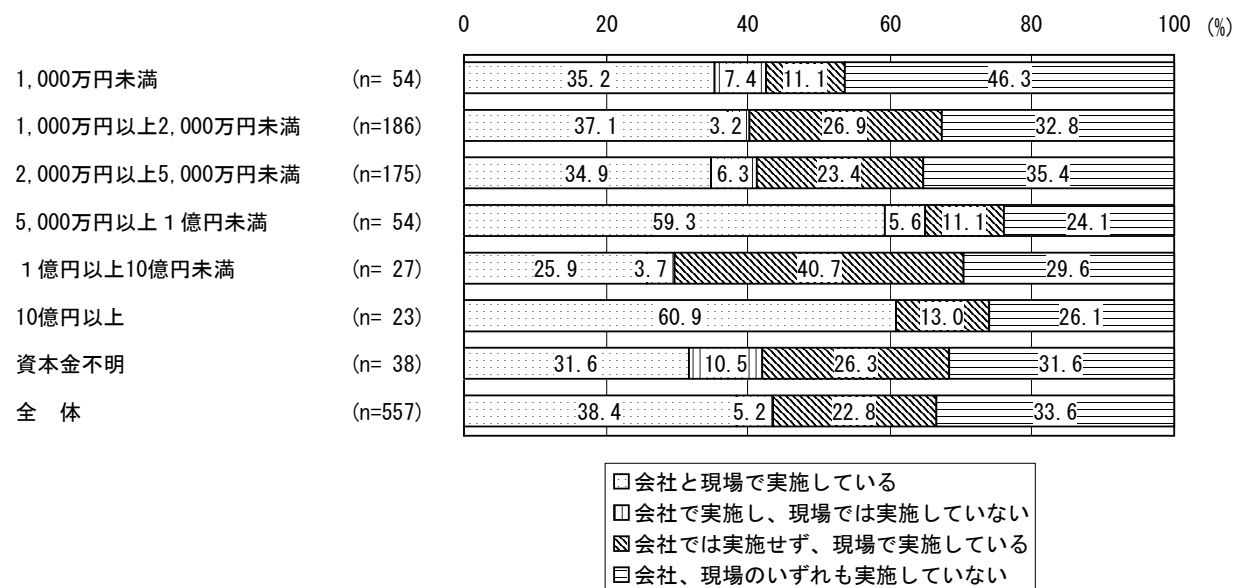


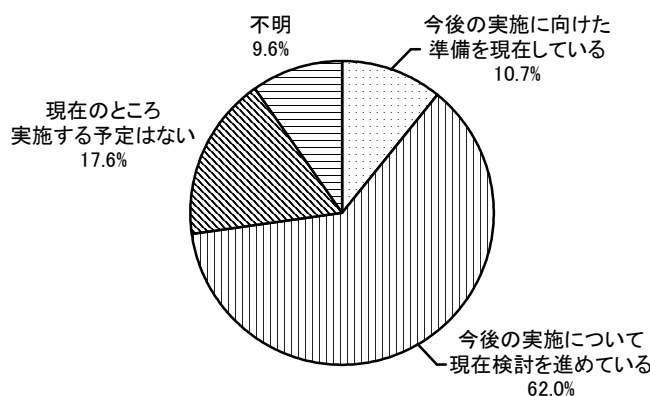
図 2-4 リスクアセスメント実施状況（資本金階層別）

(1) 「現在は実施していない」会社の今後についての考え (問 1-1)

問 1-1 「現在は実施していない」とのことですが、今後についてはどのような考えをお持ちでしょうか。該当するものを一つだけ選び数字に○をつけてください。

1. 今後の実施に向けた準備を現在している
2. 今後の実施について現在検討を進めている
3. 現在のところ実施する予定はない

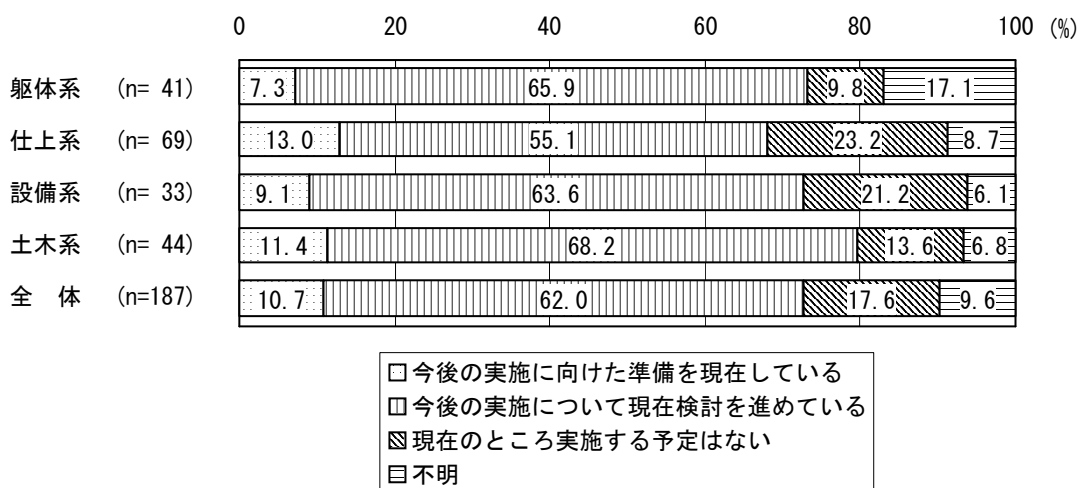
リスクアセスメントを「現在は実施していない」と回答した会社の今後についての考えは、「今後の実施について現在検討を進めている」が62%と多く、次いで「現在のところ実施する予定はない」が18%となっている。



注) サンプルは、会社、現場のいずれもリスクアセスメントを実施していないと回答した187社。

図 2-5 「現在は実施していない」会社の今後についての考え (n=187)

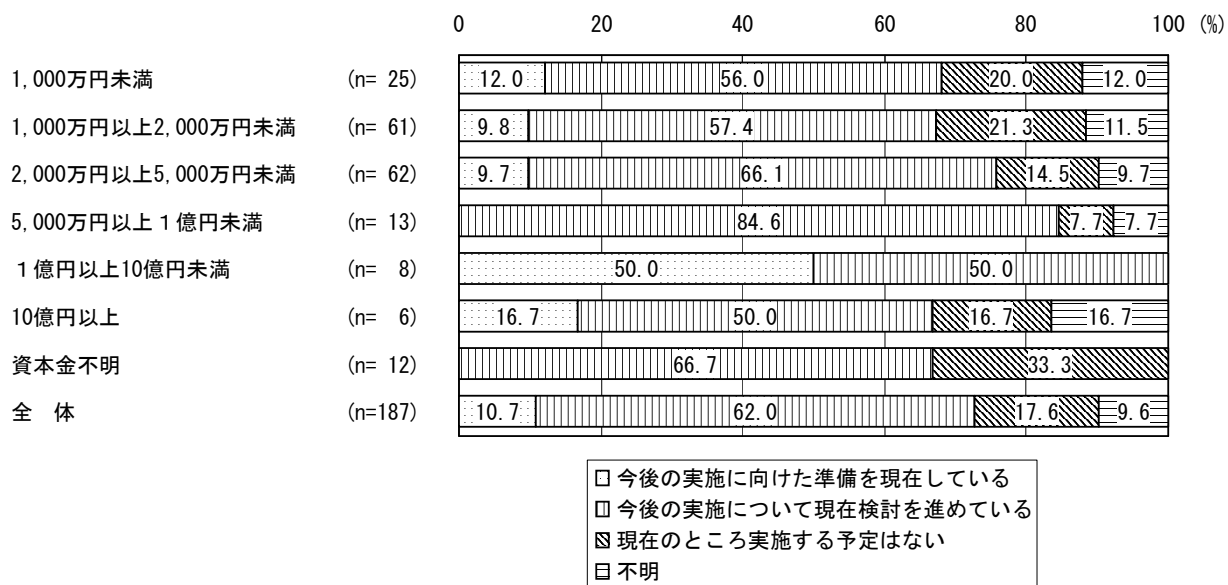
リスクアセスメントを「現在は実施していない」と回答した会社の今後についての考えを職種分類別に見ると、「現在準備している」又は「現在検討を進めている」といった実施に前向きな会社の割合は、土木系で高く、仕上系でやや低い。



注) サンプル数(n)は、会社、現場のいずれもリスクアセスメントを実施していないと回答した会社の数。

図 2-6 「現在は実施していない」会社の今後についての考え (職種分類別)

リスクアセスメントを「現在は実施していない」と回答した会社の今後についての考えを資本金階層別に見ると、資本金1億円未満の範囲で、資本金が大きくなるほど、「現在準備している」又は「現在検討を進めている」会社の割合が高くなる傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社、現場のいずれもリスクアセスメントを実施していないと回答した会社の数。

図 2-7 「現在は実施していない」会社の今後についての考え（資本金階層別）

リスクアセスメントを「現在のところ実施する予定はない」と回答した 33 社のうち、その理由について記述のあった 27 社の記述内容は以下の通り。

理由として、「元請（ゼネコン）の実施に従っているから」などが挙げられている。

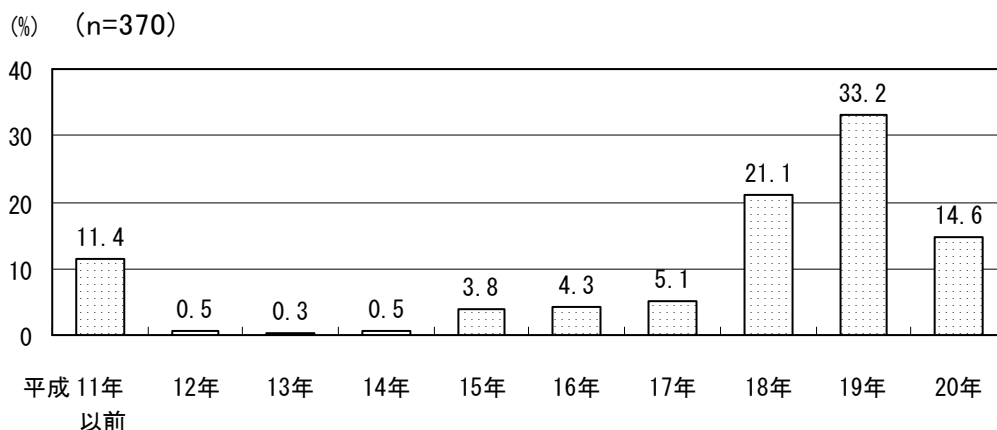
表 2-1 「現在のところ実施する予定はない」理由の記述回答

職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	会社で行っている危険予防活動で間に合っていると思う。あとは元請の仕事です。	圧送
	2	すべて現場（ゼネコン）にまかされている。当社はそこへ従事する者に注意のみ。	圧送
	3	当社は製造メーカーであり、建設工事を伴う業務にたずさわっていない。	建具
	4	実施する準備ができていないため。	建具
仕上系	5	災害防止の手法として、その必要性を感じない。	板金
	6	現場も少なくあまり作用もして居ないので。	塗装
	7	当社は専門の安全管理担当者を置く会社の規模ではなく、安全に対する意識は各現場で持っているが、このようなリスクアセスメントとして理論づけていない。	塗装
	8	ゼネコン側の書式を使い実施している為リスクアセスメントは、自社書式としての実施予定はありませんでした。	左官
	9	建災防の資料を積極的に社員に渡して通告を行っている。リスクアセスメントは請元会社に従って行う。自社の瓦替等（修理）の足場設置費用確保が先決問題です。	瓦
	10	会社で実施する予定はないが、建災防・その他教育機関・元請等が実施する教育には、参加させる用意はある。	瓦
	11	リスクアセスメント関連が無い。	内装
	12	危険性又は有害性のあるものは使用していないし、定期的に大手企業の安全講習会を受けている。	内装
	13	危険性の少ない業種であり、当社は大半が民家であるから必要性が少ない。	内装
	14	直接請負した会社、企業が指導する為、自社では実施していません。	内装
	15	あまり必要としない為。ある程度実施出来ている。	内装
	16	元請の指導にて現場で実施しています。	内装
	17	現場管理者、作業者の判断に任せている。	内装
	18	必要性が無い。	防水
設備系	19	元請会社で実施？	管
	20	昭和 30 年より各自が注意していて事故が皆無である為。	管
	21	元請で入る工事は殆んどなく、現場・元請の状況で対応が異なるので、元請・現場毎の安全活動にて実施している。	消防施設
	22	調査の内容がわからない。	標識
土木系	23	経営者による。	造園
	24	会社からの指示がない。	造園
	25	費用と時間がかかると思う。必然性が感じられない。	造園
	26	具体的なところがわからない。	造園
	27	リスクアセスメントがどのようなものを具体的に理解するのがむずかしいから。	造園

3. リスクアセスメント導入年次（問2）

問2 あなたの会社でリスクアセスメントを導入したのはいつからですか。導入した年次をご記入ください。
平成（ ）年から

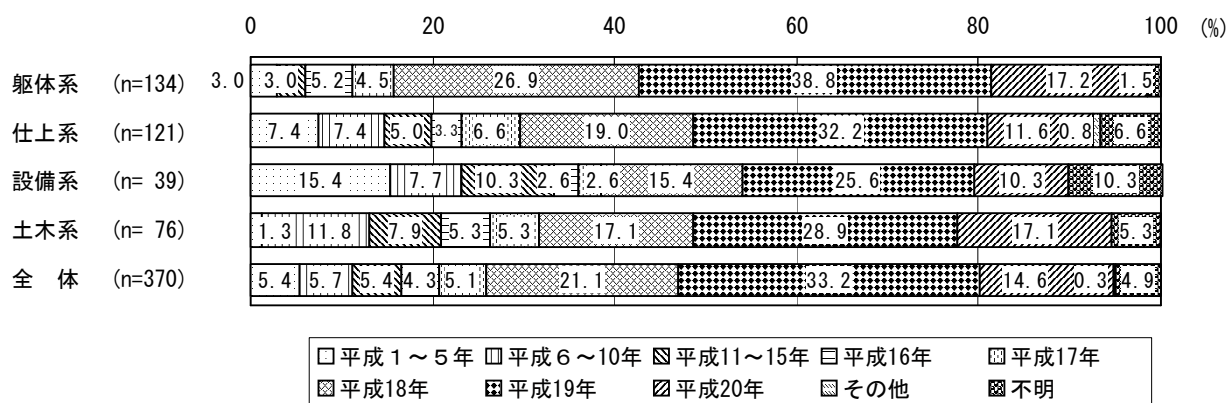
リスクアセスメントを導入した年次は、「平成19年」が33%と最も多く、次いで「平成18年」が21%、「平成20年」が15%となっている。労働安全衛生法の改正があった「平成18年」以後に導入した会社が、合わせて69%を占めている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した370社。

図3-1 リスクアセスメント導入年次

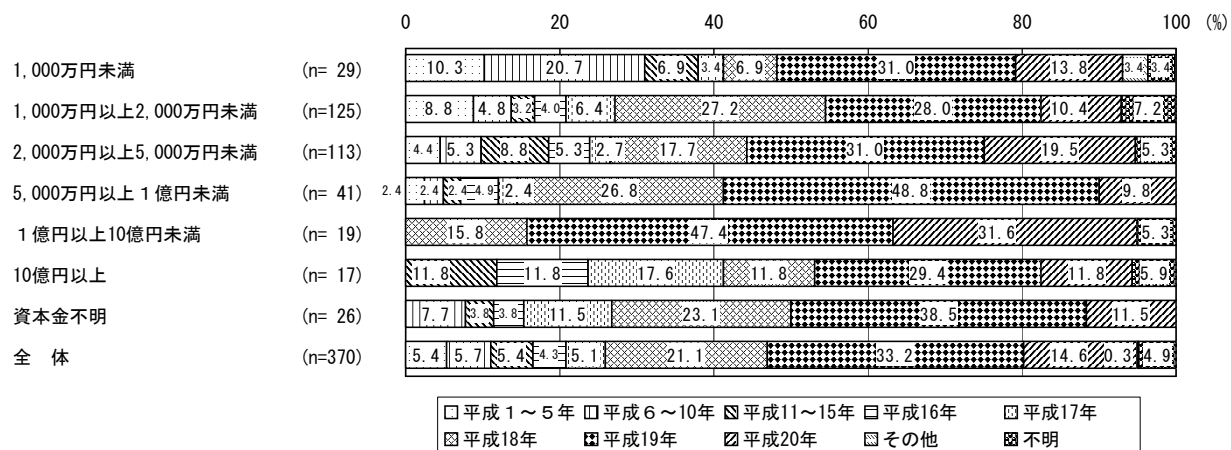
リスクアセスメントを導入した年次を職種分類別に見ると、軀体系では8割以上の会社が平成18年以後に導入しているが、設備系では平成17年以前に導入した会社が約4割と比較的多い。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図3-2 リスクアセスメント導入年次（職種分類別）

リスクアセスメントを導入した年次を資本金階層別に見ると、資本金 10 億円未満の範囲で、資本金が大きくなるほど、平成 18 年以後に導入した会社の割合が高くなる傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

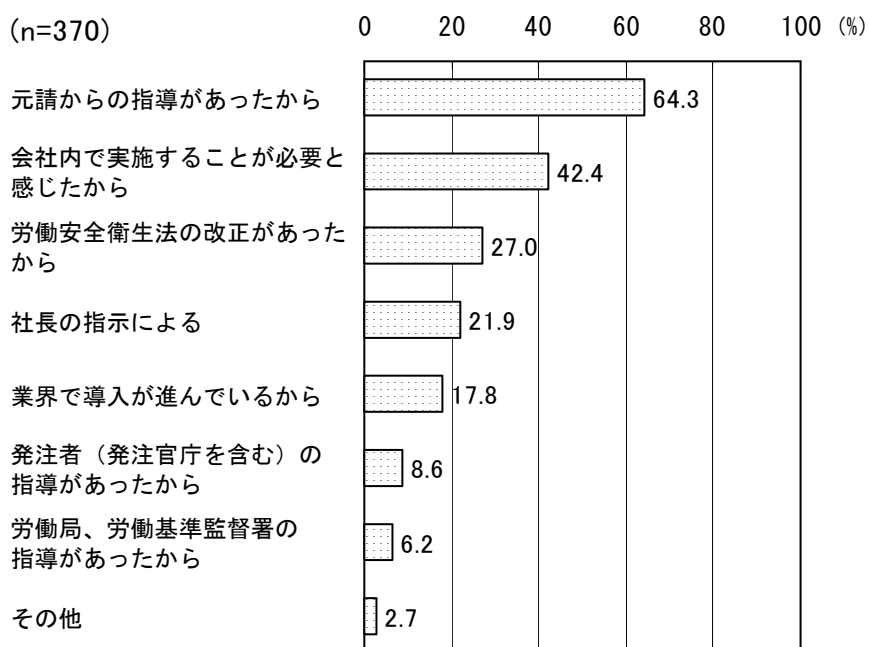
図 3-3 リスクアセスメント導入年次（資本金階層別）

4. リスクアセスメント導入のきっかけ（問3）

問3 リスクアセスメントを導入したきっかけは何ですか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 社長の指示による
2. 会社内で実施することが必要と感じたから
3. 元請からの指導があったから
4. 発注者（発注官庁を含む）の指導があったから
5. 労働安全衛生法の改正があったから
6. 労働局、労働基準監督署の指導があったから
7. 業界で導入が進んでいるから
8. その他（ ）

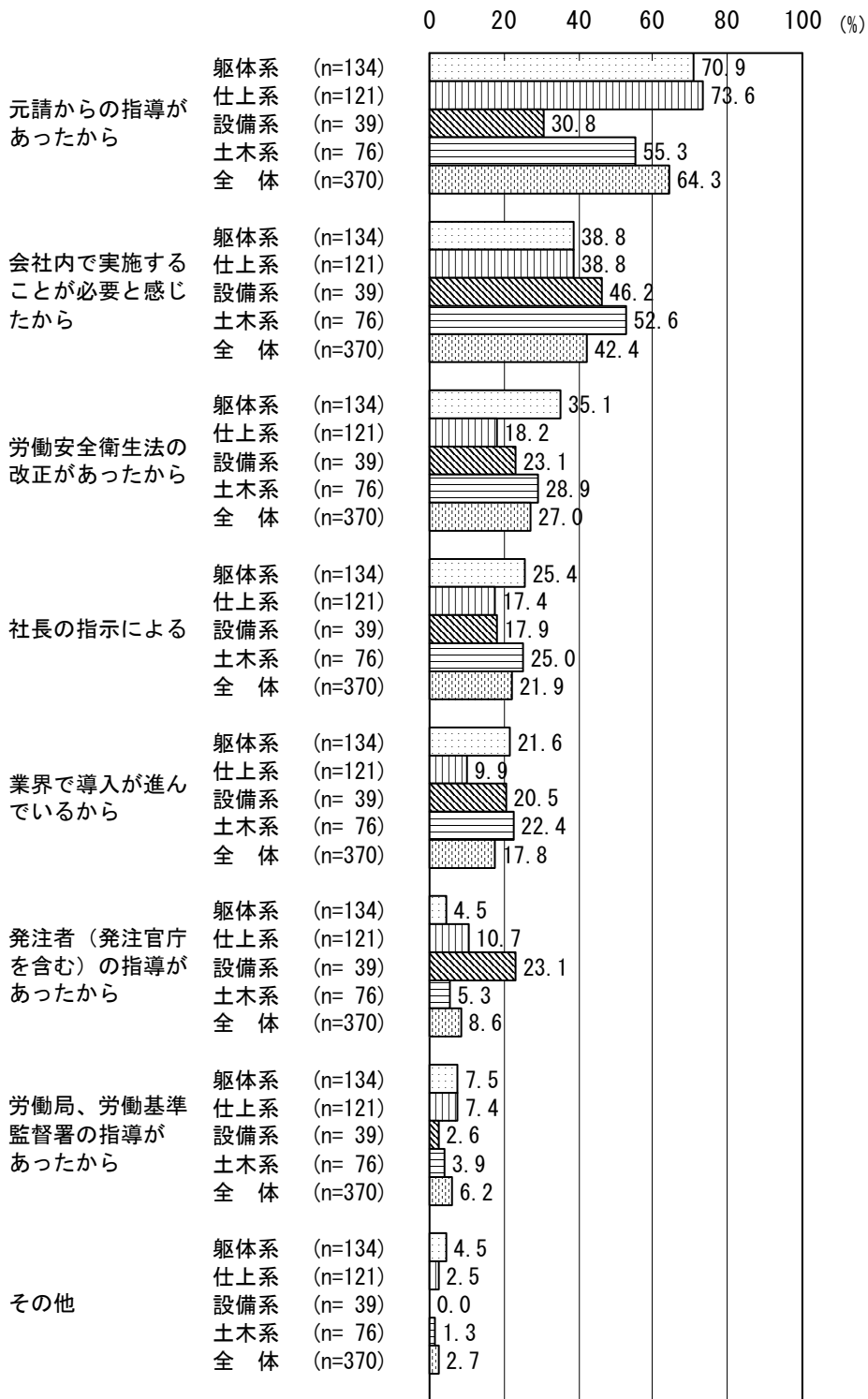
リスクアセスメントを導入したきっかけは、「元請からの指導があったから」が64%と最も多く、次いで「会社内で実施することが必要と感じたから」が42%、「労働安全衛生法の改正があったから」が27%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した370社。

図 4-1 リスクアセスメント導入のきっかけ（複数回答）

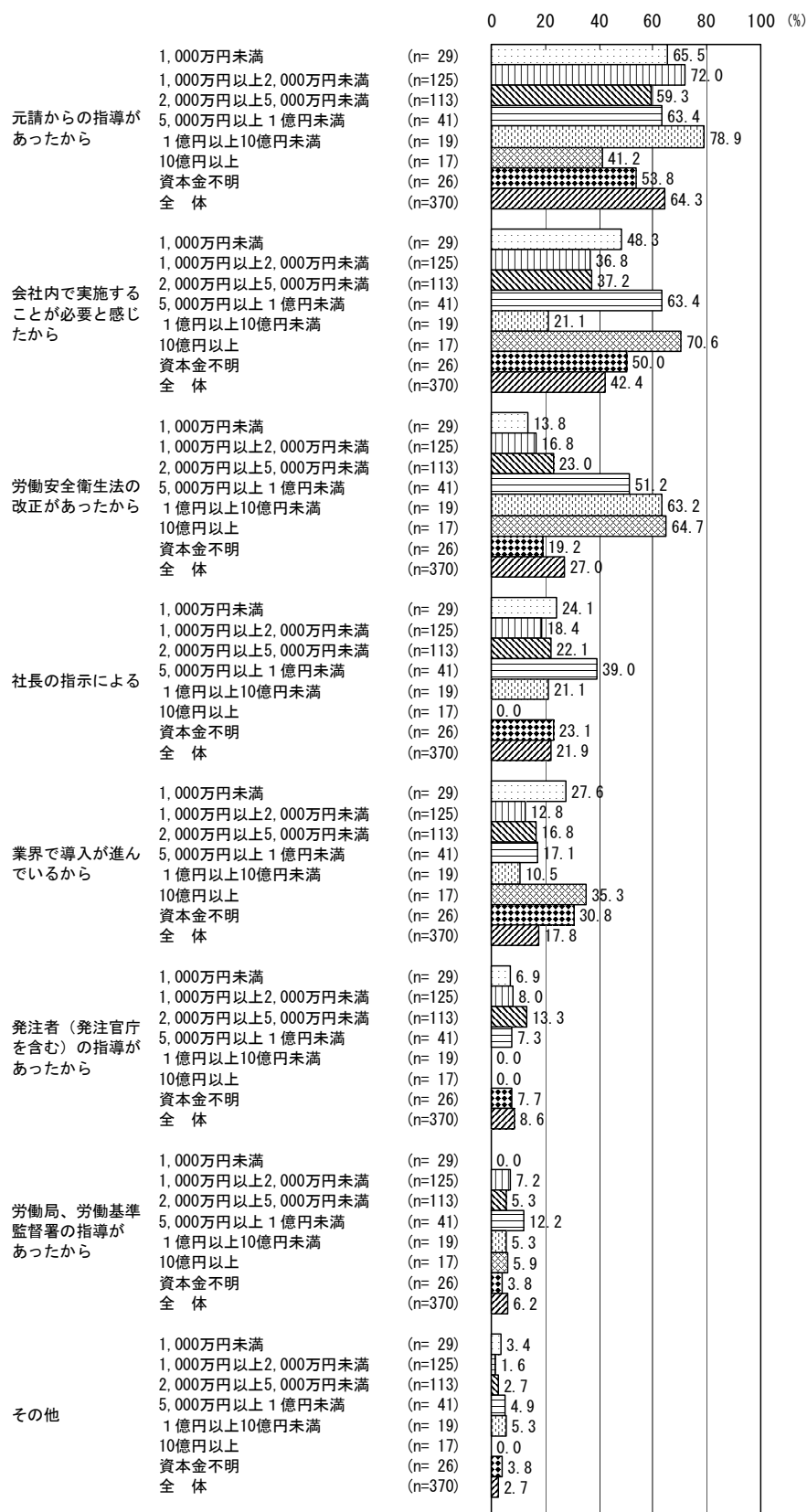
リスクアセスメントを導入したきっかけを職種分類別に見ると、躯体系と仕上系では「元請からの指導があったから」が7割以上と特に多いが、設備系では「会社内で実施することが必要と感じたから」が最も多く、「元請からの指導があったから」は3割とそれほど多くない。「労働安全衛生法の改正があったから」は、躯体系で比較的多い。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 4-2 リスクアセスメント導入のきっかけ（職種分類別、複数回答）

リスクアセスメントを導入したきっかけを資本金階層別に見ると、資本金が大きくなるほど、「労働安全衛生法の改正があったから」とする会社の割合が高くなる傾向が顕著に見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 4-3 リスクアセスメント導入のきっかけ（資本金階層別、複数回答）

リスクアセスメントを導入したきっかけについて、「その他」と回答した 10 社の記述内容は以下の通り。

表 4-1 リスクアセスメント導入のきっかけ「その他」の記述回答

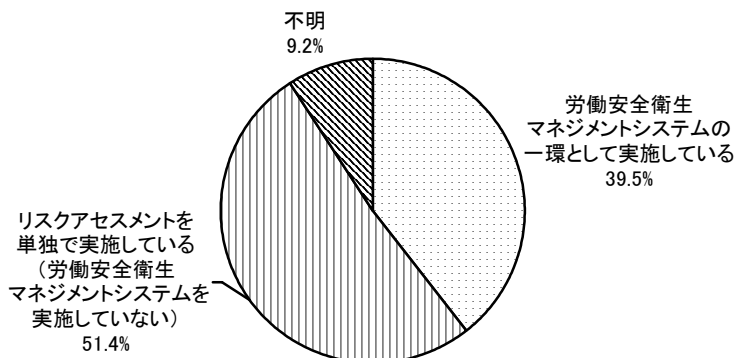
職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	工務会（職長会）	型枠大工
	2	従来からヒヤリハット及び危険予知活動を推進しており導入が容易だった。	鉄骨
	3	建災防・群馬支部の指導により	鉄骨
	4	元請への提出書類に必然的にリスクアセスメントでの手順書が必要なため。	クレーン
	5	平成元年以前より毎月 1 回全社員による安全会議において討論を実施。	クレーン
	6	安全衛生教育の一環として必要だったから。	クレーン
仕上系	7	コスモス導入と共に行うこととなった。	塗装
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・事故・ケガの発生から作業員を守るのは、事業者としてあたりまえのことだから。 ・あらためてリスクアセスメントを言われなくても考え方は昔からあったと思う。 	瓦
	9	組合活動の一環として	内装
土木系	10	建災防によるリスクアセスメント講習に出席し、その重要性を認識したから。	アンカー

5. リスクアセスメント実施方法（問4）

問4 リスクアセスメントはどのような方法で実施していますか。該当する数字に○をつけてください。

1. 労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している
2. リスクアセスメントを単独で実施している
(労働安全衛生マネジメントシステムを実施していない)

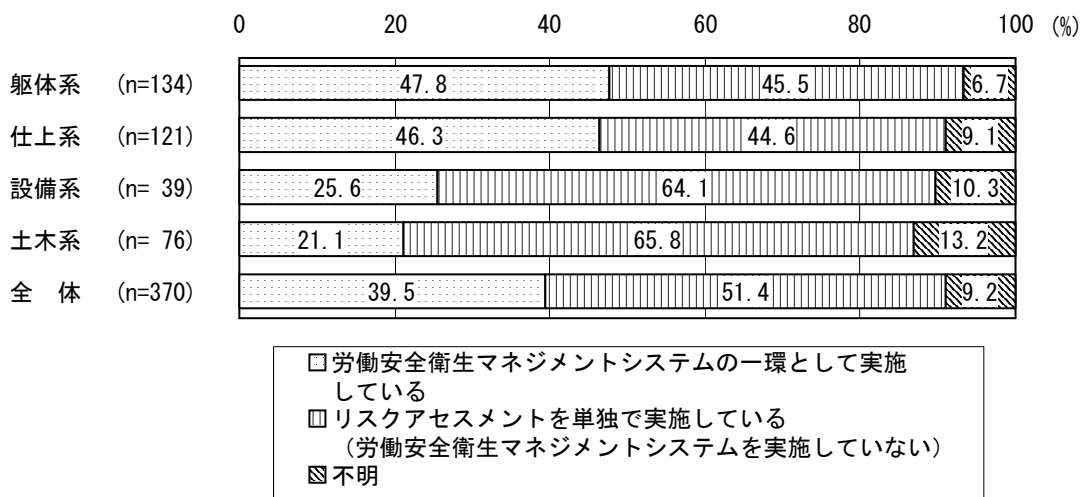
リスクアセスメントの実施方法は、「リスクアセスメントを単独で実施している」が51%と多く、「労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している」は40%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した 370 社。

図 5-1 リスクアセスメント実施方法 (n=370)

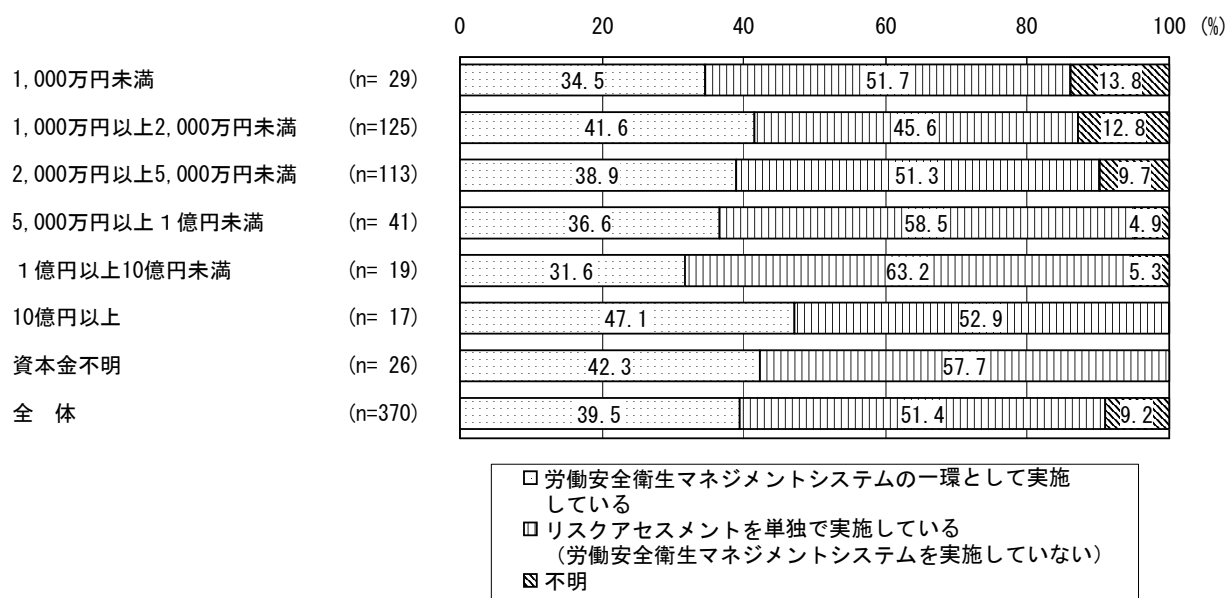
リスクアセスメントの実施方法を職種分類別に見ると、躯体系、仕上系では「労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している」と「リスクアセスメントを単独で実施している」がほぼ半々であるが、設備系、土木系では「労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している」は2割程度と少ない。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 5-2 リスクアセスメント実施方法（職種分類別）

リスクアセスメントの実施方法を資本金階層別に見ると、資本金 1,000 万円以上 10 億円未満の範囲で、資本金が大きくなるほど、「リスクアセスメントを単独で実施している」会社の割合が高くなる傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

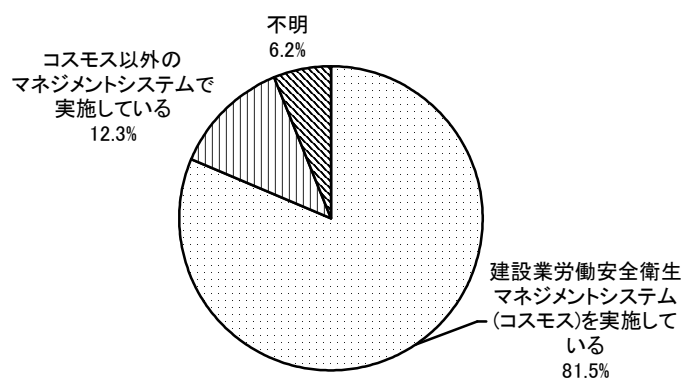
図 5-3 リスクアセスメント実施方法 (資本金階層別)

6. 労働安全衛生マネジメントシステムの種類（問5）

問5 問4で「1. 労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している」と回答された方にお聞きします。
 労働安全衛生マネジメントシステムの種類はなんですか。該当する数字に○をつけてください。

1. 建設業労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)を実施している
2. コスモス以外のマネジメントシステムで実施している

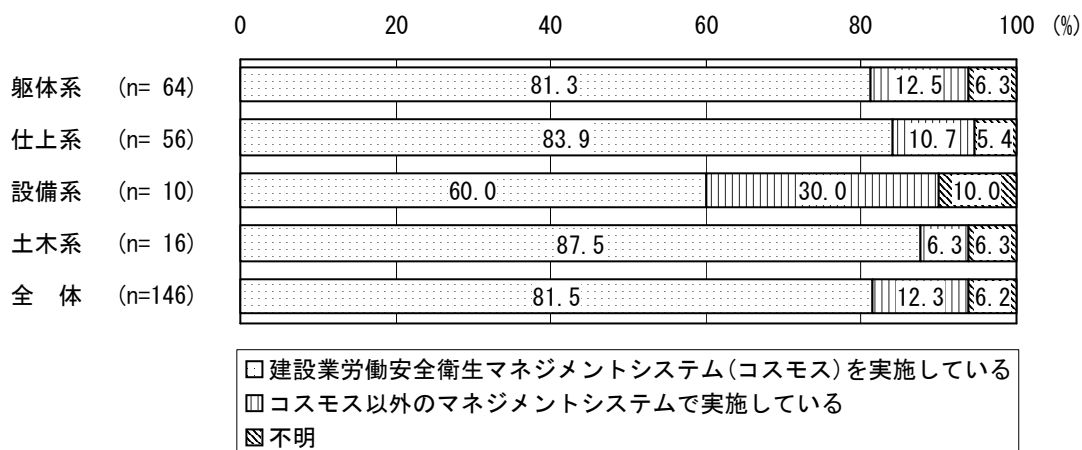
リスクアセスメントを「労働安全衛生マネジメントシステムの一環として実施している」と回答した会社におけるマネジメントシステムの種類は、「建設業労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)」が82%と圧倒的に多くなっている。



注) サンプルは、労働安全衛生マネジメントシステムの一環としてリスクアセスメントを実施していると回答した146社。

図 6-1 労働安全衛生マネジメントシステムの種類 (n=146)

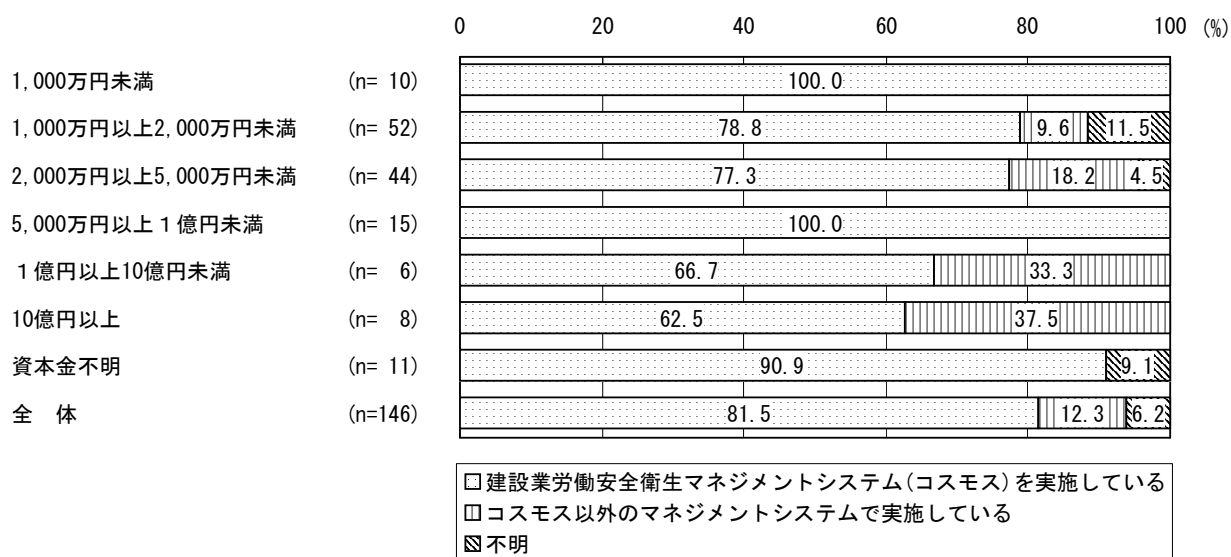
労働安全衛生マネジメントシステムの種類を職種分類別に見ると、設備系では「コスモス以外のマネジメントシステム」が3割と比較的多い。



注) サンプル数(n)は、労働安全衛生マネジメントシステムの一環としてリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 6-2 労働安全衛生マネジメントシステムの種類（職種分類別）

労働安全衛生マネジメントシステムの種類を資本金階層別に見ると、「コスモス以外のマネジメントシステム」は、資本金1億円以上の会社で比較的多い。



注) サンプル数(n)は、労働安全衛生マネジメントシステムの一環としてリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 6-3 労働安全衛生マネジメントシステムの種類（資本金階層別）

「コスモス以外のマネジメントシステムで実施している」と答えた18社のうち、そのシステムについて記述のあった10社の記述内容は以下の通り。

コスモス以外のマネジメントシステムとしては、「OSHMS」などが挙げられている。

表 6-1 コスモス以外のマネジメントシステムの記述回答

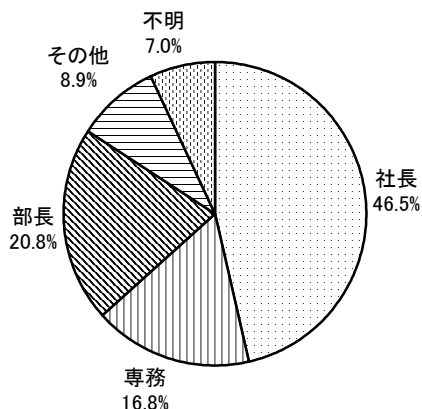
職種分類	記述内容	職種
躯体系	1 元請のシステムで実施。	鳶土工
	2 ISO取得に伴いマネジメントシステムの一環として実施。	鉄筋
	3 コスモス以外の厚労省指針と元請主導を複合作成されたもの。	鉄骨
	4 自社での教育、システムとしては構築できていない。	クレーン
	5 実施率はまだまだ低い。	建具
	6 OSHMS（厚労省版）に業界統一のリスクアセスメントKYの考え方を推進している。	建具
仕上系	7 元請指導のOSHMS	左官
	8 たんぼぼ計画の一部で実施。	内装
設備系	9 OSHMS	消防施設
	10 元請の指導教育プログラム	断熱

7. 会社におけるリスクアセスメントの実施状況（問6）

（1）総括責任者及び実務責任者の職名（問6-1）

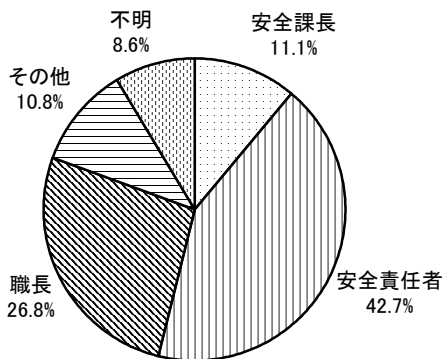
問 6-1 会社で実施するリスクアセスメントの総括責任者及び実務責任者の職名はなんですか。それぞれ該当する数字に○をつけてください。	
	職 名
総括責任者	1. 社長 2. 専務 3. 部長 4. その他（ ）
実務責任者	1. 安全課長 2. 安全責任者 3. 職長 4. その他（ ）

会社で実施するリスクアセスメントの総括責任者は、「社長」が47%と最も多く、次いで「部長」が21%となっている。一方、実務責任者は、「安全責任者」が43%と最も多く、次いで「職長」が27%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した 370 社。

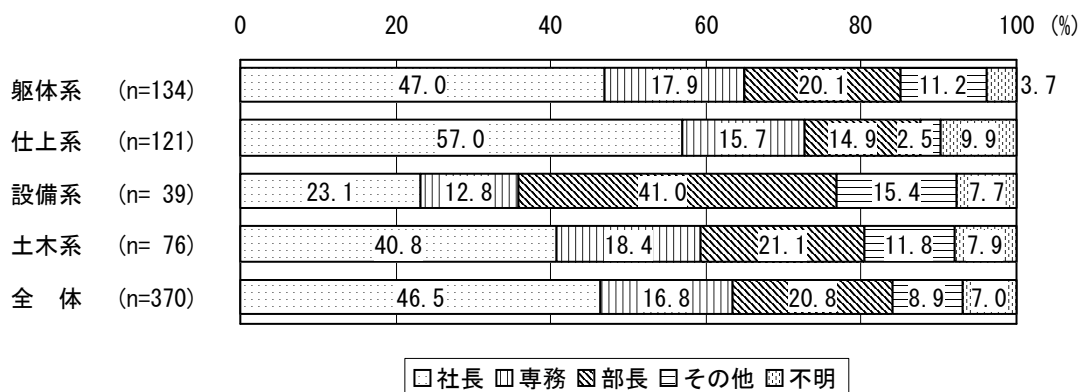
図 7-1 総括責任者の職名 (n=370)



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した 370 社。

図 7-2 実務責任者の職名 (n=370)

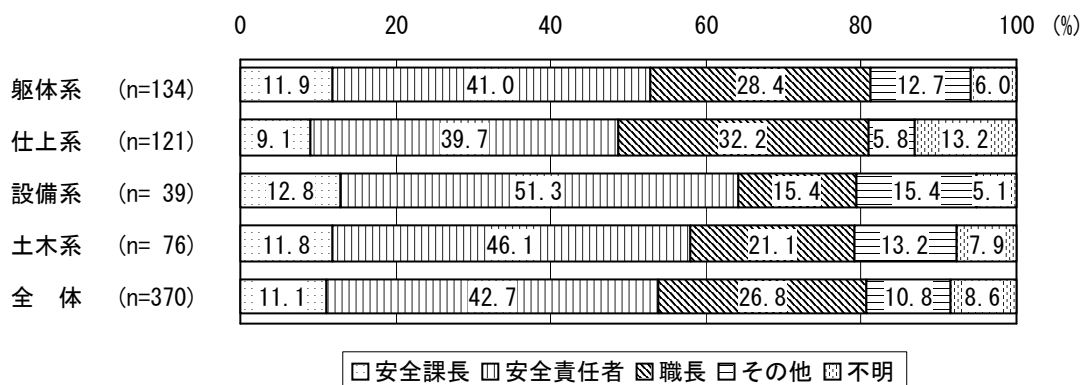
会社で実施するリスクアセスメントの総括責任者を職種分類別に見ると、仕上系では「社長」が特に多く、設備系では「社長」は少なく「部長」が多いことが特徴的である。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-3 総括責任者の職名 (職種分類別)

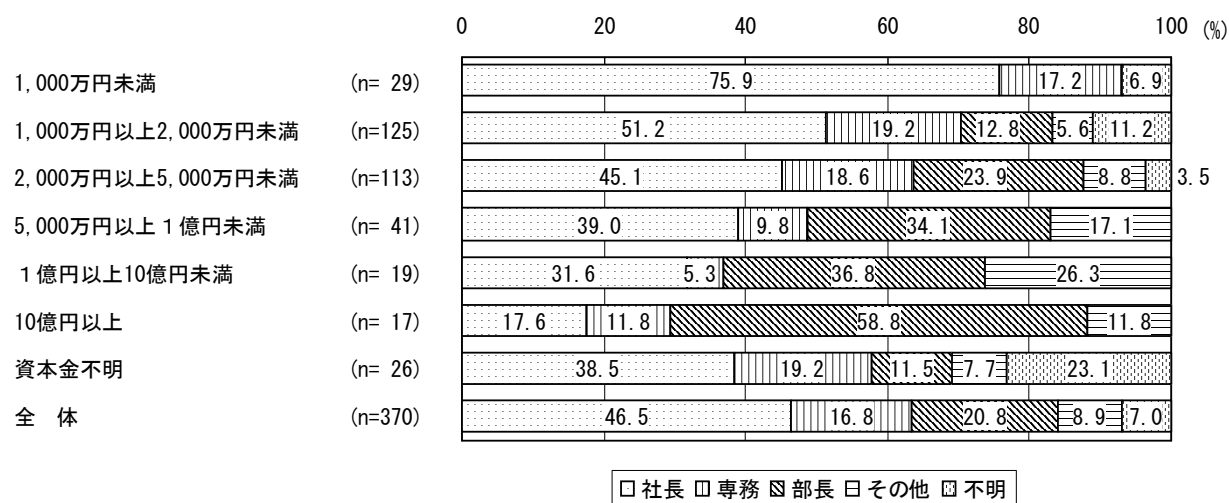
会社で実施するリスクアセスメントの実務責任者を職種分類別に見ると、軀体系、仕上系では「職長」が3割前後と比較的多い。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-4 実務責任者の職名 (職種分類別)

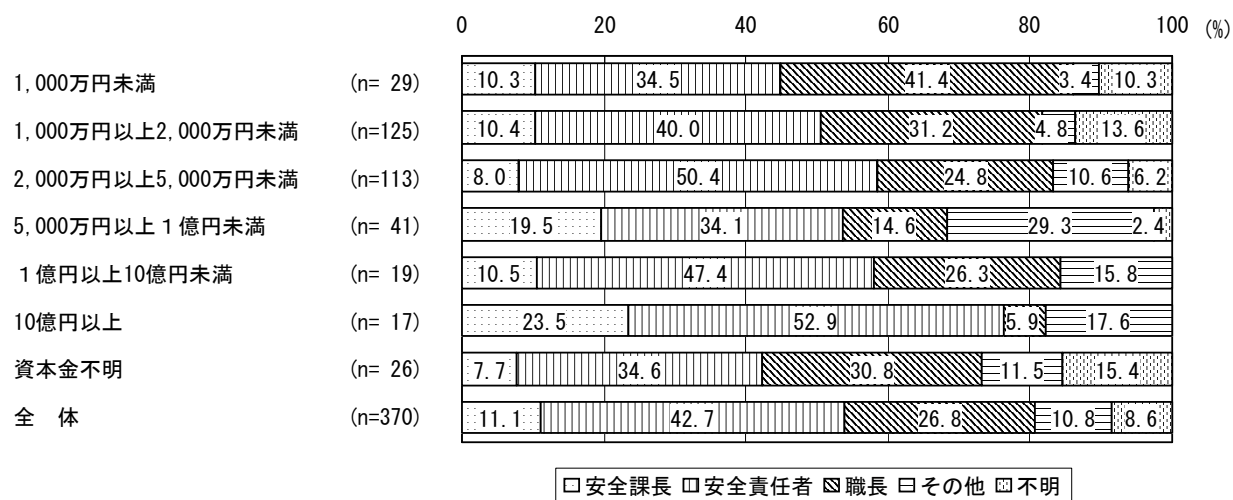
会社で実施するリスクアセスメントの総括責任者を資本金階層別に見ると、資本金が大きくなるほど、「社長」が減って「部長」が増える傾向が顕著に見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-5 総括責任者の職名 (資本金階層別)

会社で実施するリスクアセスメントの実務責任者を資本金階層別に見ると、資本金が小さい会社では「職長」が比較的多く、資本金が大きい会社では「安全責任者」が多くなる傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-6 実務責任者の職名 (資本金階層別)

会社で実施するリスクアセスメントの総括責任者の職名について、「その他」と回答した 33 社の記述内容は以下の通り。

表 7-1 総括責任者の職名「その他」の記述回答

職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	常務	鳶土工
	2	現場担当者	鳶土工
	3	副社長	鳶土工
	4	常務	鉄筋
	5	労務安全部次長	鉄筋
	6	常務	鉄骨
	7	現場管理者	鉄骨
	8	工場長	鉄骨
	9	課長	圧送
	10	所長	圧送
	11	本部長	建具
	12	工場長	建具
	13	決めるまでに至っていない。	建具
	14	常務	建具
	15	課長	建具
仕上系	16	常務	塗装
	17	安全管理者、衛生管理者	左官
	18	役員	内装
設備系	19	管理部長	管
	20	総括安全衛生管理者	消防施設
	21	常務	消防施設
	22	取締役常務	標識
	23	副社長	標識
	24	常務	断熱
土木系	25	常務	基礎
	26	安全衛生管理委員長	基礎
	27	本店長、支店長	基礎
	28	安全環境部長	機械土工
	29	常務取締役大阪本店長	機械土工
	30	常務	機械土工
	31	施工本部長	アンカー
	32	代表	造園
	33	事業主	造園

会社で実施するリスクアセスメントの実務責任者の職名について、「その他」と回答した 40 社のうち、記述のあった 39 社の記述内容は以下の通り。

表 7-2 実務責任者の職名「その他」の記述回答

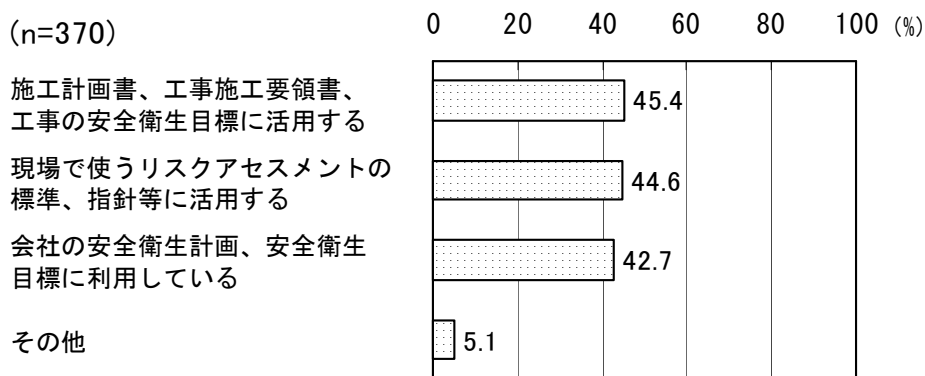
職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	工事部長	鳶土工
	2	工事副部長	鳶土工
	3	安全環境室長	鳶土工
	4	安全部長	鳶土工
	5	安全部長	鳶土工
	6	工事営業部長	型枠大工
	7	工事課長	型枠大工
	8	総務部長	型枠大工
	9	労務安全部長	型枠大工
	10	課長	鉄骨
	11	現場管理者	鉄骨
	12	安全対策室長	鉄骨
	13	安全部長	鉄骨
	14	安全衛生管理部長	鉄骨
	15	工場長等各事業部門の長	鉄骨
	16	専務	クレーン
	17	技術部長	建具
仕上系	18	部長	塗装
	19	社長	塗装
	20	安全衛生管理本部長	塗装
	21	専務	塗装
	22	総務部長	左官
	23	安全担当取締役	防水
設備系	24	工事責任者	管
	25	技術部長	消防施設
	26	各現場所長	標識
	27	部長	標識
	28	現場代理人	標識
	29	工事課長	標識
土木系	30	安全管理室長	基礎
	31	安全担当顧問	基礎
	32	作業手順書作成者	基礎
	33	土木部長・建築部長	機械土工
	34	作業所長	機械土工
	35	全員	カッター
	36	安全部長	アンカー
	37	現場担当者	造園
	38	代表	造園
	39	全員	造園

(2) リスクアセスメント結果の利用 (問 6-2)

問 6-2 会社で実施したリスクアセスメントの結果はどのように利用していますか。該当するすべての数字に○をつけてください。(これに関する資料等があればコピーを添付して下さい。)

1. 会社の安全衛生計画、安全衛生目標に利用している
2. 現場で使うリスクアセスメントの標準、指針等に活用する
3. 施工計画書、工事施工要領書、工事の安全衛生目標に活用する
4. その他 ()

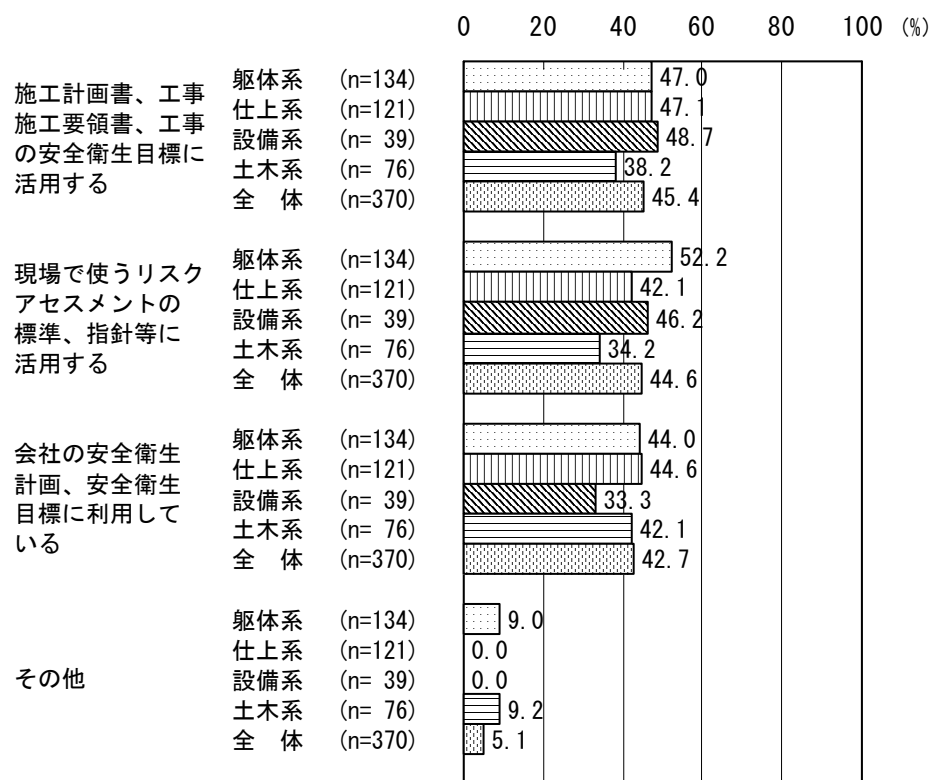
実施したリスクアセスメントの結果の利用方法は、「施工計画書、工事施工要領書、工事の安全衛生目標に活用する」が45%、「現場で使うリスクアセスメントの標準、指針等に活用する」が44%、「会社の安全衛生計画、安全衛生目標に利用している」が43%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した370社。

図 7-7 リスクアセスメント結果の利用 (複数回答)

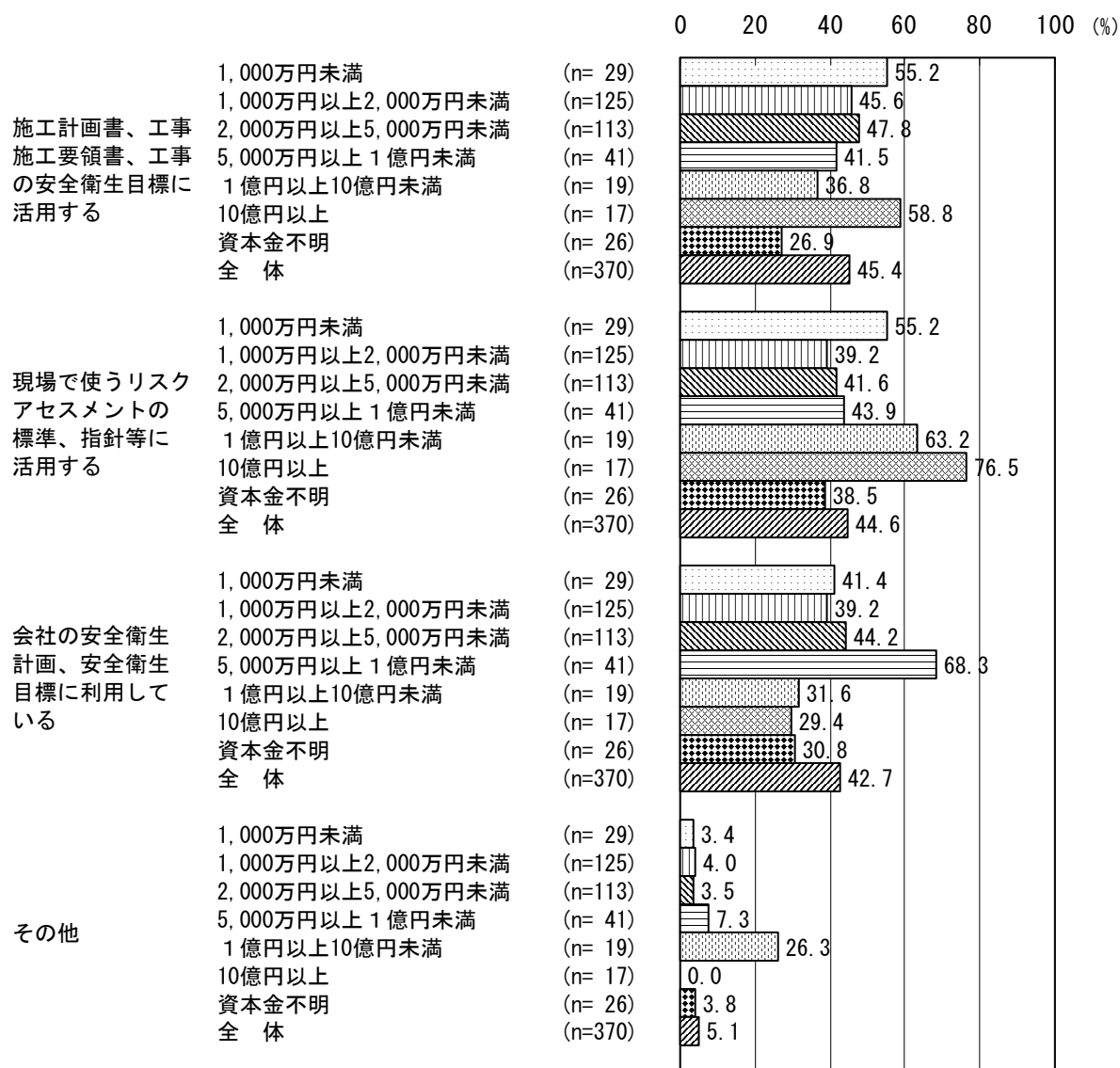
実施したリスクアセスメントの結果の利用方法を職種分類別に見ると、躯体系では「現場で使うリスクアセスメントの標準、指針等に活用する」が最も多く、土木系では「会社の安全衛生計画、安全衛生目標に利用している」が最も多い。



注) サンプル数 (n) は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-8 リスクアセスメント結果の利用 (職種分類別、複数回答)

実施したリスクアセスメントの結果の利用方法を資本金階層別に見ると、資本金 1 億円以上の会社では、1 億円未満の会社と比べて「現場で使うリスクアセスメントの標準、指針等に活用する」が多く、「会社の安全衛生計画、安全衛生目標に利用している」が少なくなっている。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-9 リスクアセスメント結果の利用 (資本金階層別、複数回答)

実施したリスクアセスメントの結果の利用方法について、「その他」と回答した 19 社の記述内容は以下の通り。

表 7-3 リスクアセスメント結果の利用「その他」の記述回答

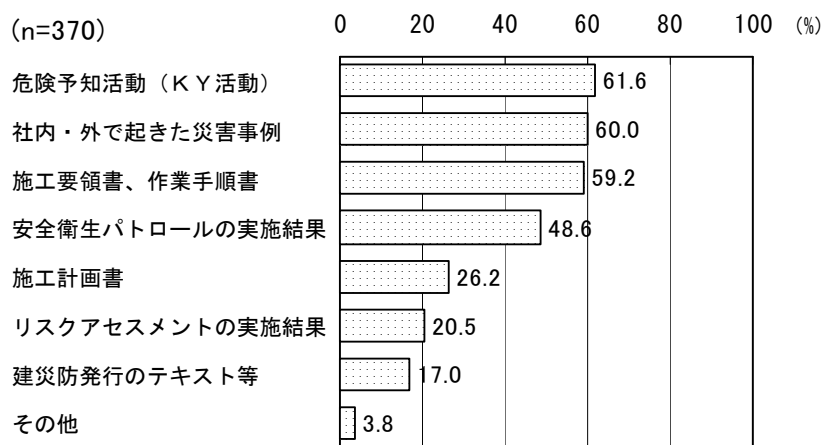
職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	毎日の危険予知活動に活用している。	鳶土工
	2	作業手順書	鳶土工
	3	作業手順書	鳶土工
	4	作業日報	型枠大工
	5	日々の作業に対して利用しています。	鉄筋
	6	現場における現地 KY 活動	鉄筋
	7	作業手順書	鉄筋
	8	毎日の作業で重点的に実施する災害防止行動目標に利用している。	鉄骨
	9	作業手順の改善、設備の改善に役立てる。	鉄骨
	10	コスモス導入初年度であり、上記 1 及び 2 のデータを集積中である。	鉄骨
	11	作業手順書	圧接
	12	会社の安全衛生教育	クレーン
土木系	13	作業手順書、KYKを各元請の書式にて実施している。	基礎
	14	作業標準書、単位作業手順書、災害・事故要因分析	基礎
	15	作業手順書	機械土工
	16	会社で実施していなくて現場でやっております。	機械土工
	17	作業手順書の作成時・KY活動時	アンカー
	18	現場パトロールに反映させています。	アンカー
	19	日々の安全意識	造園

(3) リスクアセスメント実施の参考 (問 6-3)

問 6-3 会社でリスクアセスメントを実施する際は何を参考にしていますか。該当するすべての数字に○をつけてください。また、その情報を会社で保存している場合には〔 〕内にレをつけてください。

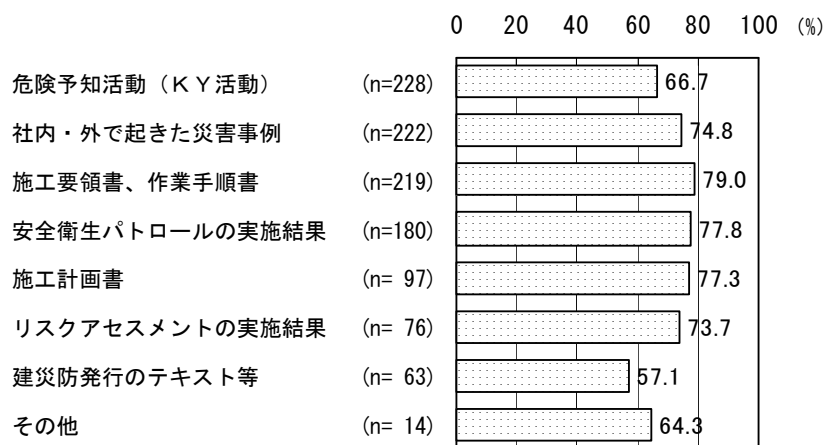
1. 社内・外で起きた災害事例	〔 〕	
2. リスクアセスメントの実施結果	〔 〕	
3. 施工要領書、作業手順書	〔 〕	
4. 施工計画書	〔 〕	
5. 危険予知活動 (KY活動)	〔 〕	
6. 安全衛生パトロールの実施結果	〔 〕	
7. 建災防発行のテキスト等	〔 〕	(テキスト名 :)
8. その他	〔 〕	(情報名 :)

リスクアセスメントを実施する際の参考情報として多いのは、「危険予知活動 (KY活動)」(62%)、「社内・外で起きた災害事例」(60%)、「施工要領書、作業手順書」(59%) などである。また、それらの情報で保存している割合が大きいのは、「施工要領書、作業手順書」(79%)、「安全衛生パトロールの実施結果」(78%)、「施工計画書」(77%) などである。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した 370 社。

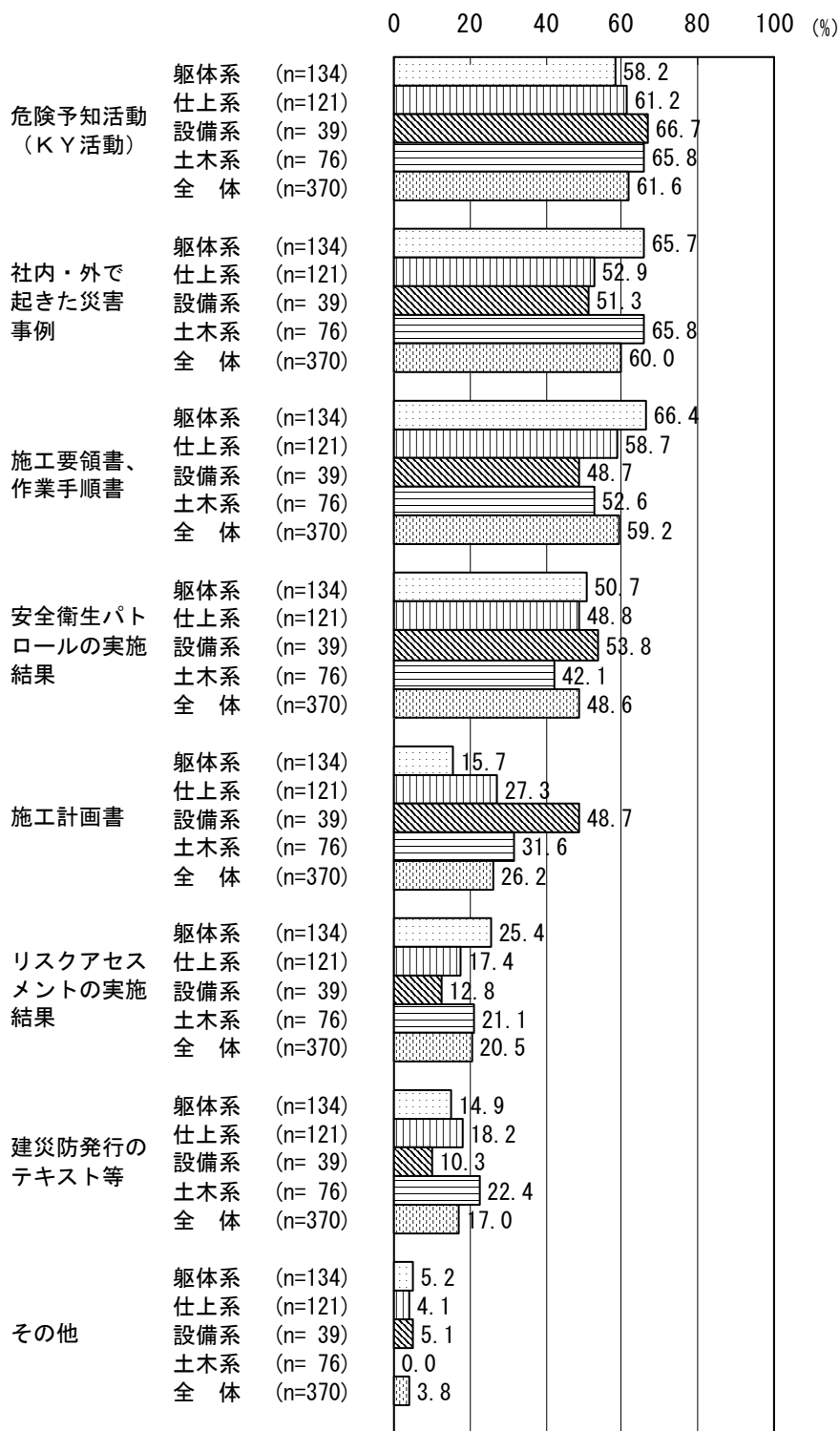
図 7-10 リスクアセスメントを実施する際の参考情報 (複数回答)



注) サンプル数 (n) は、当該情報をリスクアセスメント実施の参考にしていると回答した会社の数。

図 7-11 リスクアセスメントを実施する際の参考情報の保存状況

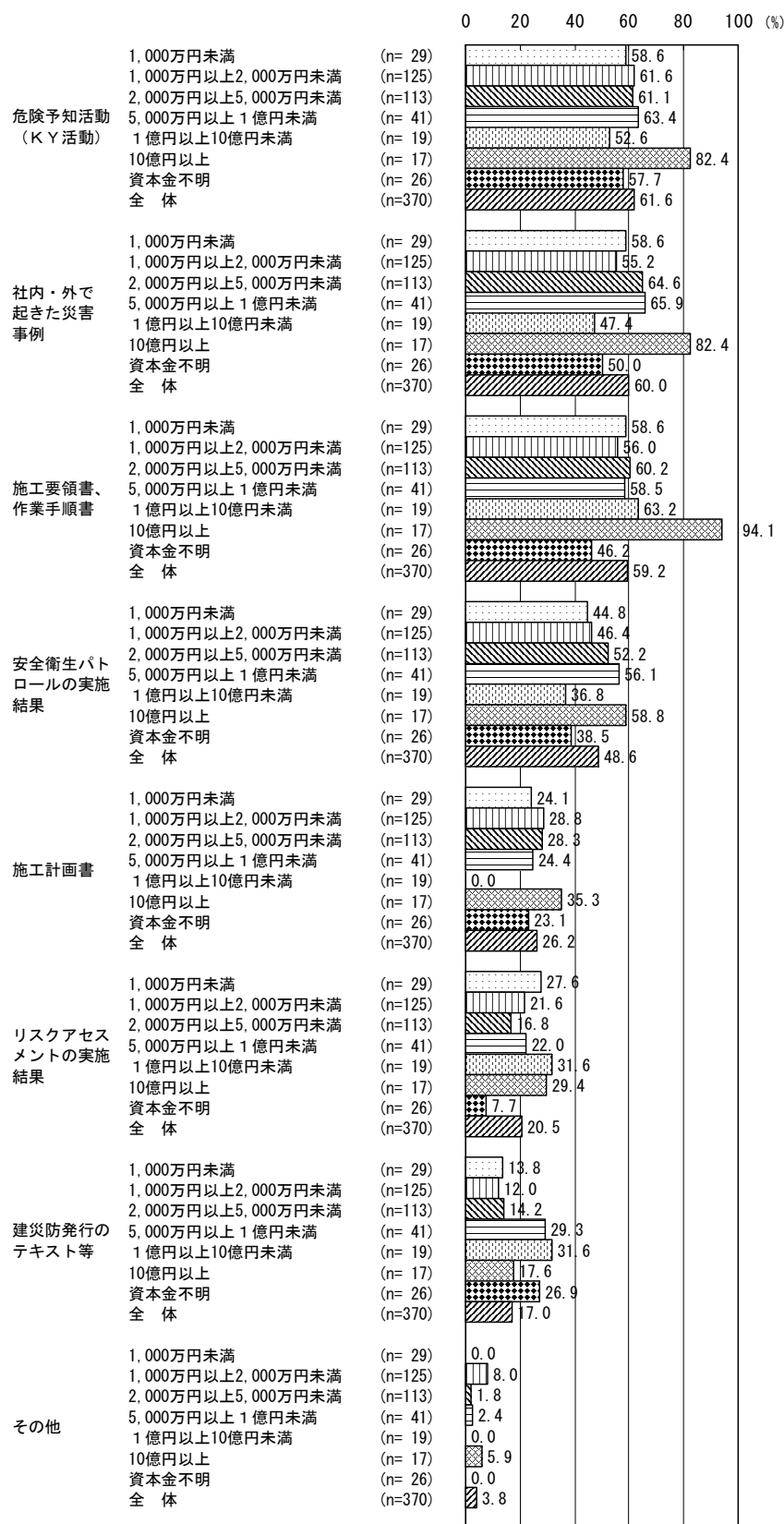
リスクアセスメントを実施する際の参考情報を職種分類別に見ると、躯体系では「施工要領書、作業手順書」と「社内・外で起きた災害事例」が多く、仕上系では「危険予知活動」と「施工要領書、作業手順書」、設備系では「危険予知活動」と「安全衛生パトロールの実施結果」、土木系では「危険予知活動」と「社内・外で起きた災害事例」が多くなっている。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-12 リスクアセスメントを実施する際の参考情報 (職種分類別、複数回答)

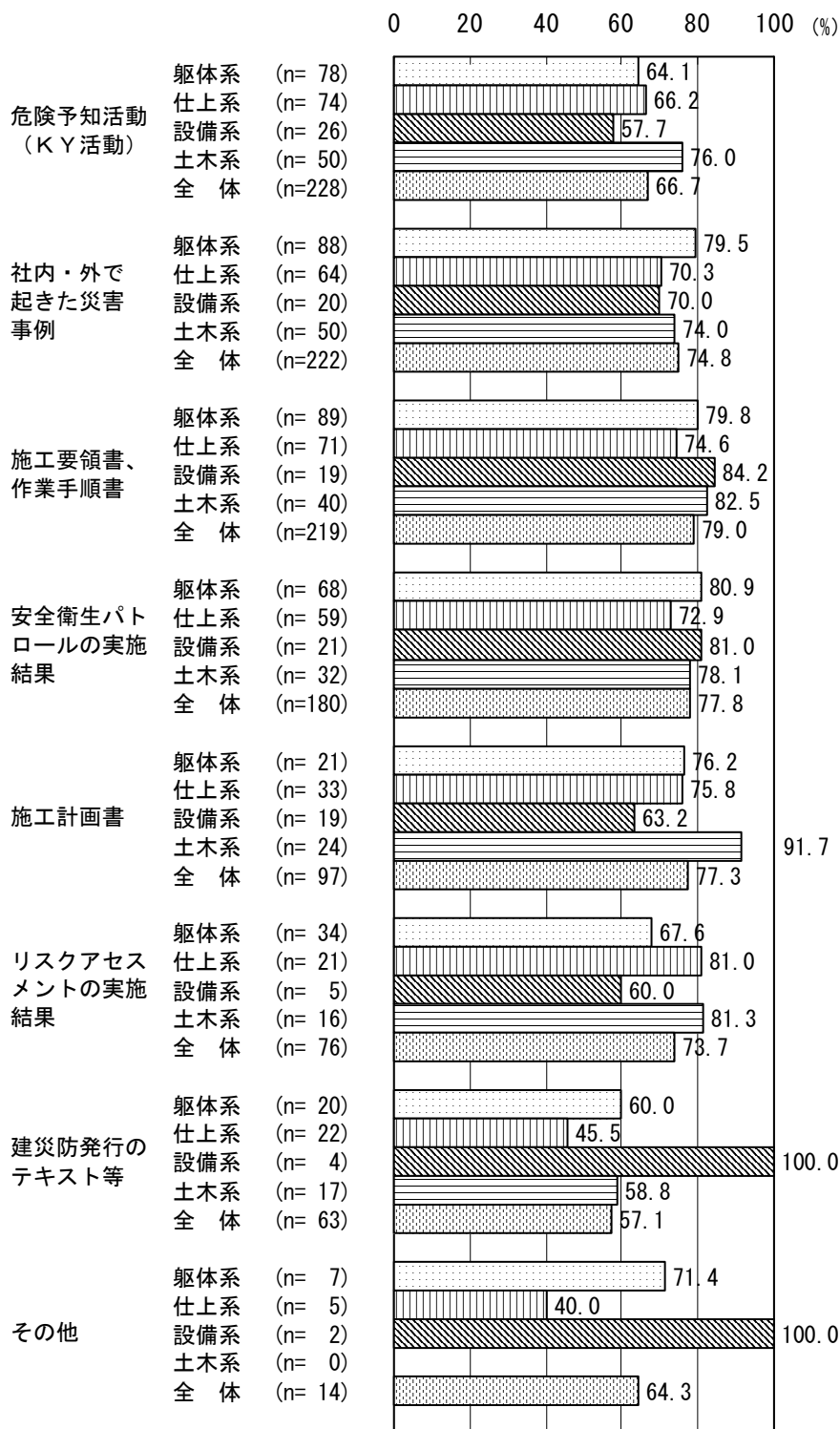
リスクアセスメントを実施する際の参考情報を資本金階層別に見ると、参考情報として上位に挙げられた事項を参考にしている割合は、資本金 10 億円以上の会社で突出して高くなっている。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-13 リスクアセスメントを実施する際の参考情報 (資本金階層別、複数回答)

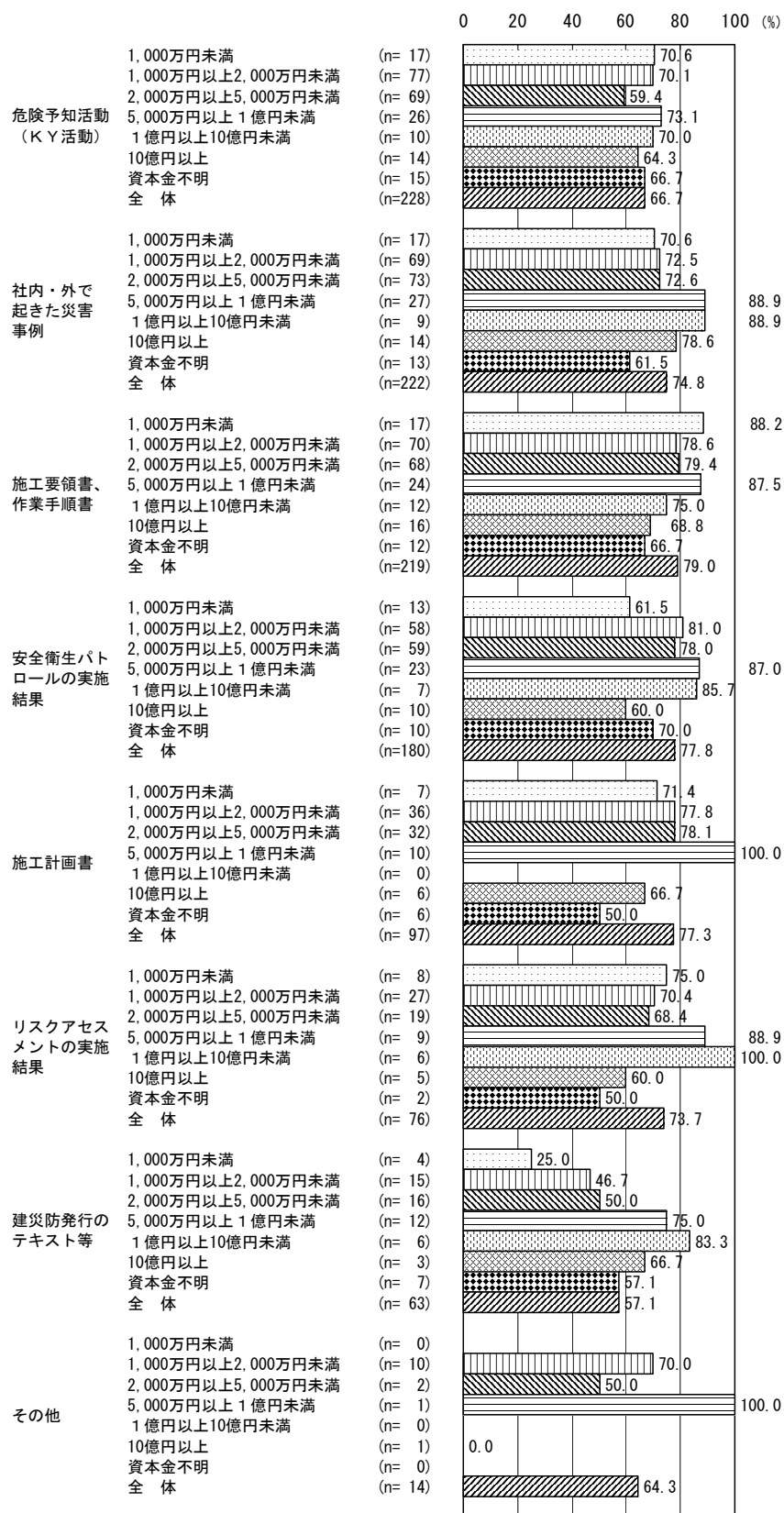
リスクアセスメントを実施する際の参考情報の保存状況を職種分類別に見ると、「施工計画書」、「危険予知活動」、「リスクアセスメントの実施結果」の保存割合が、土木系で高く、設備系で低いなど、若干の差異が見られる。



注) サンプル数(n)は、それぞれの情報をリスクアセスメント実施の参考にしていないと回答した会社の数。

図 7-14 リスクアセスメントを実施する際の参考情報の保存状況 (職種分類別)

リスクアセスメントを実施する際の参考情報の保存状況を資本金階層別に見ると、「社内・外で起きた災害事例」の保存割合が、資本金 5,000 万円以上の会社で高いなど、若干の傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、それぞれの情報をリスクアセスメント実施の参考にしていないと回答した会社の数。

図 7-15 リスクアセスメントを実施する際の参考情報の保存状況 (資本金階層別)

リスクアセスメントを実施する際に「建災防発行のテキスト等」を参考にしていると回答した 63 社のうち、テキスト名の記述のあった 37 社の記述内容は以下の通り。

表 7-4 建災防発行のテキスト等の名称記述回答

職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	職長・安責者教育テキスト	鳶土工
	2	建設業における危険有害要因特定標準モデル	鳶土工
	3	専門工事COHSMS マニュアル	型枠大工
	4	職長・安全衛生責任者教育テキスト	鉄筋
	5	得意先安全情報 (AIS)	鉄筋
	6	職長のためのリスクアセスメント、他	鉄筋
	7	建設業における危険有害要因特定標準モデル	鉄筋
	8	建設作業における危険有害要因特定標準モデル	鉄骨
	9	職長のためのリスクアセスメント	鉄骨
	10	これがリスクアセスメントだ	クレーン
	11	職長・安全衛生責任者教育テキスト	建具
	12	リスクアセスメント導入のポイント	建具
	13	安全衛生推進者の手引	建具
	14	建設業におけるリスクアセスメントの手引・職長のためのリスクアセスメント	建具
仕上系	15	屋根工事業者のための危険性・有害性等の調査標準モデル	板金
	16	塗装工事特定標準モデル	塗装
	17	専門工事業者のための危険性・有害性等の調査標準モデル	左官
	18	職長のためのリスクアセスメント	タイル
	19	専門工事業者促進・中小規模工事安全衛生管理、その他	瓦
	20	リスクアセスメント ストップ、ザ、ついでに！	内装
	21	職長のためのリスクアセスメント	防水
	22	コスモス	防水
	23	職長のためのリスクアセスメント	防水
設備系	24	リスクアセスメント導入のポイント	消防施設
	25	職長・安全衛生責任者教育テキスト	標識
土木系	26	職長・安全衛生責任者教育テキスト、専門工事コスモス構築の手引き	基礎
	27	安全衛生推進者の手引、初任時教育テキスト、職長のためのリスクアセスメント、レベルアップ教育用テキスト	基礎
	28	職長、安衛責任者教育テキスト	基礎
	29	職長のためのリスクアセスメント	基礎
	30	建設作業における危険有害要因特定標準モデル	機械土工
	31	建設業職長のためのリスクアセスメント	機械土工
	32	専門工事業者のための危険性、有害性等の調査標準モデル、専門工事コスモス構築の手引	機械土工
	33	職長のためのリスクアセスメント	機械土工
	34	元請業者からの資料	カッター
	35	職長安全衛生責任者教育テキスト・職長のためのリスクアセスメント	アンカー
	36	職長のためのリスクアセスメント	アンカー
	37	造園工事業者のための危険性・有害性等の調査標準モデル	造園

リスクアセスメントを実施する際の参考情報について、「その他」と回答した 14 社のうち、情報名の記述のあった 12 社の記述内容は以下の通り。

表 7-5 リスクアセスメントを実施する際の参考情報「その他」の記述回答

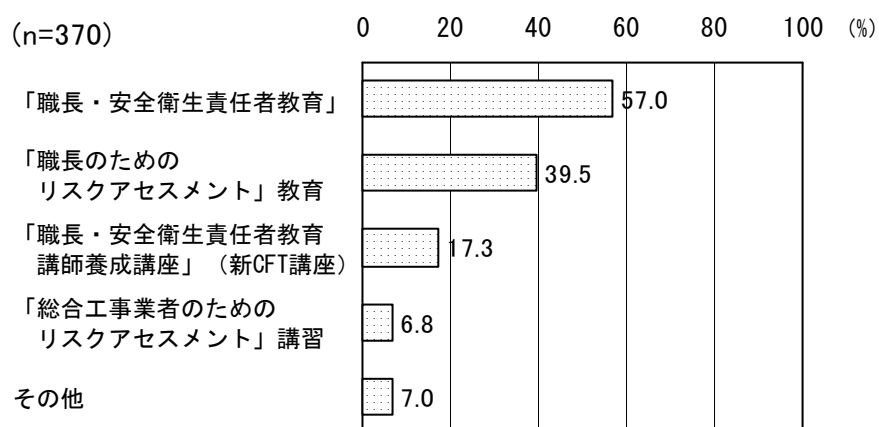
職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	ゼネコン発行資料	鉄骨
	2	職長、安責講習資料	クレーン
	3	労働調査会	クレーン
	4	客先の資料を元に行っている。	クレーン
	5	建災防、中災防のウェブサイト	建具
仕上系	6	社外の実施例	塗装
	7	社内ヒヤリハット	左官
	8	自社パトロール	タイル
	9	兵庫建災防研究会（2 部会）	内装
	10	ダイジェスト	防水
設備系	11	リスクアセスメントの概念	消防施設
	12	災害事例	断熱

(4) リスクアセスメント教育の受講 (問 6-4)

問 6-4 建災防が行っているリスクアセスメントの教育を受講したことがありますか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 「職長のためのリスクアセスメント」教育
2. 「職長・安全衛生責任者教育」
3. 「職長・安全衛生責任者教育講師養成講座」(新CFT講座)
4. 「総合工事業者のためのリスクアセスメント」講習
5. その他 ()

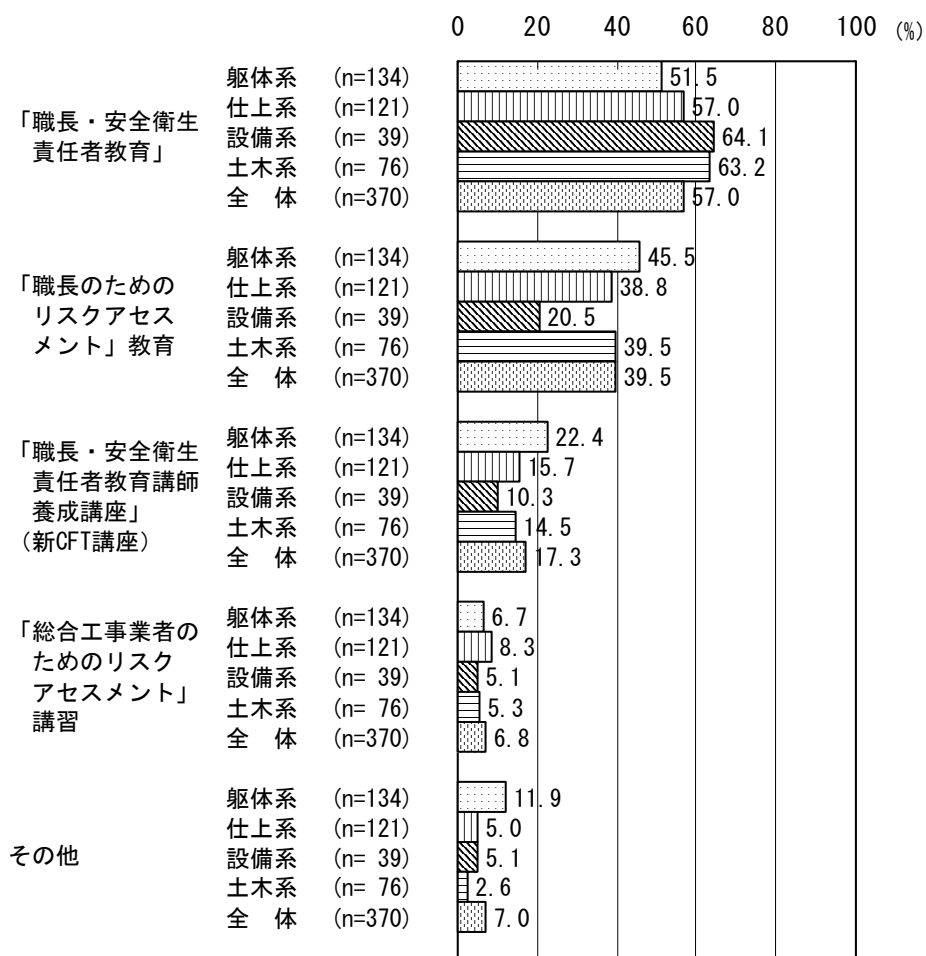
建災防が行っているリスクアセスメントの教育で受講したことがあるのは、「職長・安全衛生責任者教育」が57%と最も多く、次いで「職長のためのリスクアセスメント教育」が40%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した370社。

図 7-16 受講したことがあるリスクアセスメント教育 (複数回答)

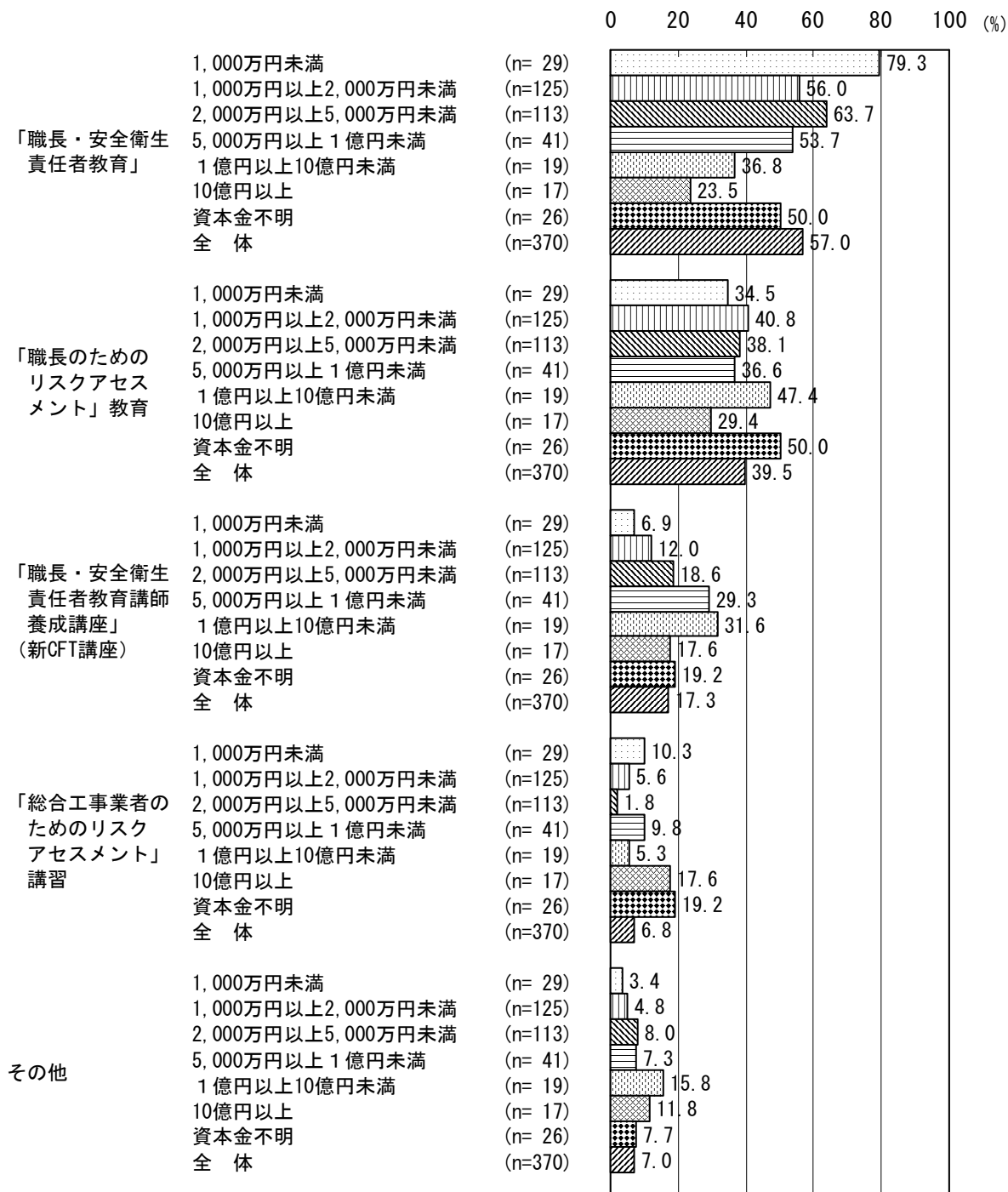
受講したことがあるリスクアセスメント教育を職種分類別に見ると、設備系では「職長のためのリスクアセスメント教育」と「職長・安全衛生責任者教育講師養成講座」を受講したことがある割合が、他の職種よりもかなり低いことが特徴的である。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-17 受講したことがあるリスクアセスメント教育（職種分類別、複数回答）

受講したことがあるリスクアセスメント教育を資本金階層別に見ると、資本金が大きくなるほど「職長・安全衛生責任者教育」を受講したことがある割合が低くなり、「職長・安全衛生責任者教育講師養成講座」を受講したことがある割合が高くなる傾向（ただし、資本金10億円以上を除く）が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-18 受講したことがあるリスクアセスメント教育（資本金階層別、複数回答）

受講したことがあるリスクアセスメント教育について、「その他」と回答した 26 社のうち、記述のあった 23 社の記述内容は以下の通り。

表 7-6 受講したことがあるリスクアセスメント教育「その他」の記述回答

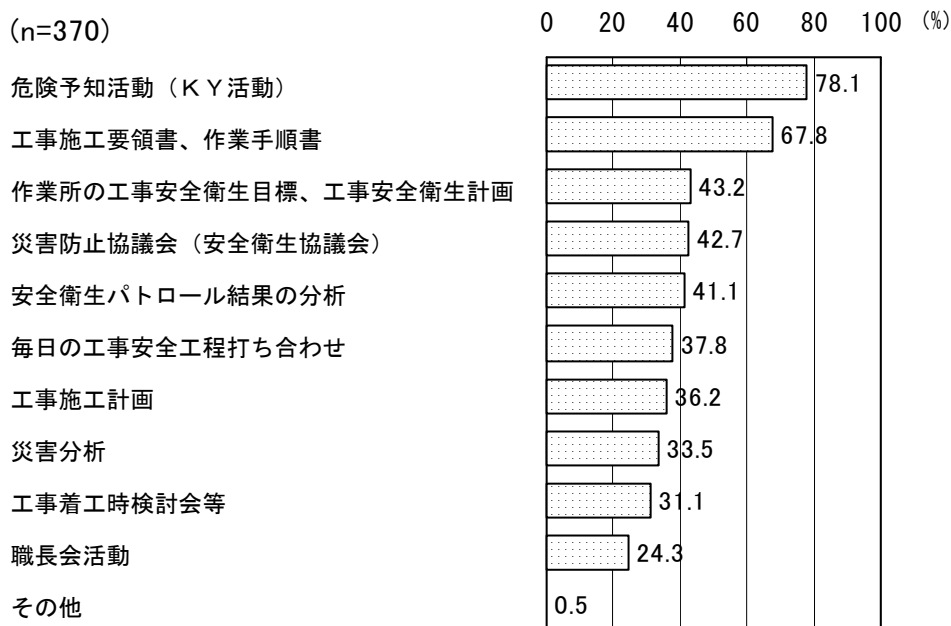
職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	経営者首脳セミナー・危険有害要因	鳶土工
	2	店社安全衛生担当者研修	鳶土工
	3	COHSMS	鳶土工
	4	専門工事業者のためのリスクアセスメント講習	鳶土工
	5	専門工事業安全管理担当者研修会	鳶土工
	6	監督署の講習	型枠大工
	7	専門工事業安全管理担当者研修会	鉄筋
	8	元請主催のリスクアセスメント教育	鉄骨
	9	建災防ではないが、数回講習は受けている。	鉄骨
	10	ゼネコンの災害防止協議会の実施するリスクアセスメント講習	鉄骨
	11	総括安全衛生責任者	鉄骨
	12	元請業者主催	圧送
	13	元請業者・労働安全衛生マネジメントシステムとリスクアセスメント	圧送
	14	元請からの指導	クレーン
	15	安全衛生推進者講座	建具
仕上系	16	元請実施によるリスクアセスメント研修会	左官
	17	石綿ばくろ防止・マネジメントシステム構築・危険性有害性調査マニュアル	瓦
	18	大手建設会社（ゼネコン等）主催の職長、安全衛生責任者教育	内装
	19	元請配布の資料	内装
設備系	20	中災防のリスクアセスメント講習	消防施設
	21	ビデオ等	断熱
土木系	22	職長・安全衛生責任者教育講師のためのリスクアセスメント研修	基礎
	23	店社安全衛生担当者教育	アンカー

(5) リスクアセスメントで取り入れている項目 (問 6-5)

問 6-5 会社で実施しているリスクアセスメントの中で取り入れている項目はどれですか。該当するすべての数字に○をつけてください。また、取り入れた項目について、期待していた通りの効果が出ていますか。〔 〕内に、○ (効果あり)、△ (それほどの効果はない)、× (効果はない) のいずれかを記入してください。

1. 作業所の工事安全衛生目標、工事安全衛生計画 []
2. 工事施工計画 []
3. 工事施工要領書、作業手順書 []
4. 工事着工時検討会等 []
5. 災害分析 []
6. 危険予知活動 (KY活動) []
7. 安全衛生パトロール結果の分析 []
8. 毎日の工事安全工程打ち合わせ []
9. 職長会活動 []
10. 災害防止協議会 (安全衛生協議会) []
11. その他 ()

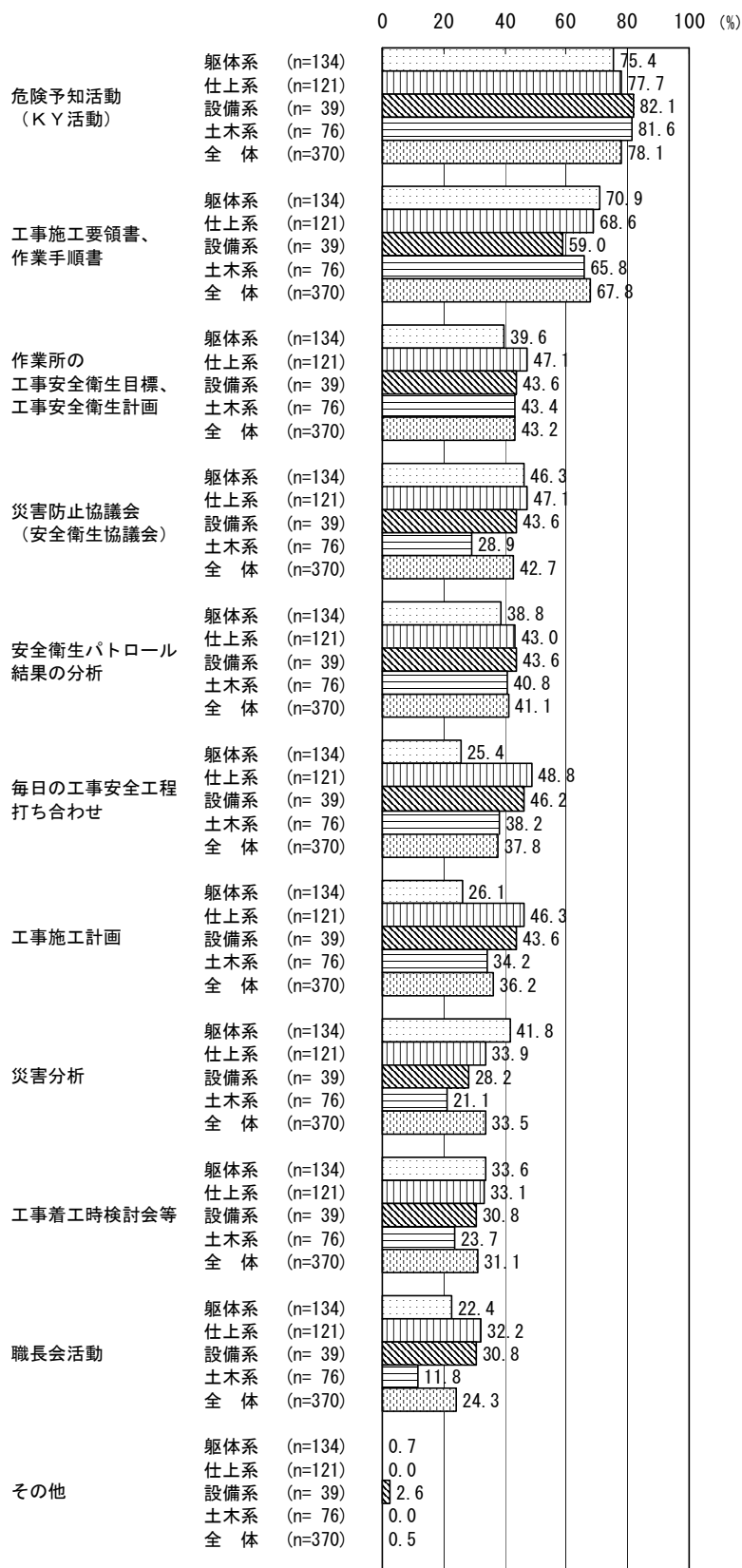
実施しているリスクアセスメントの中で取り入れている項目は、「危険予知活動 (KY活動)」が78%と最も多く、次いで「工事施工要領書、作業手順書」が68%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した 370 社。

図 7-19 リスクアセスメントで取り入れている項目 (複数回答)

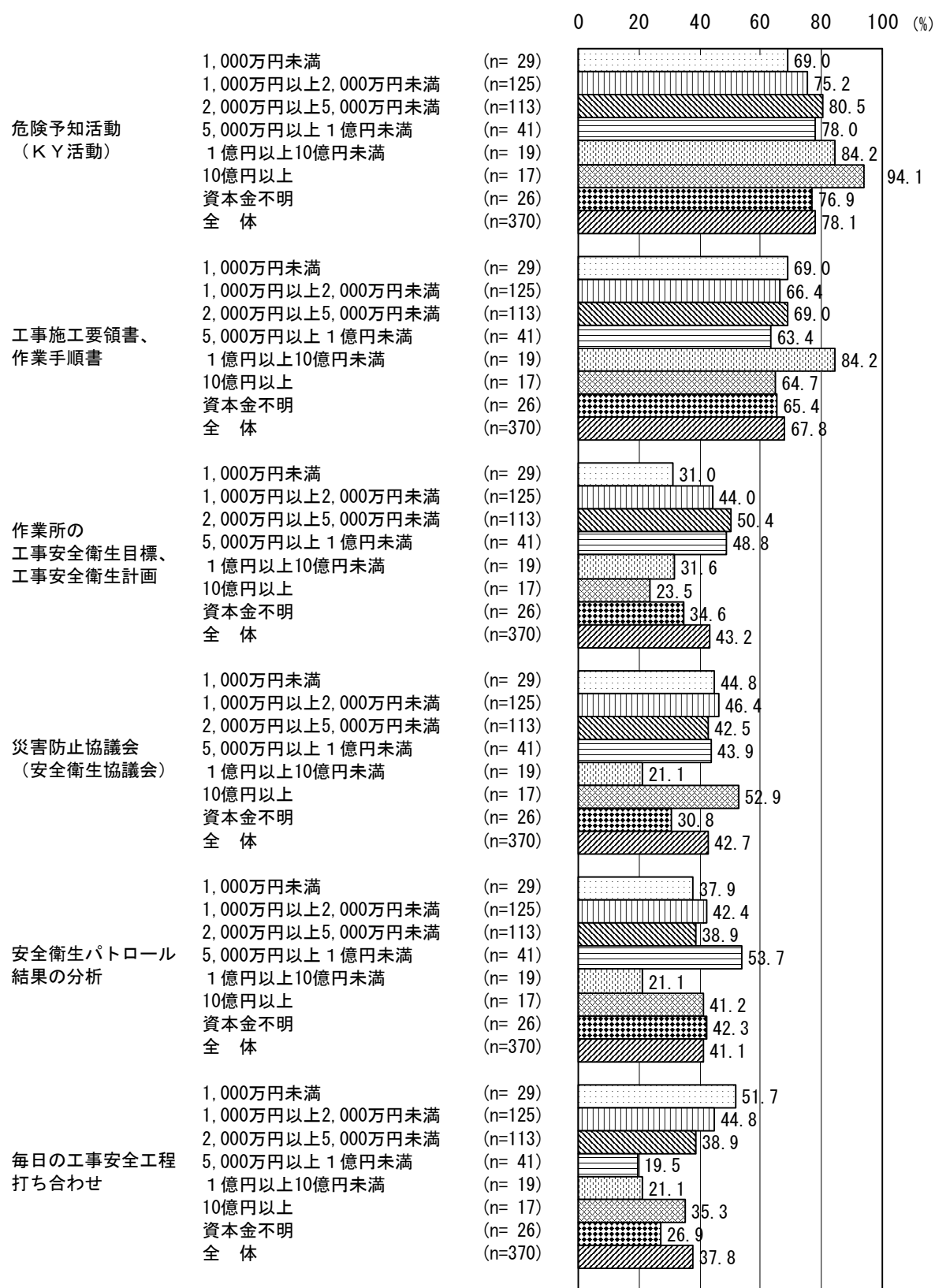
リスクアセスメントで取り入れている項目を職種分類別に見ると、「工事施工要領書、作業手順書」の割合が設備系でやや低く、「災害防止協議会」の割合が土木系で低いなど、若干の差異が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

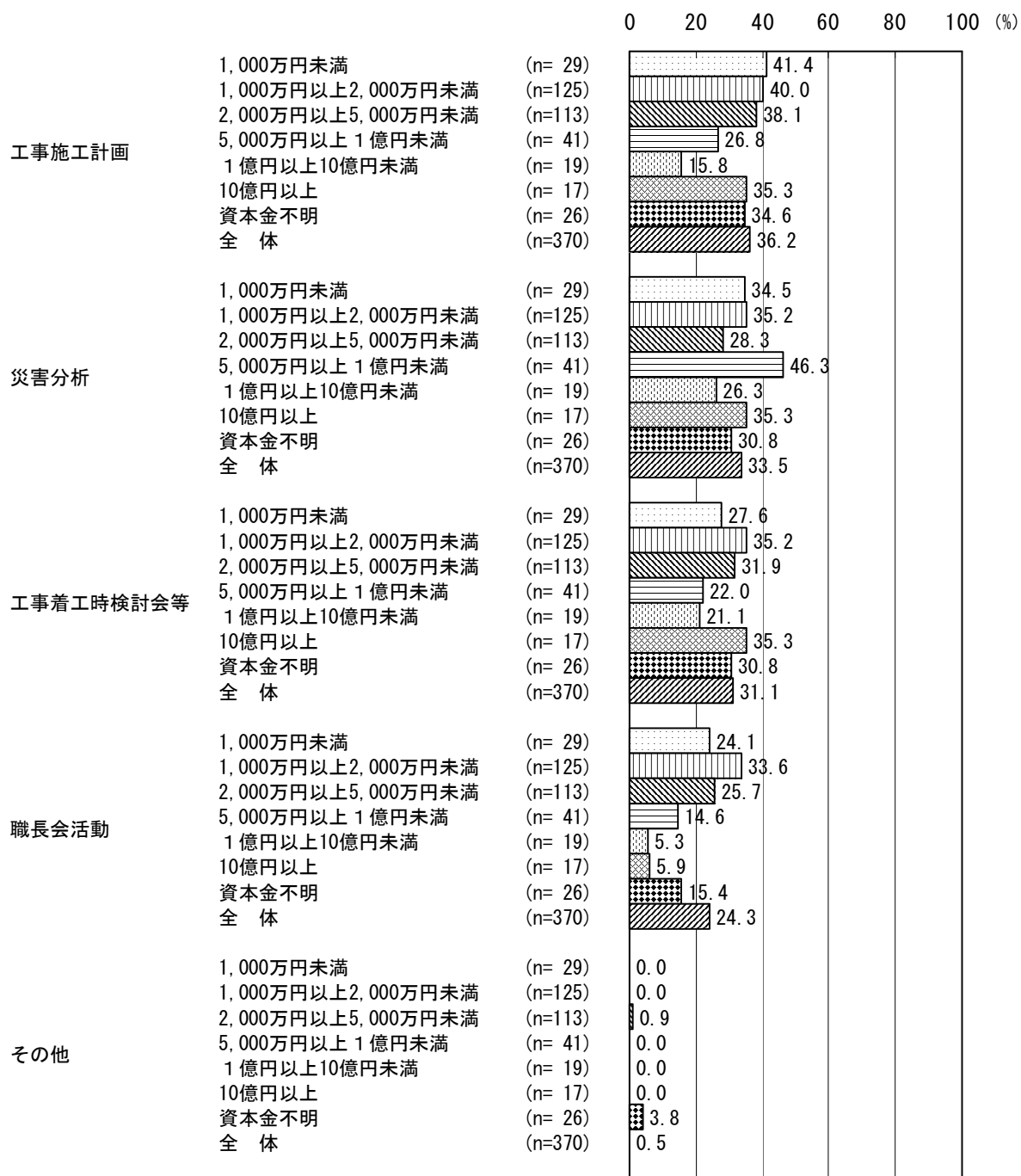
図 7-20 リスクアセスメントで取り入れている項目 (職種分類別、複数回答)

リスクアセスメントで取り入れている項目を資本金階層別に見ると、資本金 1 億円以上の会社では「危険予知活動」の割合がやや高く、「作業所の工事安全衛生目標、工事安全衛生計画」の割合が低いなど、若干の傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

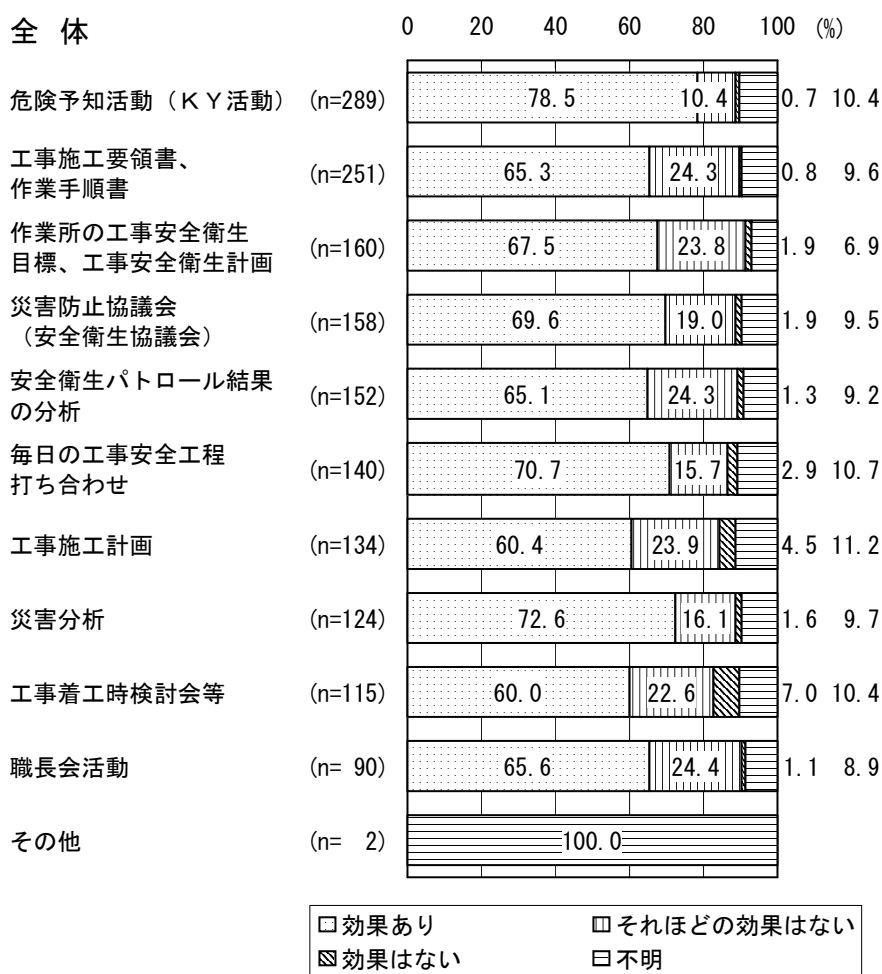
図 7-21 リスクアセスメントで取り入れている項目 (資本金階層別(1)、複数回答)



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 7-22 リスクアセスメントで取り入れている項目 (資本金階層別(2)、複数回答)

リスクアセスメントで取り入れている項目のうち、期待した効果が出ている割合が高いのは、「危険予知活動（KY活動）」（79%）、「災害分析」（73%）、「毎日の工事安全工程打ち合わせ」（71%）などである。

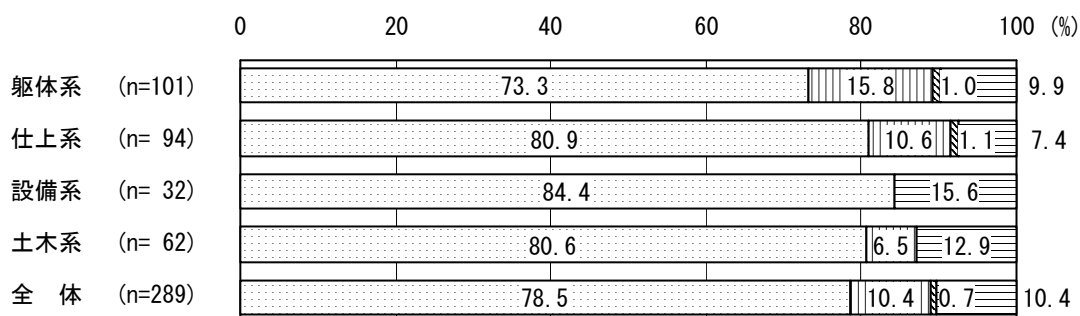


注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

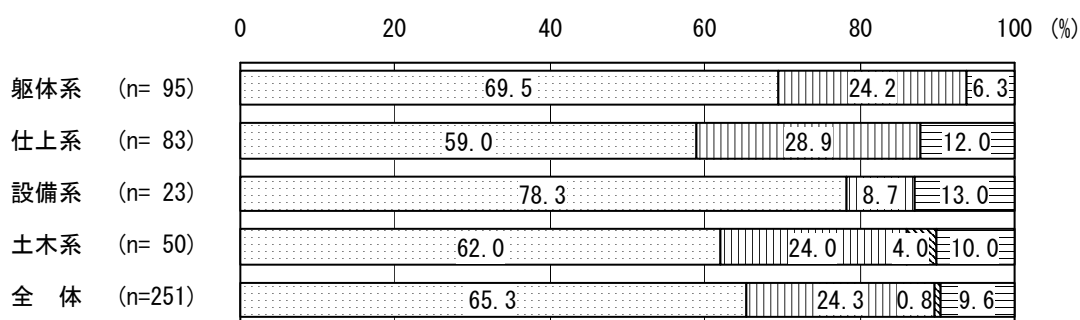
図 7-23 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果

リスクアセスメントで取り入れている項目の効果を職種分類別に見ると、「工事施工要領書、作業手順書」、「毎日の工事安全工程打ち合わせ」、「職長会活動」の効果が出ている割合は設備系で比較的高く、「災害防止協議会」、「安全衛生パトロール結果の分析」、「職長会活動」の効果が出ている割合は土木系で低いなど、若干の差異が見られる。

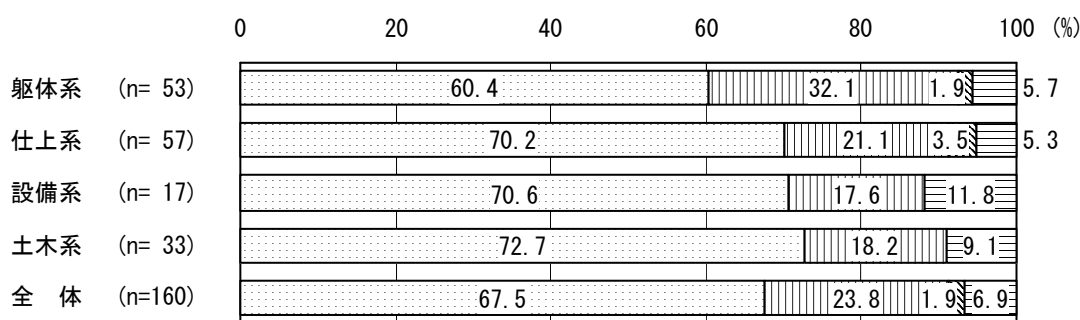
危険予知活動（KY活動）の効果



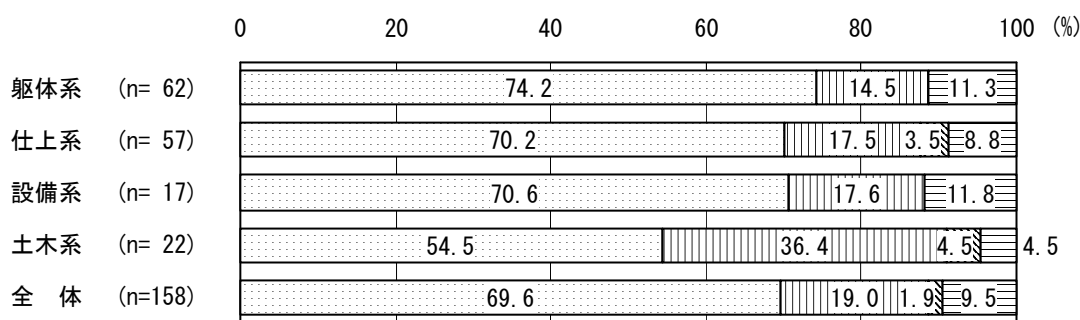
工事施工要領書、作業手順書の効果



作業所の工事安全衛生目標、工事安全衛生計画の効果



災害防止協議会（安全衛生協議会）の効果

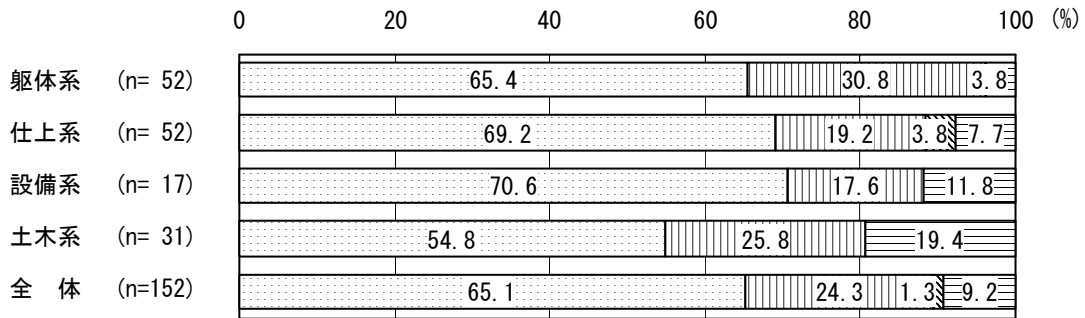


□ 効果あり ▨ それほどの効果はない ▩ 効果はない ◻ 不明

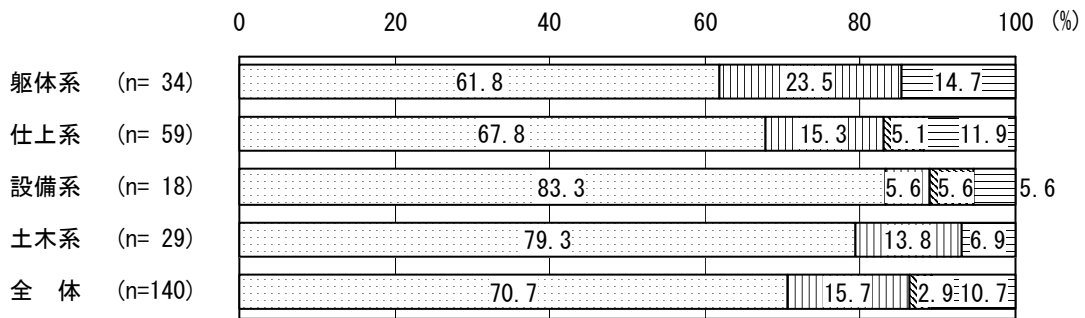
注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

図 7-24 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果（職種分類別(1)）

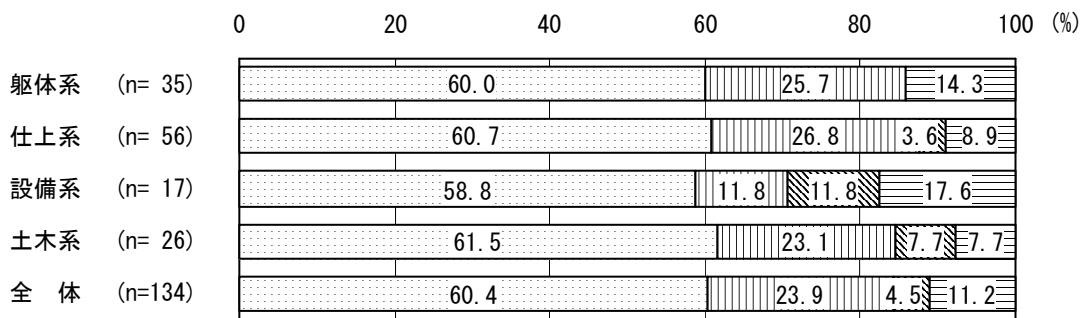
安全衛生パトロール結果の分析の効果



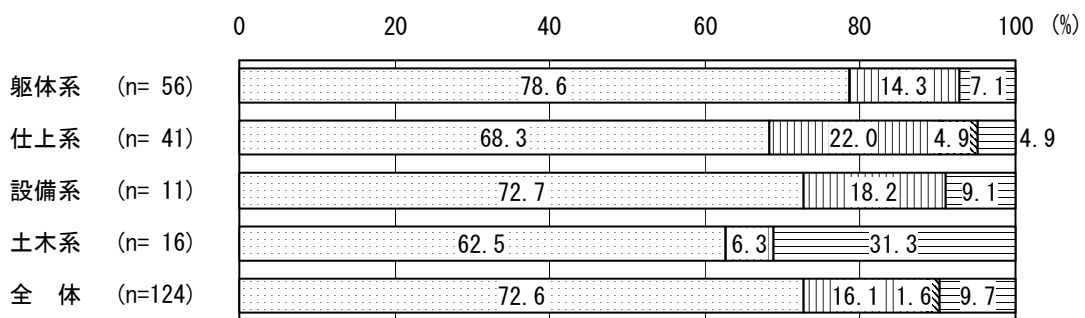
毎日の工事安全工程打ち合わせの効果



工事施工計画の効果



災害分析の効果

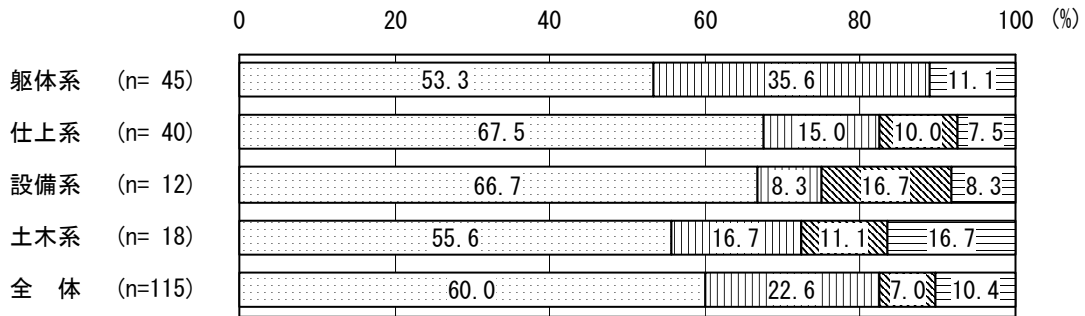


□ 効果あり □ それほどの効果はない ▨ 効果はない ▨ 不明

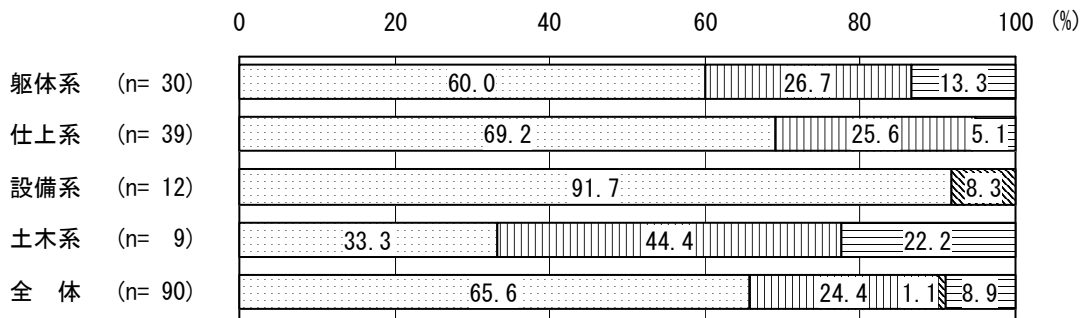
注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

図 7-25 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果 (職種分類別 (2))

工事着工時検討会等の効果



職長会活動の効果



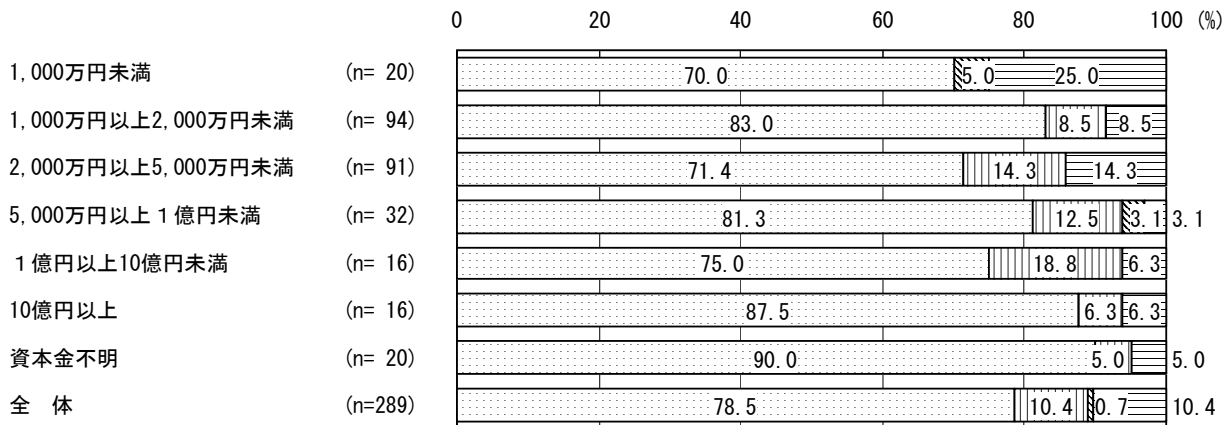
□ 効果あり □ それほどの効果はない ▨ 効果はない □ 不明

注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

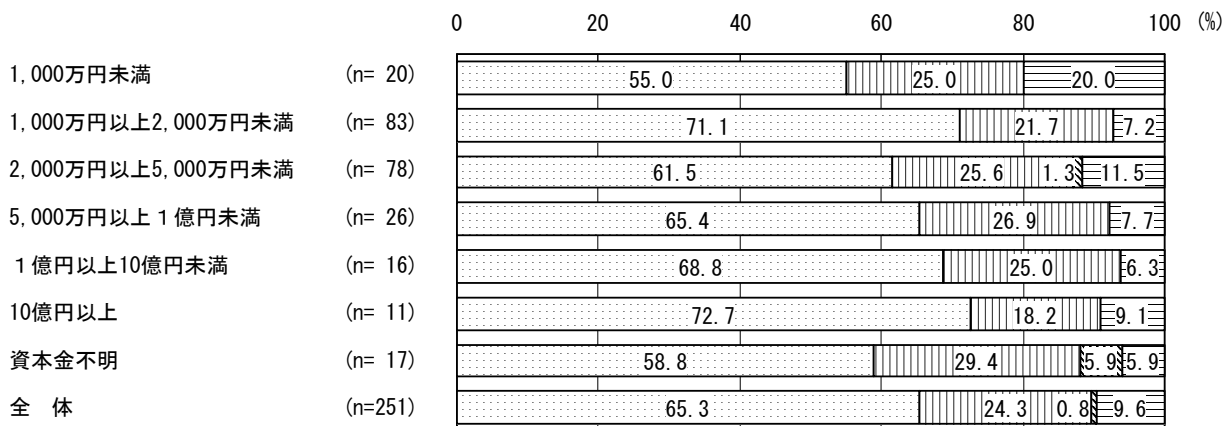
図 7-26 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果 (職種分類別 (3))

リスクアセスメントで取り入れている項目の効果を資本金階層別に見ると、資本金 1,000 万円未満の会社では、「作業所の工事安全衛生目標、工事安全衛生計画」の効果がでている割合が高く、「災害分析」、「工事着工時検討会等」の効果がでている割合が低いなど、若干の傾向が見られる。

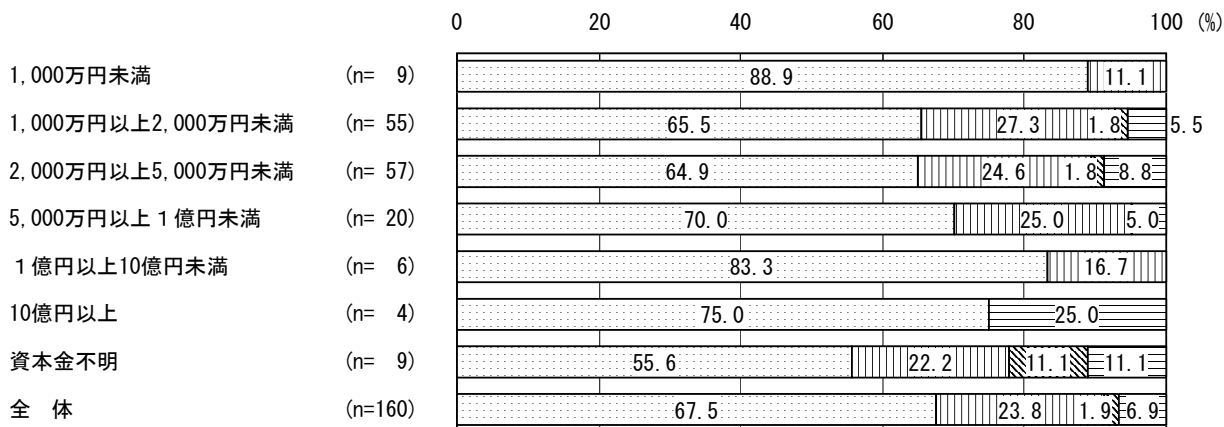
危険予知活動（KY活動）の効果



工事施工要領書、作業手順書の効果



作業所の工事安全衛生目標、工事安全衛生計画の効果

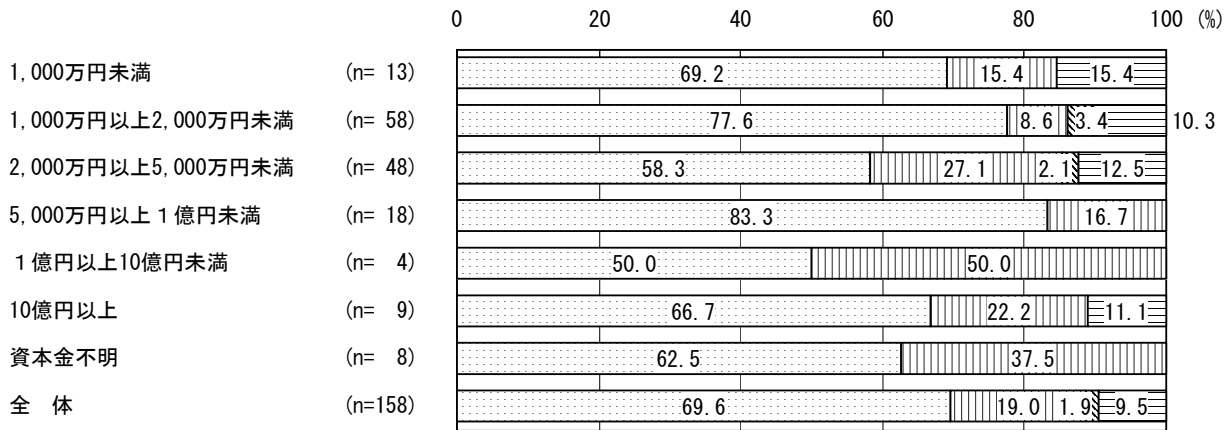


□ 効果あり □ それほどの効果はない ▨ 効果はない ▩ 不明

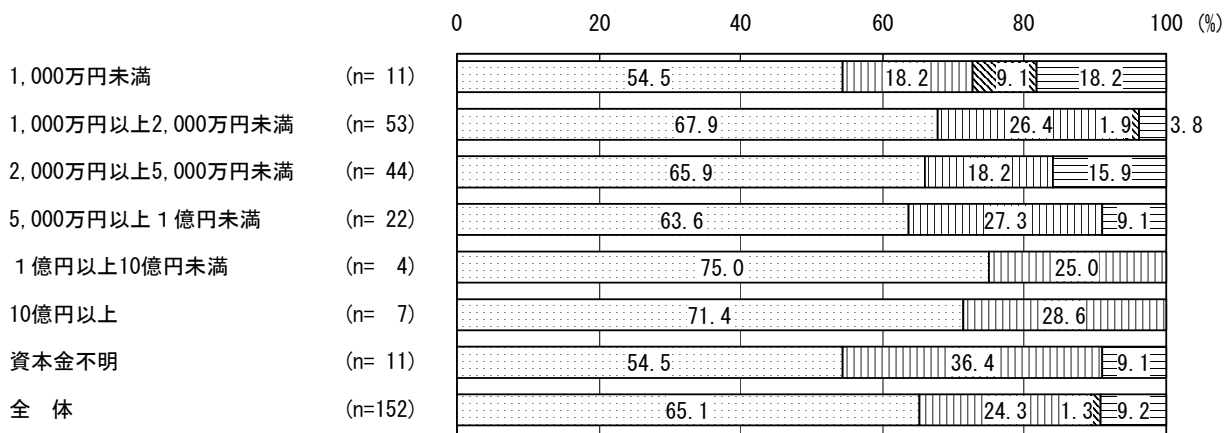
注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

図 7-27 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果（資本金階層別(1)）

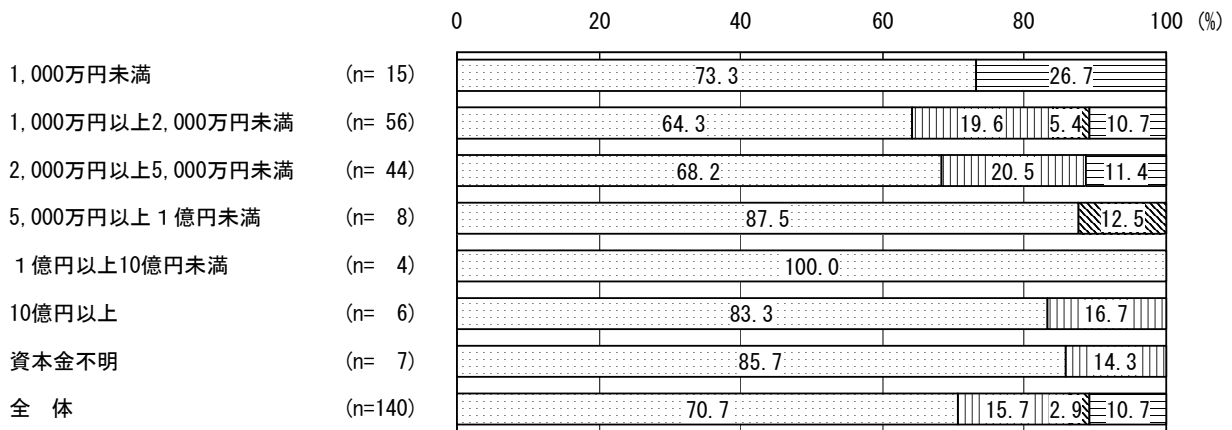
災害防止協議会（安全衛生協議会）の効果



安全衛生パトロール結果の分析の効果



毎日の工事安全工程打ち合わせの効果

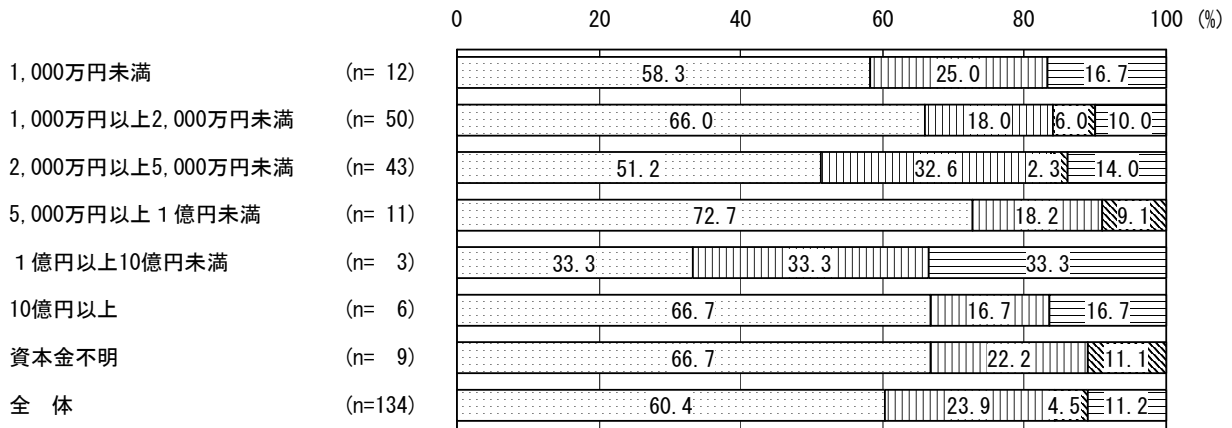


□ 効果あり □ それほどの効果はない ▨ 効果はない □ 不明

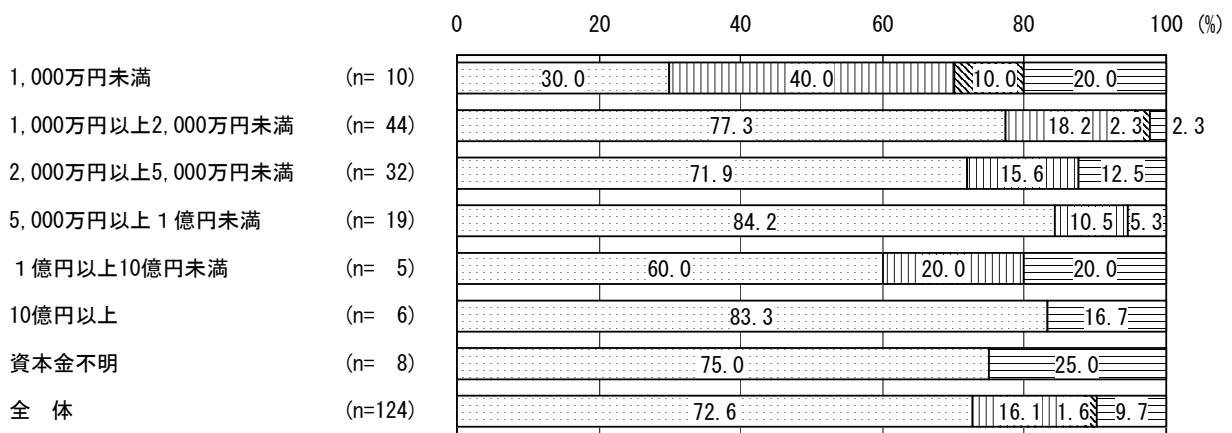
注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

図 7-28 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果（資本金階層別(2)）

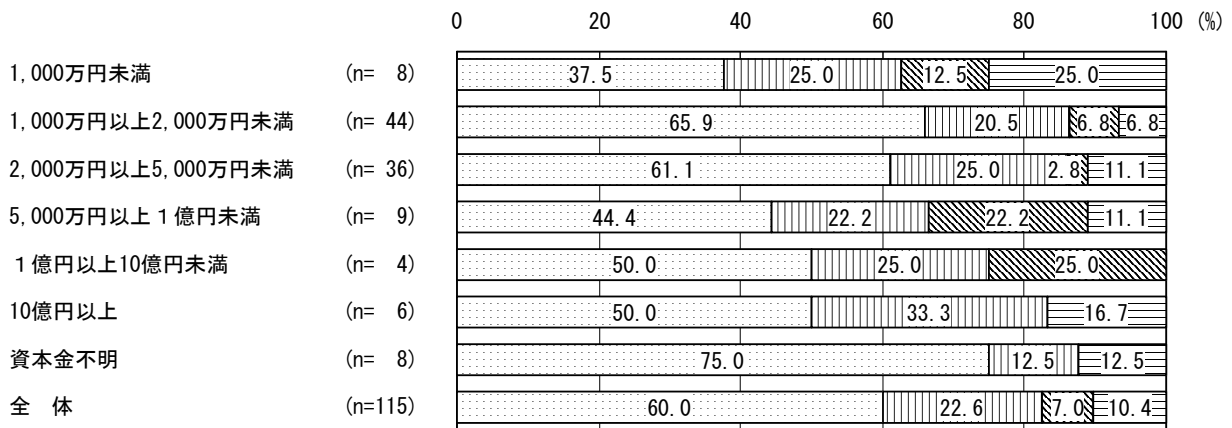
工事施工計画の効果



災害分析の効果



工事着工時検討会等の効果

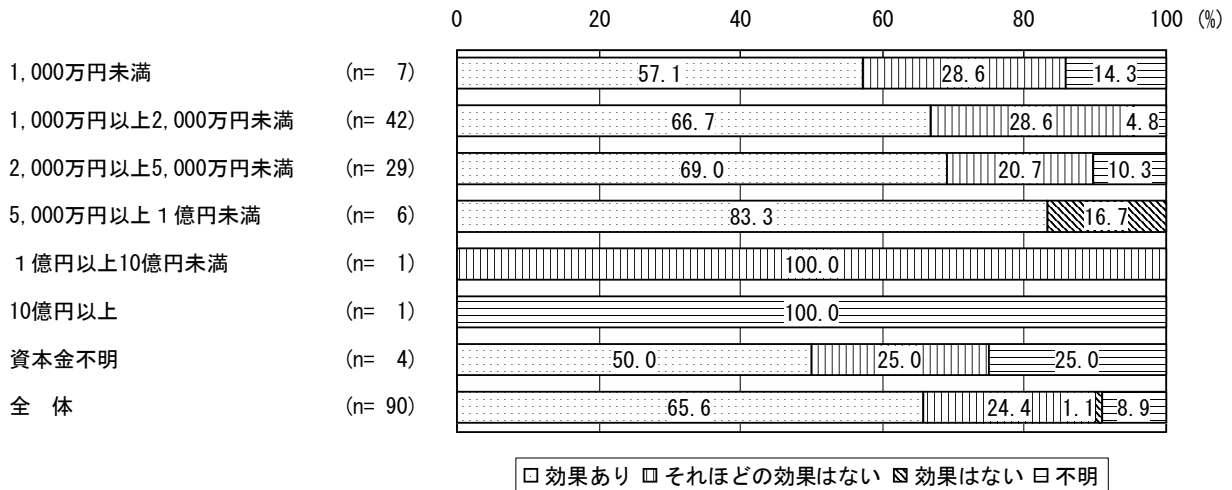


□ 効果あり □ それほどの効果はない ▨ 効果はない 目不明

注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

図 7-29 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果 (資本金階層別 (3))

職長会活動の効果



注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントで当該項目を取り入れていると回答した会社の数。

図 7-30 リスクアセスメントで取り入れている項目の効果 (資本金階層別(4))

リスクアセスメントで取り入れている項目について、「その他」と回答した2社のうち、記述のあった1社の記述内容は以下の通り。

表 7-7 リスクアセスメントで取り入れている項目「その他」の記述回答

職種分類	記述内容	職種
軀体系	1 教育段階	建具

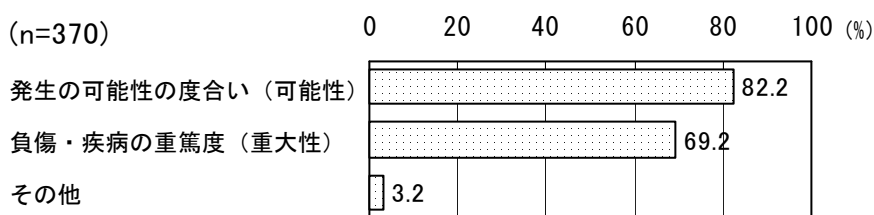
8. リスクの見積りの代表的な方法（問7）

（1）リスク見積り項目（問7-1）

問 7-1 あなたの会社でリスクの見積りに用いている項目はどれですか。該当するすべての数字に○をつけてください。また、その項目は何段階（区分）で評価していますか。該当する段階数を一つだけ選び○をつけてください。（これに関する資料等があればコピーを添付して下さい。）

	段階（区分）数			
	3段階	4段階	5段階	その他
1.負傷・疾病の重篤度（重大性）	(3段階	4段階	5段階	その他)
2.発生の可能性の度合い（可能性）	(3段階	4段階	5段階	その他)
3.その他	()

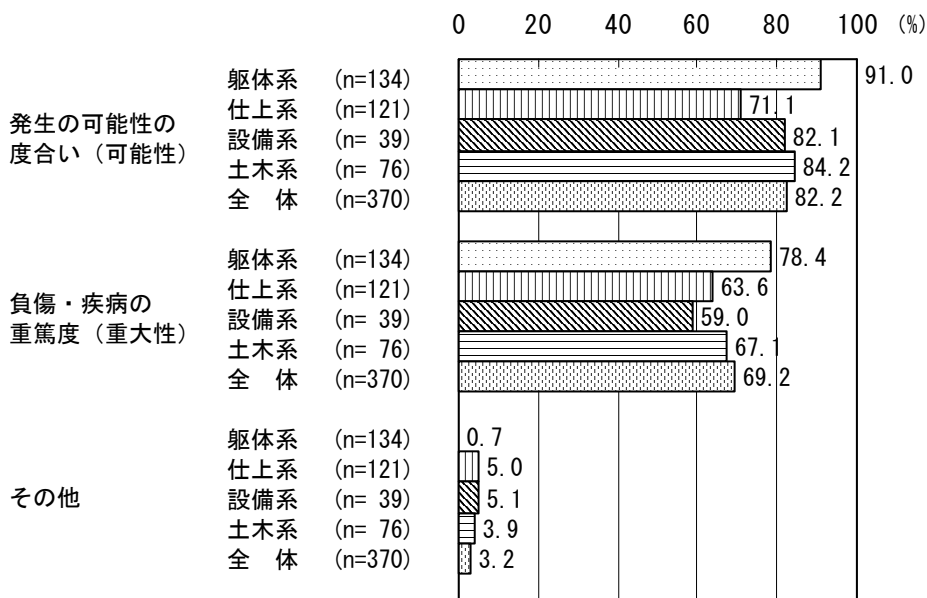
リスクの見積りに用いている項目は、「発生の可能性の度合い（可能性）」が82%、「負傷・疾病の重篤度（重大性）」が69%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した370社。

図 8-1 リスクの見積りに用いている項目（複数回答）

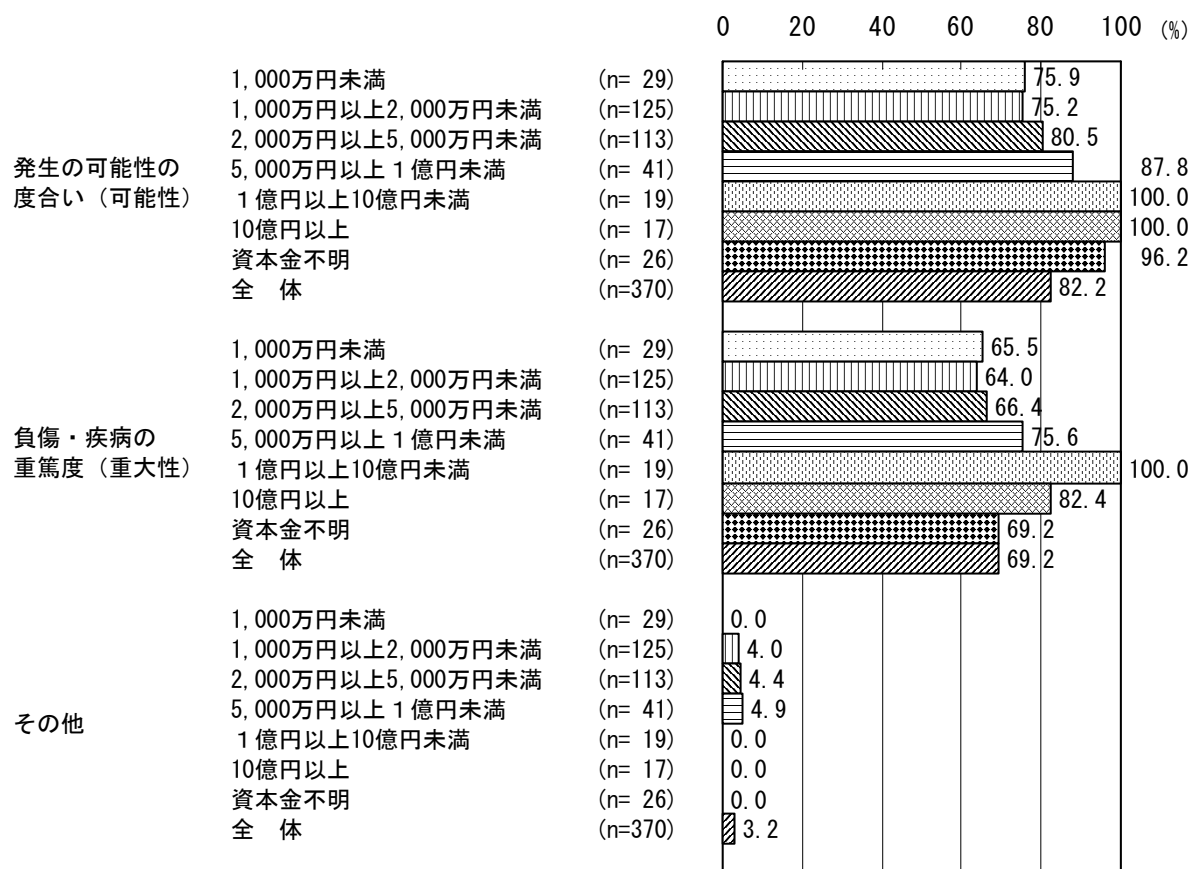
リスクの見積りに用いている項目を職種分類別に見ると、「発生の可能性の度合い（可能性）」、「負傷・疾病の重篤度（重大性）」のいずれの割合も、軀体系でやや高くなっている。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 8-2 リスクの見積りに用いている項目（職種分類別、複数回答）

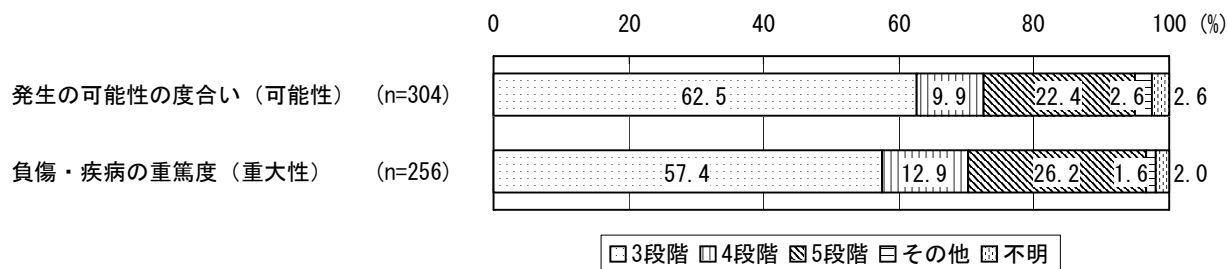
リスクの見積りに用いている項目を資本金階層別に見ると、「発生の可能性の度合い（可能性）」、「負傷・疾病の重篤度（重大性）」のいずれの割合も、資本金が大きくなるほど高くなる傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 8-3 リスクの見積りに用いている項目（資本金階層別、複数回答）

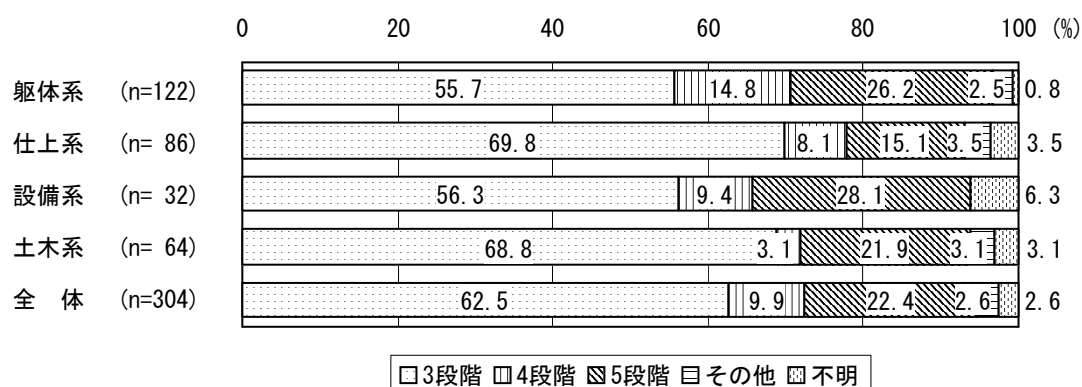
リスクの見積りに用いている項目のうち「発生の可能性の度合い（可能性）」の評価段階（区分）数は、「3段階」が63%と最も多く、次いで「5段階」が22%となっている。一方、「負傷・疾病の重篤度（重大性）」の評価段階（区分）数についても、「3段階」が57%と最も多く、次いで「5段階」が26%となっている。



注) サンプル数(n)は、当該項目をリスクの見積りに用いていると回答した会社の数。

図 8-4 リスクの見積りに用いている項目の段階（区分）数

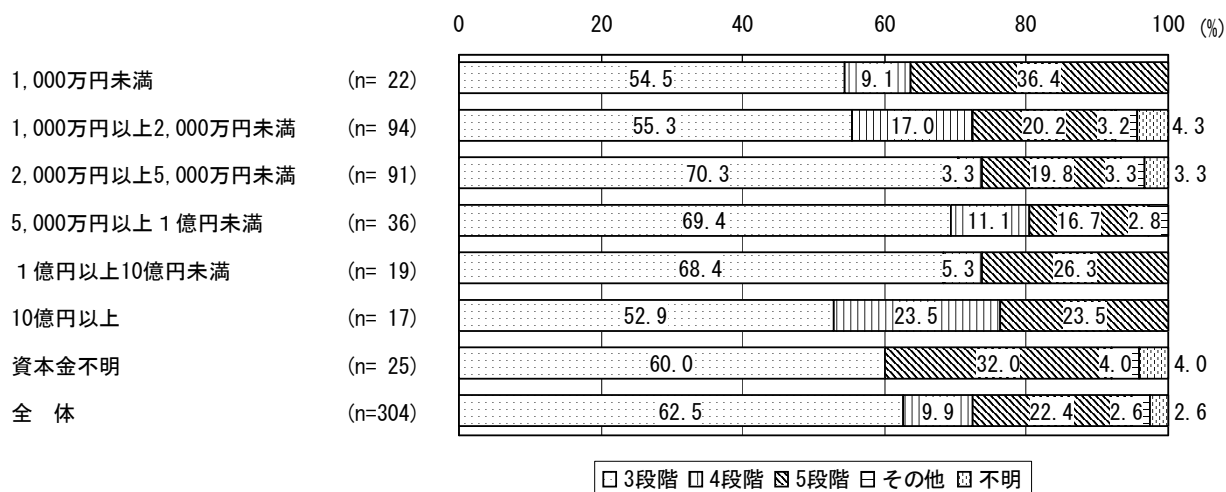
リスクの見積りに用いている項目のうち「発生の可能性の度合い（可能性）」の評価段階（区分）数を職種分類別に見ると、仕上系、土木系では「3段階」が特に多く、軀体系と設備系では「3段階」のほか「5段階」も比較的多い。「4段階」は軀体系で比較的多い。



注) サンプル数(n)は、「発生の可能性の度合い（可能性）」をリスクの見積りに用いていると回答した会社の数。

図 8-5 発生の可能性の度合い（可能性）の段階（区分）数（職種分類別）

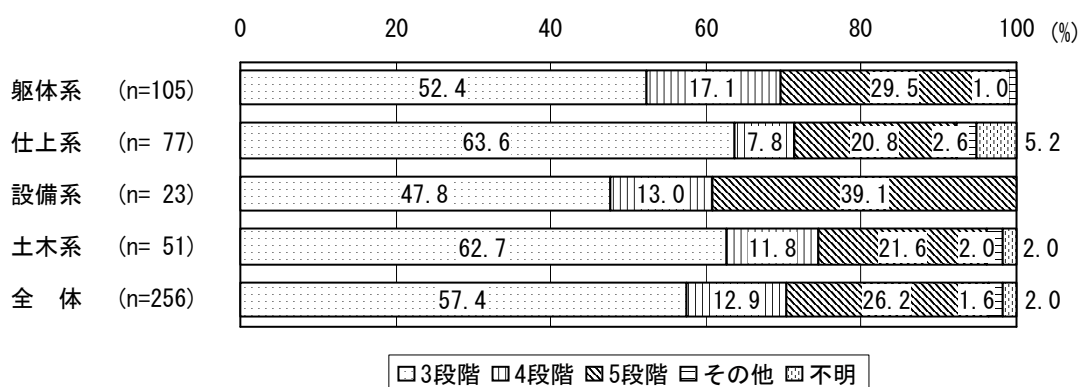
リスクの見積りに用いている項目のうち「発生の可能性の度合い（可能性）」の評価段階（区分）数を資本金階層別に見ると、資本金 2,000 万円から 10 億円の範囲の会社で「3段階」が特に多く、「5段階」は、資本金 1,000 万円未満の会社で比較的多い。



注) サンプル数(n)は、「発生の可能性の度合い（可能性）」をリスクの見積りに用いていると回答した会社の数。

図 8-6 発生の可能性の度合い（可能性）の段階（区分）数（資本金階層別）

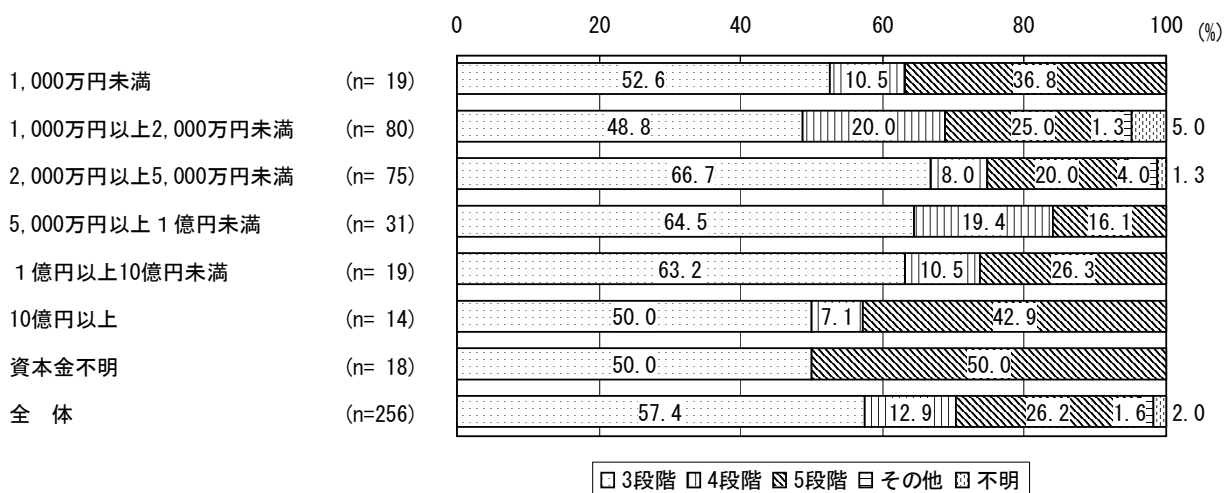
リスクの見積りに用いている項目のうち「負傷・疾病の重篤度（重大性）」の評価段階（区分）数を職種分類別に見ると、仕上系、土木系では「3段階」が特に多く、設備系では「5段階」も比較的多い。これらの傾向は「発生の可能性の度合い（可能性）」の場合とほぼ同様である。



注) サンプル数(n)は、「負傷・疾病の重篤度（重大性）」をリスクの見積りに用いていると回答した会社の数。

図 8-7 負傷・疾病の重篤度（重大性）の段階（区分）数（職種分類別）

リスクの見積りに用いている項目のうち「負傷・疾病の重篤度（重大性）」の評価段階（区分）数を資本金階層別に見ると、資本金 2,000 万円から 10 億円の範囲の会社で「3段階」が特に多く、「5段階」は、資本金 1,000 万円未満と 10 億円以上の会社で比較的多い。これらの傾向は「発生の可能性の度合い（可能性）」の場合とほぼ同様である。



注) サンプル数(n)は、「負傷・疾病の重篤度（重大性）」をリスクの見積りに用いていると回答した会社の数。

図 8-8 負傷・疾病の重篤度（重大性）の段階（区分）数（資本金階層別）

リスクの見積りに用いている項目について、「その他」と回答した 12 社のうち、記述のあった 8 社の記述内容は以下の通り。

表 8-1 リスクの見積りに用いている項目「その他」の記述回答

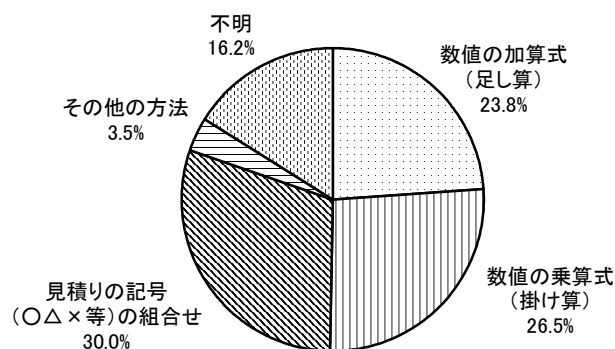
職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	現場で職長が元請の指導でしているので、良くわからない。	鉄骨
仕上系	2	色による段階	左官
	3	どこからも費用が出ないのに見積りの意味が分かりません。	瓦
	4	リスクの見積り等迄は考えていない。	内装
	5	区分してない。	内装
	6	元請の様式による。	内装
土木系	7	建災防標準モデル参考	基礎
	8	リスクの見積りと対策の優先度	造園

(2) リスクを見積もる方法 (問 7-2)

問 7-2 リスクを見積もる方法としてどのような方法で行っていますか。該当するものを一つだけ
 選び数字に○をつけてください。

1. 数値の加算式 (足し算)
2. 数値の乗算式 (掛け算)
3. 見積りの記号 (○△×等) の組合せ
4. その他の方法 ()

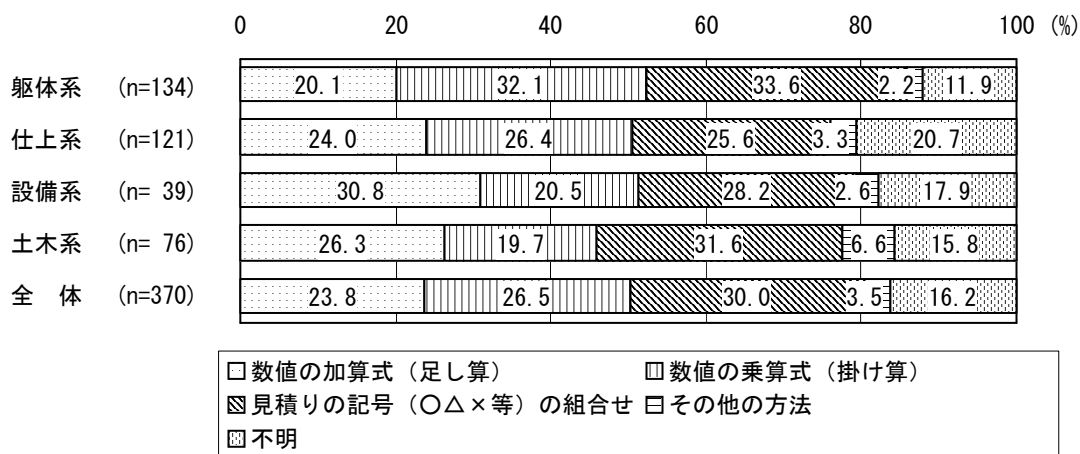
リスクを見積もる方法は、「見積りの記号 (○△×等) の組合せ」が30%と最も多く、次いで「数
 値の乗算式 (掛け算)」が27%、「数値の加算式 (足し算)」が24%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセ
 スメントを実施していると回答した 370 社。

図 8-9 リスクを見積もる方法 (n=370)

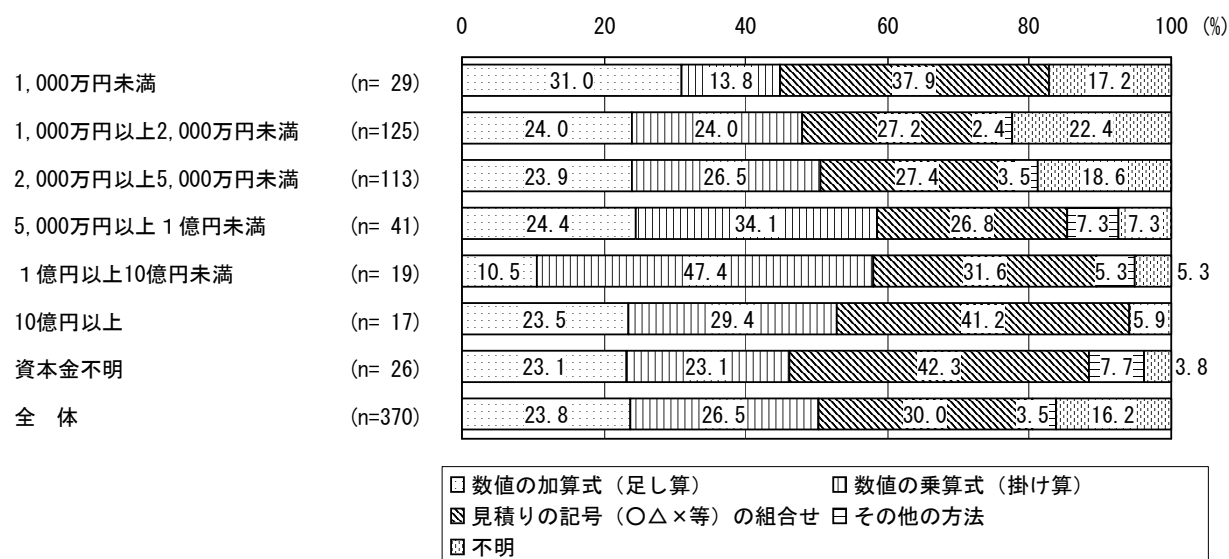
リスクを見積もる方法を職種分類別に見ると、「見積りの記号 (○△×等) の組合せ」は躯体系と
 土木系で特に多く、「数値の加算式 (足し算)」は設備系では最も多い。



注) サンプル数 (n) は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した
 会社の数。

図 8-10 リスクを見積もる方法 (職種分類別)

リスクを見積もる方法を資本金階層別に見ると、資本金 10 億円未満の範囲で、資本金が大きくなるほど、「数値の乗算式（掛け算）」の割合が高くなる傾向が見られる。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 8-11 リスクを見積もる方法（資本金階層別）

リスクを見積もる方法について、「その他の方法」と回答した 13 社のうち、記述のあった 7 社の記述内容は以下の通り。

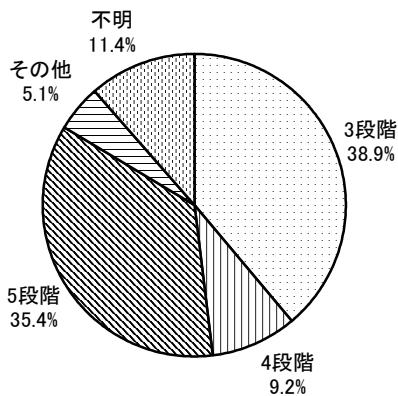
表 8-2 リスクを見積もる方法「その他」の記述回答

職種分類	記述内容	職種
躯体系	1 掛け算をし点数を 5 段階に分けている。	鉄筋
	2 現場で職長が元請の指導でしているので、良くわからない。	鉄骨
	3 危険源のリストアップを行う。	鉄骨
仕上系	4 見積りはした事がない。	瓦
	5 現場では、それぞれ元請の様式に従っている。	内装
土木系	6 建災防標準モデル参考	基礎
	7 上記 3→2 へ移行中。	アンカー

(3) リスクレベルの段階数 (問 7-3)

問 7-3 リスクを見積もった結果 (リスクレベル=危険度=優先度) は何段階で評価していますか。
 該当する段階数を一つだけ選び○をつけてください。
 (3段階 4段階 5段階 その他)

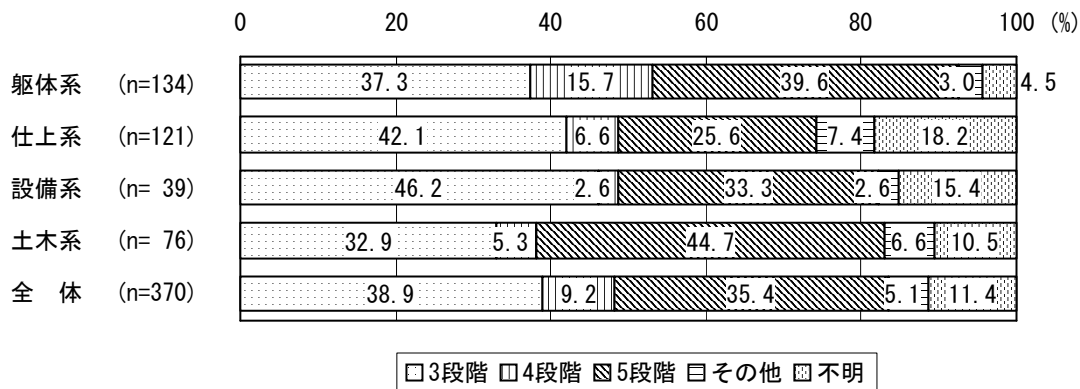
リスクレベルの段階数は、「3段階」が39%と最も多く、次いで「5段階」が35%となっている。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した 370 社。

図 8-12 リスクレベルの段階数 (n=370)

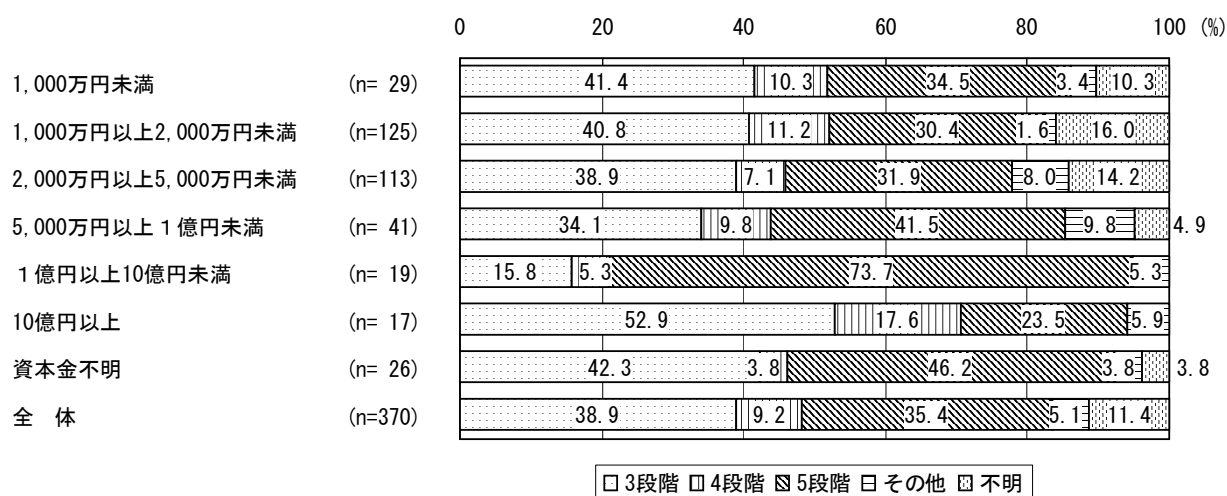
リスクレベルの段階数を職種分類別に見ると、仕上系と設備系では「3段階」が最も多く、躯体系と土木系では「5段階」が最も多い。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 8-13 リスクレベルの段階数 (職種分類別)

リスクレベルの段階数を資本金階層別に見ると、資本金 1,000 万円から 10 億円の範囲で、資本金が大きくなるほど、「3 段階」が減って「5 段階」の割合が高くなる傾向が見られる。しかし、資本金 10 億円以上となると、「5 段階」は少なく、「3 段階」が過半となっている。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

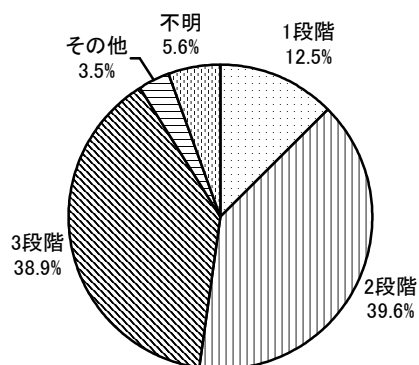
図 8-14 リスクレベルの段階数 (資本金階層別)

(4) 危険度＝優先度の軽減対策を取る段階（問 7-4）

問 7-4 危険度＝優先度の軽減対策は何段階目から対策を取っていますか。あてはまる段階数を記入して下さい。
 () 段階

① リスクレベル評価が 3 段階の場合

リスクレベル評価が 3 段階の場合の軽減対策を取る段階数は、「2 段階」が 40%、「3 段階」が 39% となっている。

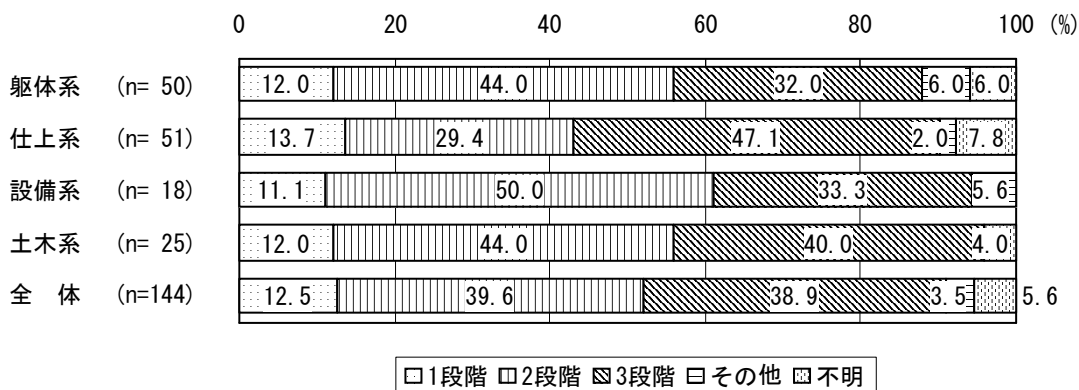


注) サンプルは、リスレベル評価の段階数を 3 段階と回答した 144 社。

図 8-15 リスクレベル評価が 3 段階の場合の軽減対策を取る段階 (n=144)

リスクレベル評価が 3 段階の場合の軽減対策を取る段階数を職種分類別に見ると、設備系で「2 段階」が特に多く、仕上系では「3 段階」が特に多くなっている。

リスクレベル3段階評価

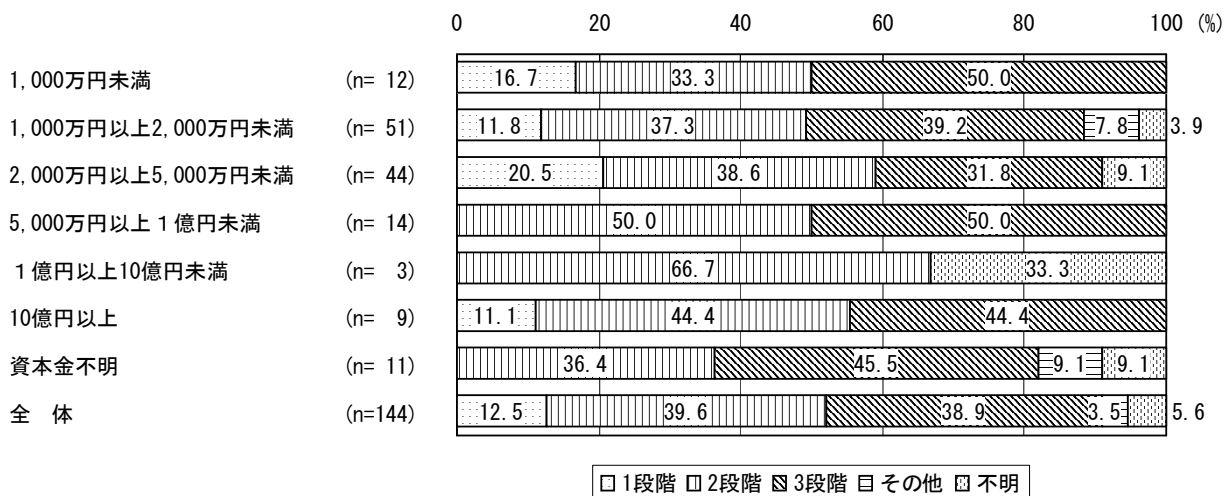


注) サンプル数(n)は、リスレベル評価の段階数を 3 段階と回答した会社の数。

図 8-16 リスクレベル評価が 3 段階の場合の軽減対策を取る段階 (職種分類別)

リスクレベル評価が3段階の場合の軽減対策を取る段階数を資本金階層別に見ると、資本金10億円未満の範囲で、資本金が大きくなるほど、「2段階」の割合が高くなる傾向が見られる。

リスクレベル3段階評価

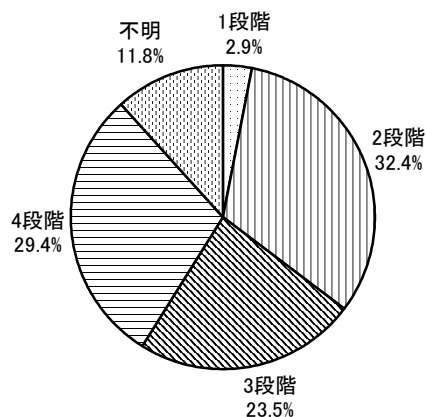


注) サンプル数(n)は、リスクレベル評価の段階数を3段階と回答した会社の数。

図8-17 リスクレベル評価が3段階の場合の軽減対策を取る段階 (資本金階層別)

② リスクレベル評価が4段階の場合

リスクレベル評価が4段階の場合の軽減対策を取る段階数は、「2段階」が32%と最も多く、次いで「4段階」が29%となっている。

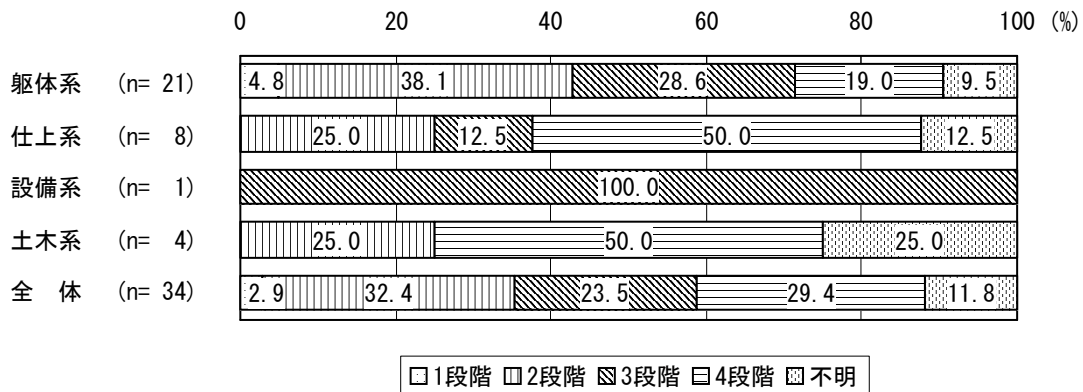


注) サンプルは、リスクレベル評価の段階数を4段階と回答した34社。

図8-18 リスクレベル評価が4段階の場合の軽減対策を取る段階 (n=34)

リスクレベル評価が4段階の場合の軽減対策を取る段階数を職種分類別に見ると、躯体系で「2段階」が多く、仕上系と土木系では「4段階」が多くなっている。

リスクレベル4段階評価

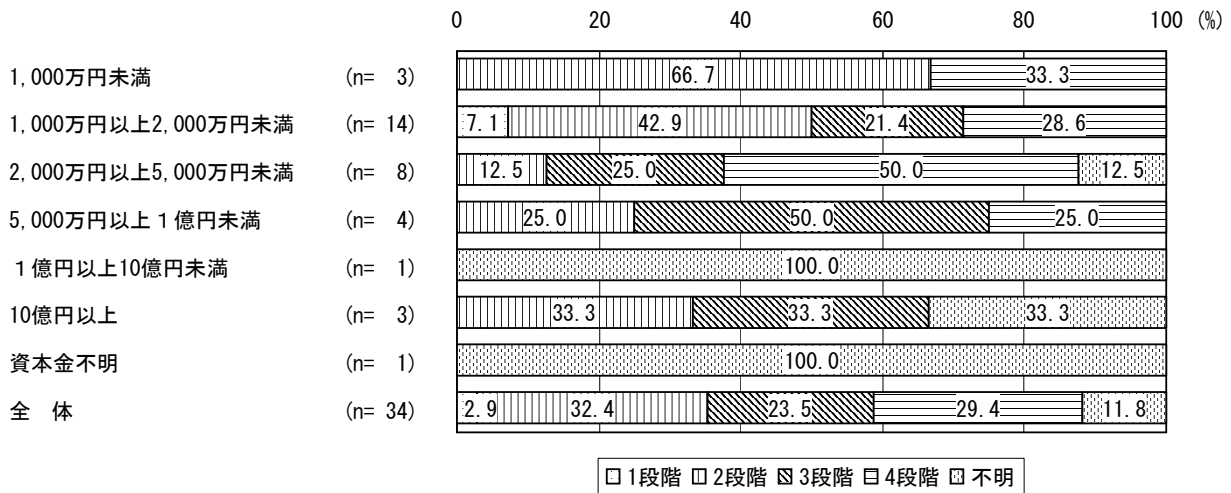


注) サンプル数(n)は、リスクレベル評価の段階数を4段階と回答した会社の数。

図 8-19 リスクレベル評価が4段階の場合の軽減対策を取る段階 (職種分類別)

リスクレベル評価が4段階の場合の軽減対策を取る段階数を資本金階層別に見ると、資本金5,000万円未満の範囲で、資本金が大きくなるほど、「2段階」が減って「3段階」又は「4段階」の割合が高くなる傾向が見られる。

リスクレベル4段階評価

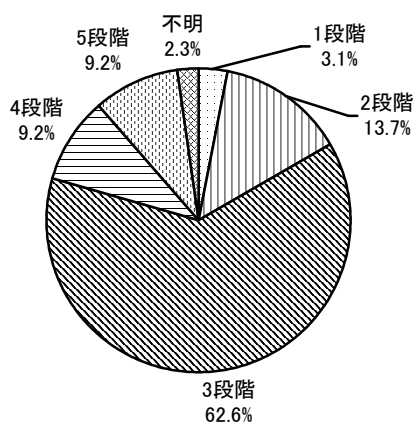


注) サンプル数(n)は、リスクレベル評価の段階数を4段階と回答した会社の数。

図 8-20 リスクレベル評価が4段階の場合の軽減対策を取る段階 (資本金階層別)

③リスクレベル評価が5段階の場合

リスクレベル評価が5段階の場合の軽減対策を取る段階数は、「3段階」が63%と最も多く、次いで「2段階」が14%となっている。

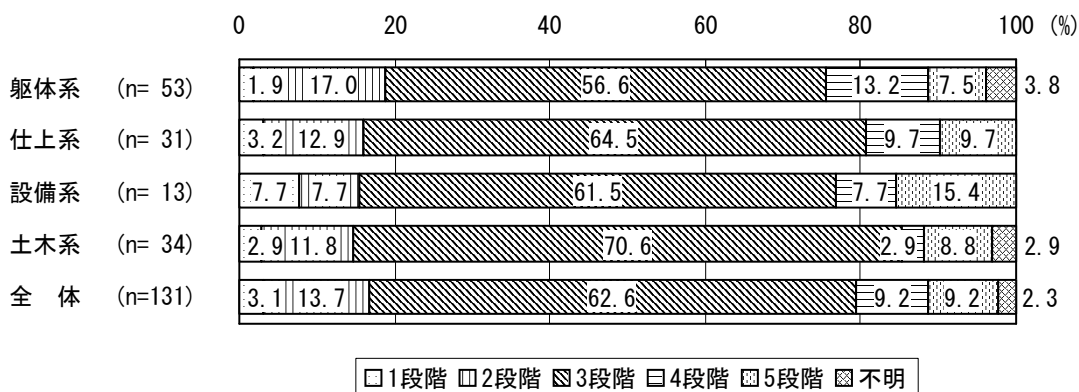


注) サンプルは、リスクレベル評価の段階数を5段階と回答した131社。

図 8-21 リスクレベル評価が5段階の場合の軽減対策を取る段階数 (n=131)

リスクレベル評価が5段階の場合の軽減対策を取る段階数を職種分類別に見ると、職種分類による差異は特に見られない。

リスクレベル5段階評価

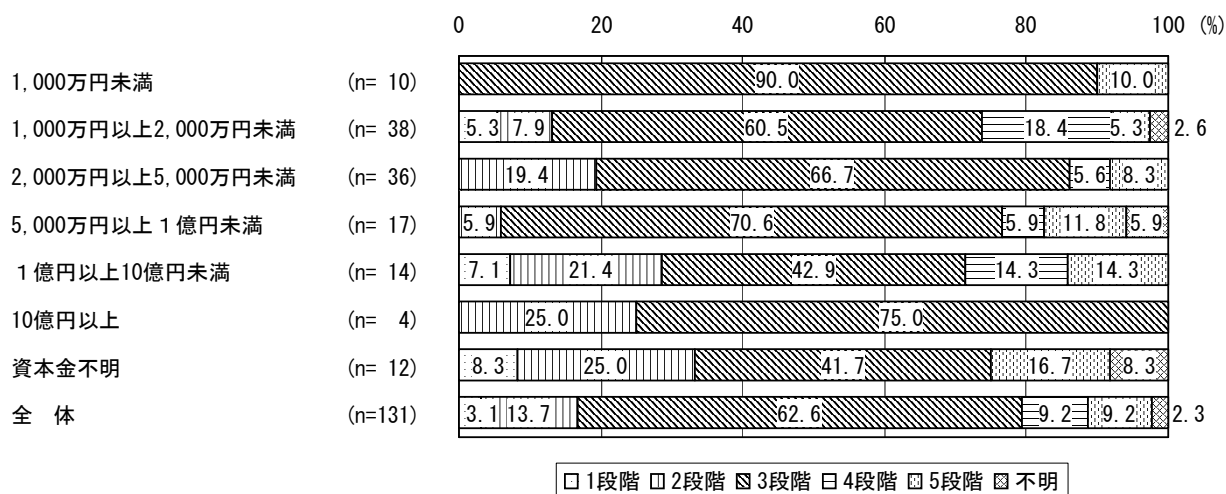


注) サンプル数(n)は、リスクレベル評価の段階数を5段階と回答した会社の数。

図 8-22 リスクレベル評価が5段階の場合の軽減対策を取る段階数 (職種分類別)

リスクレベル評価が 5 段階の場合の軽減対策を取る段階数を資本金階層別に見ると、全ての階層で「3 段階」が最も多いが、資本金 1 億円以上では、「2 段階」も比較的多くなっている。

リスクレベル5段階評価



注) サンプル数(n)は、リスクレベル評価の段階数を5段階と回答した会社の数。

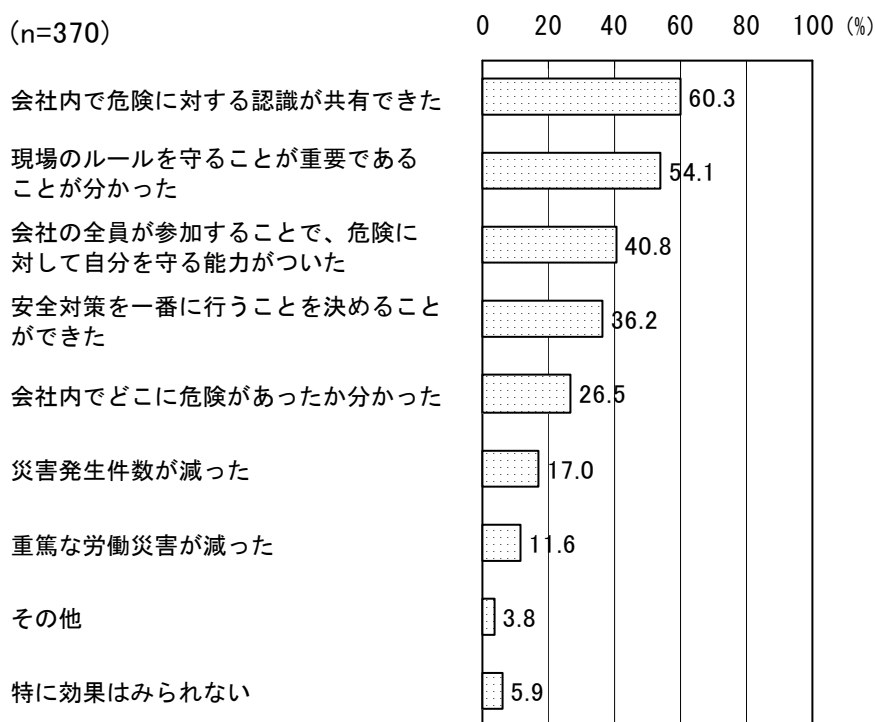
図 8-23 リスクレベル評価が 5 段階の場合の軽減対策を取る段階 (資本金階層別)

9. リスクアセスメントの効果（問8）

問8 リスクアセスメントを実施したことにより、会社にどのような効果がありましたか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 特に効果はみられない
2. 会社内でどこに危険があったか分かった
3. 会社内で危険に対する認識が共有できた
4. 安全対策を一番に行うことを決めることができた
5. 現場のルールを守ることが重要であることが分かった
6. 会社の全員が参加することで、危険に対して自分を守る能力がついた
7. 重篤な労働災害が減った
8. 災害発生件数が減った
9. その他（ ）

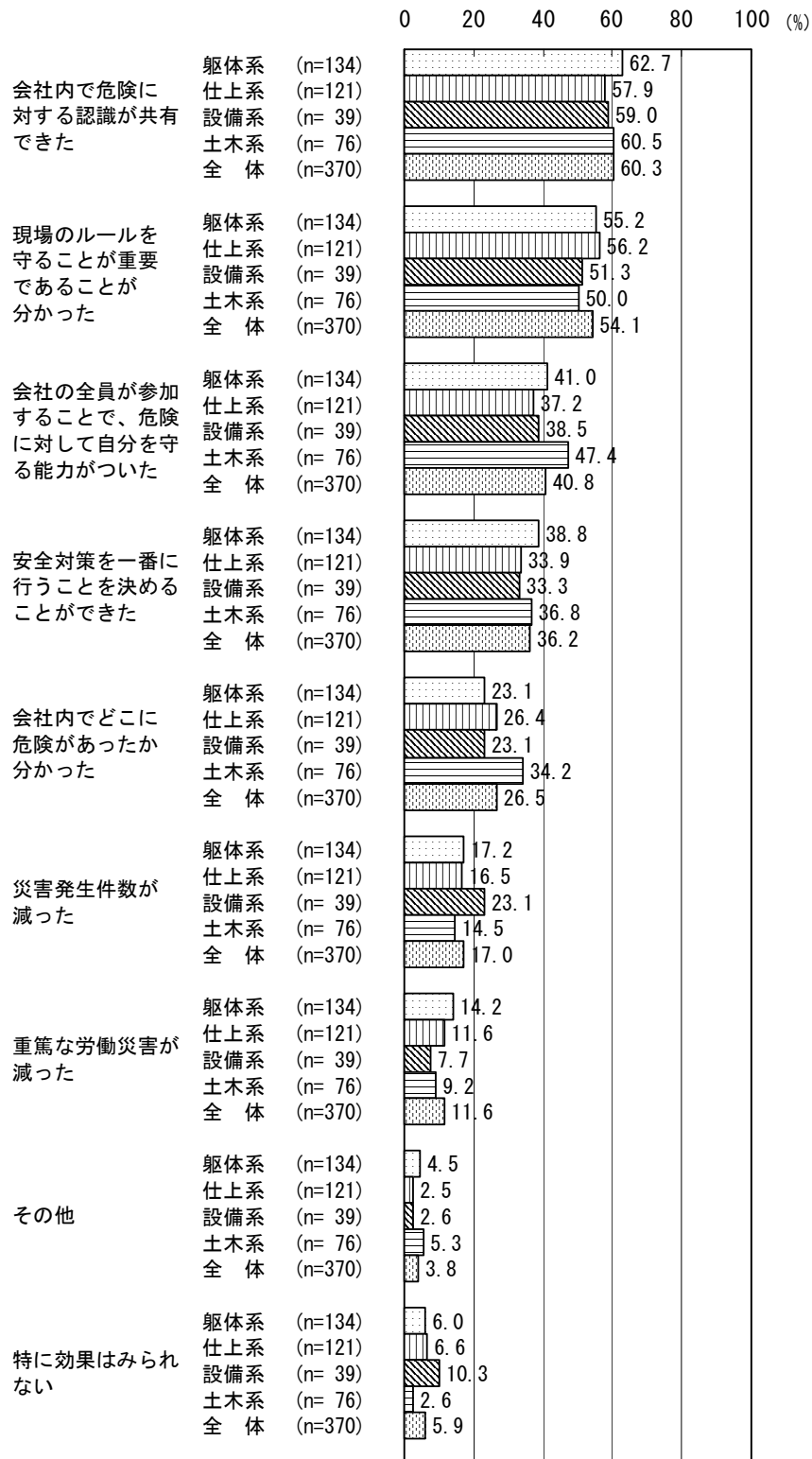
リスクアセスメントを実施したことによる効果は、「会社内で危険に対する認識が共有できた」が60%と最も多く、次いで「現場のルールを守ることが重要であることが分かった」が54%となっている。一方、「重篤な労働災害が減った」が17%、「災害発生件数が減った」が12%と、災害件数の減少効果も、ある程度は見られる。「特に効果はみられない」は6%とわずかである。



注) サンプルは、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した370社。

図 9-1 リスクアセスメントを実施したことによる効果（複数回答）

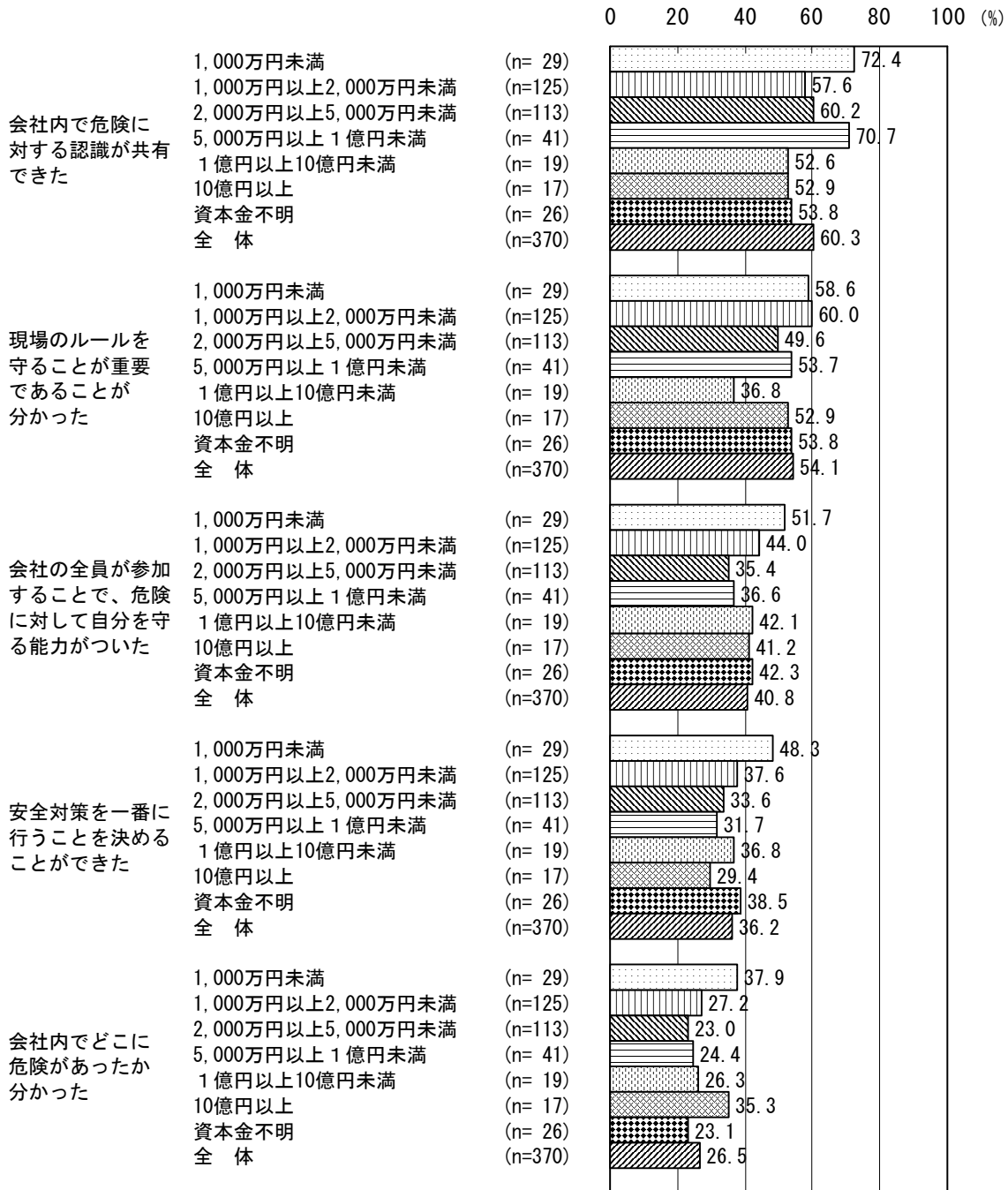
リスクアセスメントを実施したことによる効果を職種分類別に見ると、上位に挙げられた項目での差異はあまり見られない。災害件数の減少効果については、設備系で「災害発生件数が減った」が比較的多い一方、「重篤な労働災害が減った」はわずかであることが特徴的である。「重篤な労働災害が減った」は躯体系で比較的多い。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

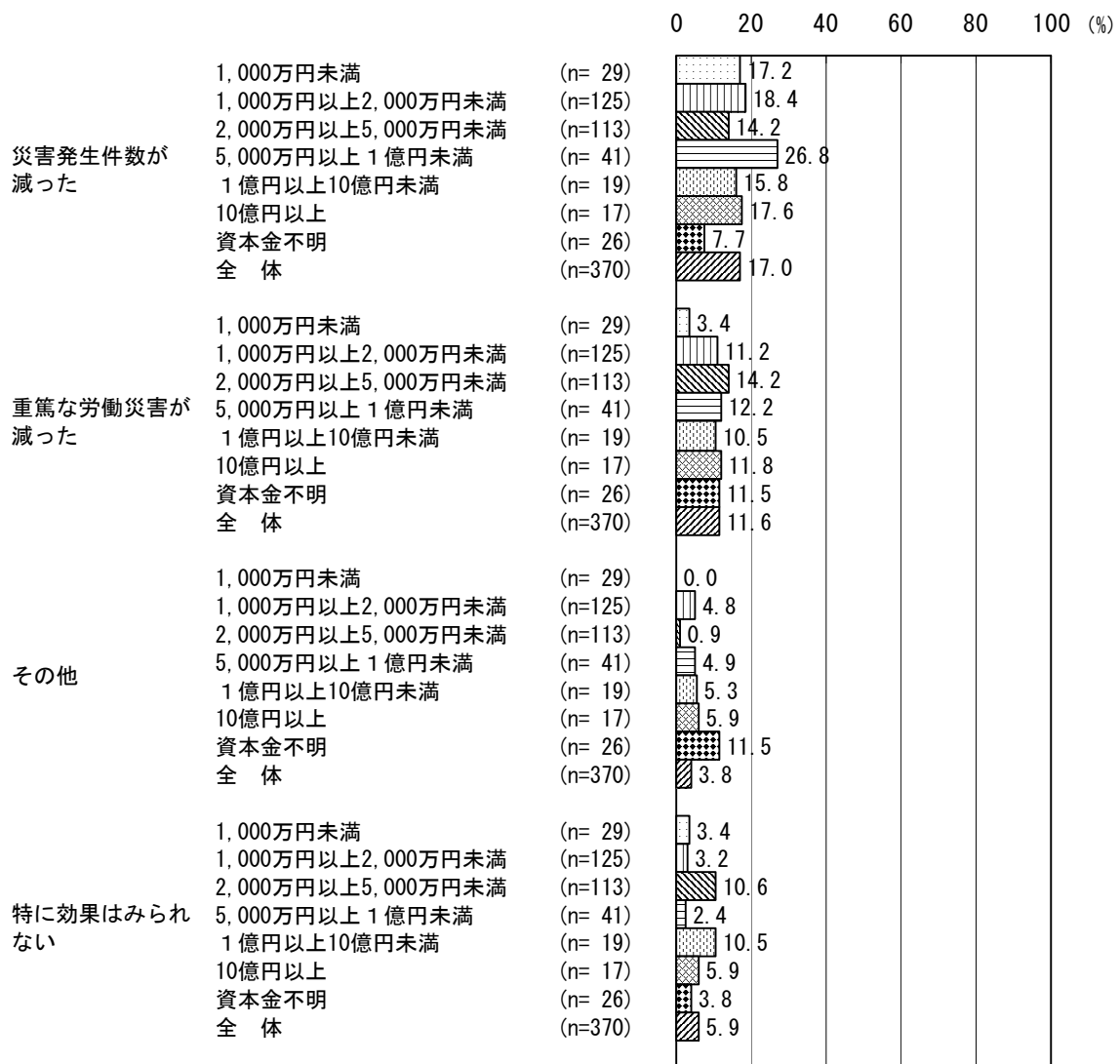
図 9-2 リスクアセスメントを実施したことによる効果（職種分類別、複数回答）

リスクアセスメントを実施したことによる効果を資本金階層別に見ると、上位に挙げられた項目では、概ね資本金が小さくなるほど、効果があったとする割合が高くなる傾向が見られる。災害件数の減少効果については、資本金 5,000 万円以上 1 億円未満の会社で「災害発生件数が減った」が比較的多く、1,000 万円未満の会社では「重篤な労働災害が減った」はわずかである。



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 9-3 リスクアセスメントを実施したことによる効果（資本金階層別 (1)、複数回答）



注) サンプル数(n)は、会社と現場又はそのいずれかでリスクアセスメントを実施していると回答した会社の数。

図 9-4 リスクアセスメントを実施したことによる効果（資本金階層別(2)、複数回答）

リスクアセスメントを実施したことによる効果について、「その他」と回答した 14 社の記述内容は以下の通り。

表 9-1 リスクアセスメントを実施したことによる効果「その他」の記述回答

職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	現段階において効果の確認はできない。	鳶土工
	2	会社として安全衛生マネジメント等で取り入れる事はできるが、現場でのKYでは無理がある＝実効性が薄い。	型枠大工
	3	今から。	鉄筋
	4	一人一人の安全意識が高まった。	圧接
	5	始めたばかりの為、これからの効果に期待したい。	圧送
	6	現場に提出する作業手順書を使う程度で、全国的に活用するまでに至っていない為、効果は見られません。	建具
仕上系	7	安全に対する意識が増した。	塗装
	8	作業所では自工程以外での危険があり、多様化している。(巻き込まれ事故・設備の不備等)	内装
	9	実施状況にバラツキがあり、効果については今のところ不明。	内装
設備系	10	現時点では、まだ顕著な効果は見えていないが、大きな災害が減ったと思う。	消防施設
土木系	11	会社としては、まだ評価するには至っていない。	基礎
	12	これから活用されるようになっていきます。	基礎
	13	現状内容の充実が必要であり、まだ効果はみられない。	アンカー
	14	まだ実施中のため、これからです。	造園

リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点を職種分類別に見ると、躯体系、仕上系では「危険を判断して対策を取る方法が人によって個人差がでるので、むずかしい」が多く、設備系では「施工条件が日々変わっていくので、リスクを評価することはむずかしい」、土木系では「リスクアセスメントがどのようなものを具体的に理解するのはむずかしい」が最も多くなっている。また、「危険予知活動で十分と考えている」、「時間と手間がかかるのでリスクアセスメントを行うのはむずかしい」は仕上系で比較的多い。

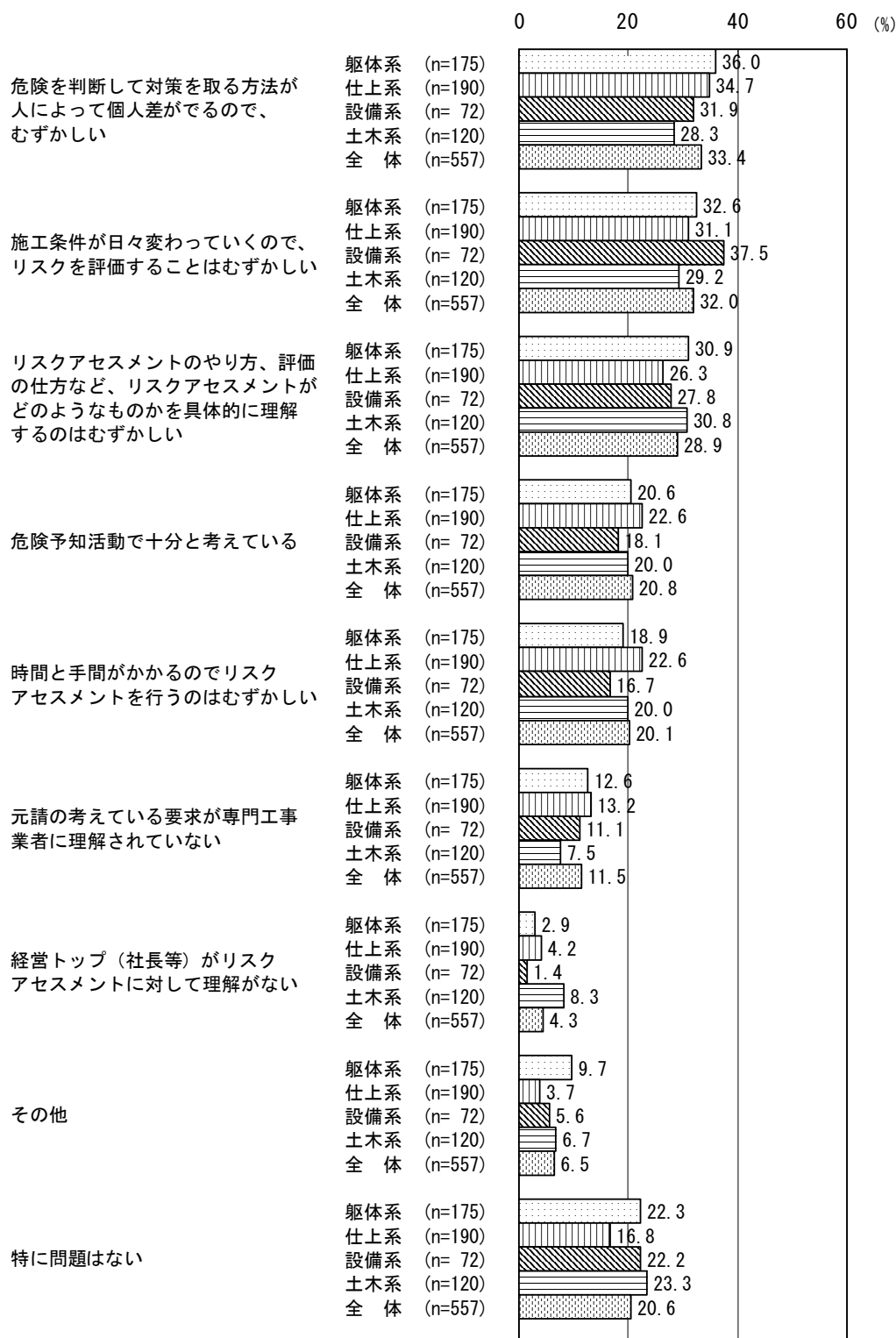


図 10-2 リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点（職種分類別、複数回答）

リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点を資本金階層別に見ると、上位に挙げられている項目のうち、「危険を判断して対策を取る方法が人によって個人差があるので、むずかしい」は、資本金が大きくなるほど、その割合が高くなる傾向が見られるが、その他の項目は、概ね資本金が小さくなるほど、その割合が高くなる傾向が見られる。また、「経営トップ（社長等）がリスクアセスメントに対して理解がない」は、資本金1億円以上の会社で比較的多い。

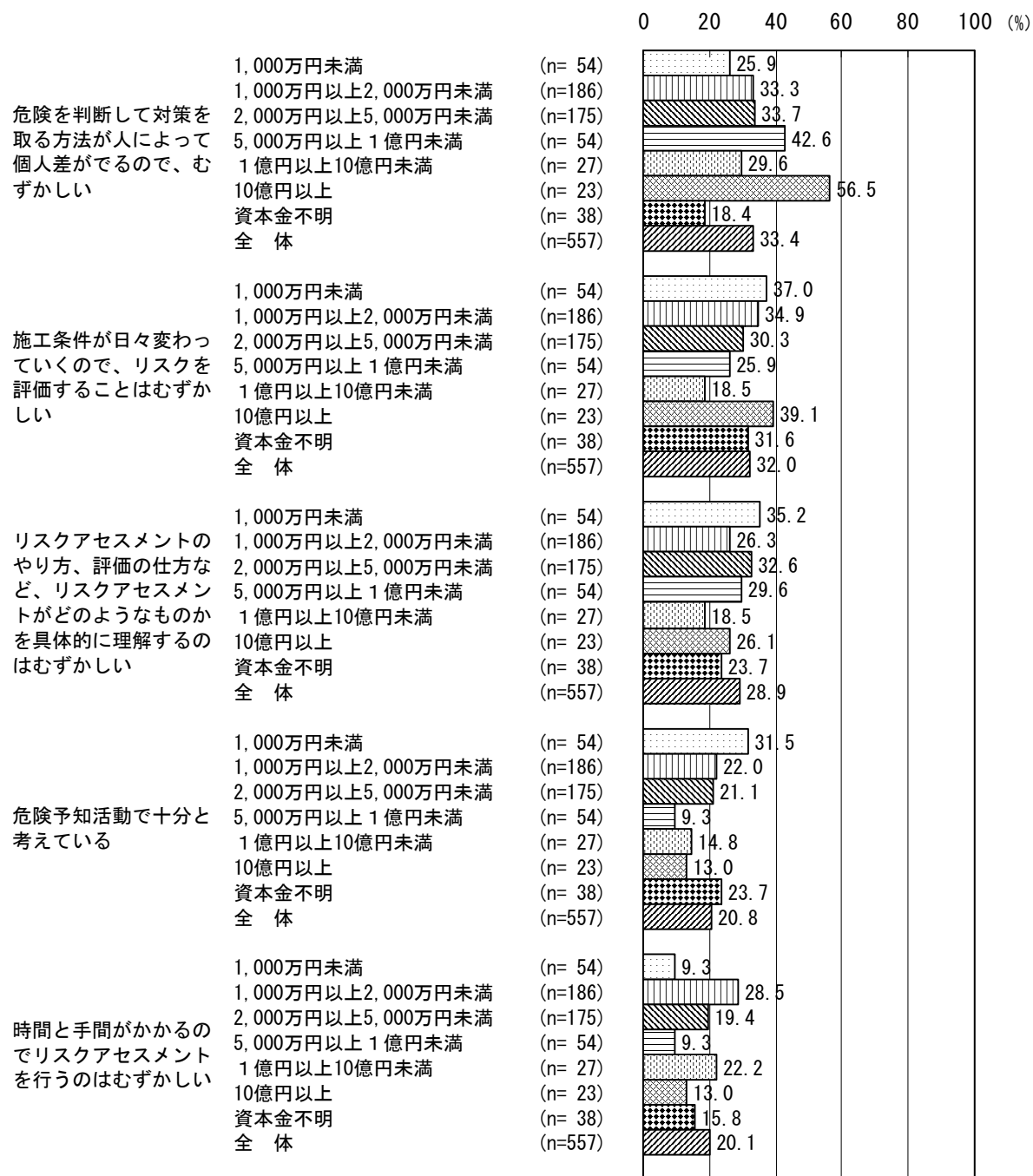


図 10-3 リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点
(資本金階層別(1)、複数回答)

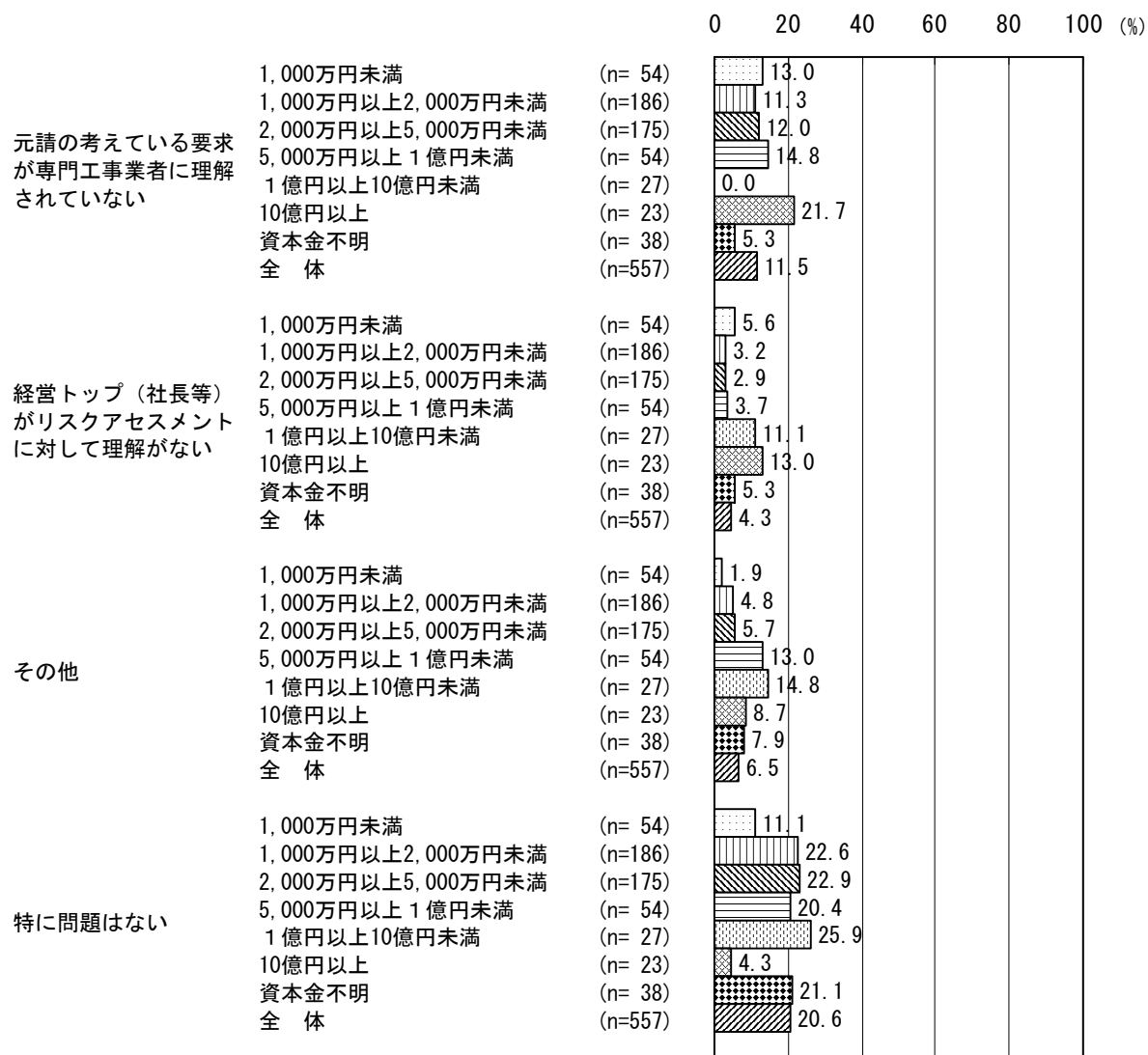


図 10-4 リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点
(資本金階層別 (2)、複数回答)

リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点について、「その他」と回答した 36 社のうち、記述のあった 35 社の記述内容は以下の通り。

表 10-1 リスクアセスメントを進めていくときに障害になっている問題点「その他」の記述回答

職種分類	記述内容	職種
軀体系	1 作業員全員までの理解活用には、まだ時間がかかるが、教育・指導し推進していく。	鳶土工
	2 ゼネコンによって、重大性、可能性の評価の指導が、まちまちである。	鳶土工
	3 構築者と評価者の区分ができる程の人材がない。	型枠大工
	4 職人レベルで事務処理ではない。	型枠大工
	5 従来通りリスクアセスメントについて全体ミーティングを充実させる。	鉄筋
	6 元請によって指導がバラバラである。基本的には、KY活動のやり方が変わったが多い。	鉄筋
	7 元請自体が理解不足。	鉄筋
	8 日常業務においては危険予知（通常作業）で十分だと思う。月次（月	鉄骨

職種分類		記述内容	職種
		1回)においては安全衛生活動時に、リスクアセスメントを導入している。	
	9	当社作業所(元請)が作成したリスクアセスメント(調査表等)について、各専門工事業者との周知・意見交換の取り組みがあまり進んでいない。	鉄骨
	10	会社によって記入方法がバラバラなので、統一してほしい。	圧接
	11	作業する側が認識不足の場合むずかしい。クレーンリースの為、相手次第、自社でやるべき事は実施。	クレーン
	12	見積方法を統一してほしい。(元請業者によって違う)	クレーン
	13	現在客先の一部で行われておりますが、行われていない現場で、当社から作業時間をさいて行うといった状況にはない。	クレーン
	14	検討外(建設工事に関わりが無いため)	建具
	15	現場で即座に工学的対策を取ることができず、リスク見積の最上位項目に手を打つことができないまま作業をする場合がある。	建具
	16	各担当者や責任者に対する教育を含めた意識レベルの問題。	建具
	17	必要性を認識していなかった。	建具
仕上系	18	現在ISO9001を取得中の為、実施が難しいという現状です。ただISOの中にリスクアセスメントの部分が含まれていると思うが、両方実施する必要がないように思われます。	塗装
	19	元請自体の危険予防意識が不十分な事(下請け現場での是正要望対策が遅れる等)。	塗装
	20	職方に理解させるのが難しい。	左官
	21	費用負担が大きく継続は出来ない。	瓦
	22	社員には、教育に参加させた事があるが、経営トップがリスクアセスメントの教育を受けなければ、障害になっている問題点そのものが理解出来ていない。	瓦
	23	安全衛生パトロールを月1・2回行うので、充分と考えていました。	内装
設備系	24	各自の注意で無事故のため。	管
	25	工事の内容・規模等でむずかしい面がある。元請と比較すると専門工事ということで差が大きい。	消防施設
	26	リスクアセスメントの範囲、仕事と関連させた定義付けがなかなか明確にできない。	標識
	27	「リスクアセスメント」という言葉そのもの。なぜ日本語ではないのか?	標識
土木系	28	当社は専門工事会社なので、元請によって方法が違うので、その都度方法が変わる。	基礎
	29	作業手順書への取組みは時間と手間がかかる。設備への取組みについては、費用がかかる。社員・作業員に対して定期的な教育が必要。	基礎
	30	KY同様マンネリ化の恐れあり。	基礎
	31	経済的理由から、リスクアセスを現場実務に反映させる事が困難。	基礎
	32	社員にとってやらされ感が強く、積極的でない。	カッター
	33	社長をはじめ社員全員、リスクアセスメントについての知識が不十分。	造園
	34	やたらに横文字を使うのはやめて頂きたい。横文字を使うことで、高尚な事をしている様な気になったり、思考停止の原因になっているように感じる。だんだんバカになるようだ。	造園
	35	これからです。	造園

1.1. リスクアセスメントに関する教育（問10）

問10 あなたの会社では、リスクアセスメントに関する教育を実施していますか。該当するもの一つだけ選び数字に○をつけてください。また、実施している場合、その教育はどのようなものですか。該当するすべての数字に○をつけてください。

1. 教育を実施している	→	1. 会社内で教育を実施した
2. 教育を実施していない		2. 安全衛生協力が実施する教育に参加した
		3. 元請が実施する教育に参加させた
		4. 建災防が実施する教育に参加させた
		5. 建災防以外の教育機関が実施する教育に参加させた
		6. その他（ ）

会社でリスクアセスメントに関する教育を実施しているかについては、「実施している」が79%と多くなっている。

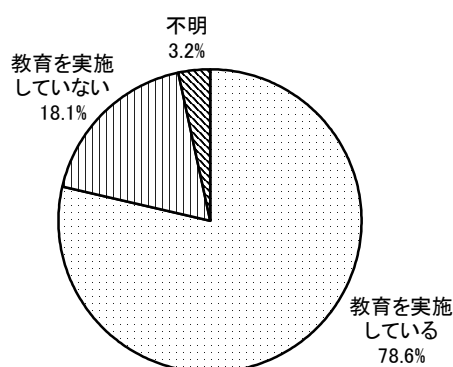


図 11-1 リスクアセスメントに関する教育の実施 (n=557)

リスクアセスメントに関する教育の実施について職種分類別に見ると、「実施している」は躯体系で特に多く、設備系でやや少ない。

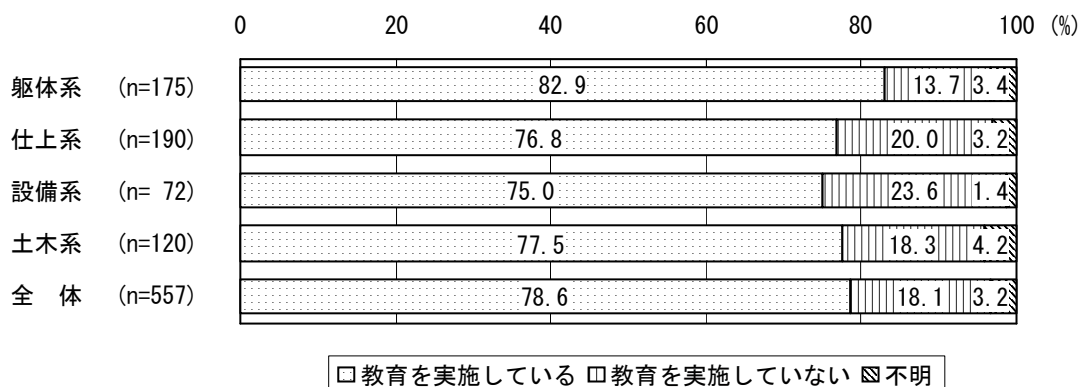


図 11-2 リスクアセスメントに関する教育の実施（職種分類別）

リスクアセスメントに関する教育の実施について職種別に見ると、実施している割合が特に高い職種は、鳶土工、鉄筋、圧接、アンカー（いずれも90%以上）であり、低い職種は、型枠大工、タイル、管（いずれも70%以下）である。

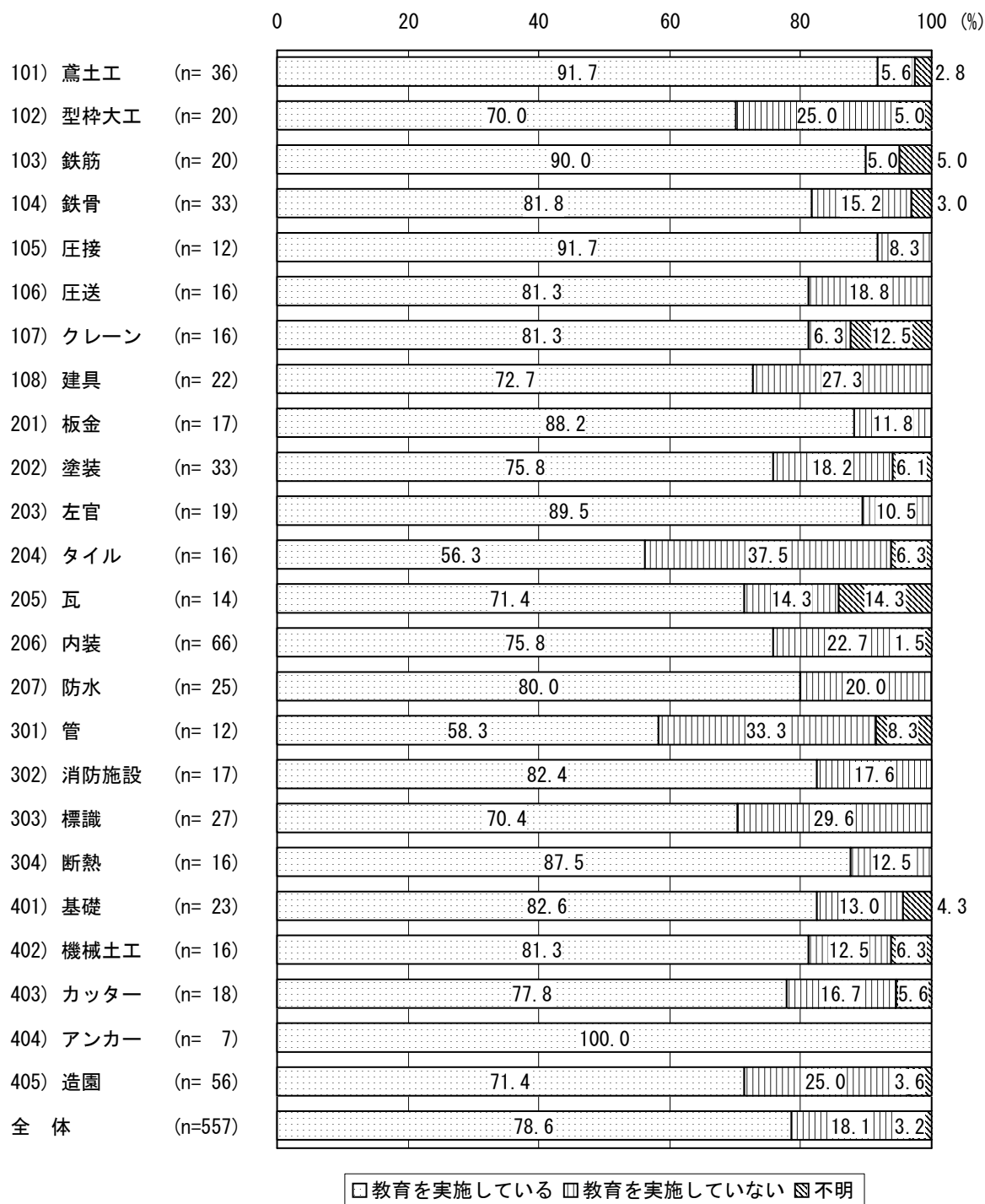


図 11-3 リスクアセスメントに関する教育の実施（職種別）

リスクアセスメントに関する教育の実施について資本金階層別に見ると、実施している割合が特に高いのは資本金 5,000 万円以上 10 億円未満の会社であり、やや低いのは資本金 5,000 万円未満の会社である。

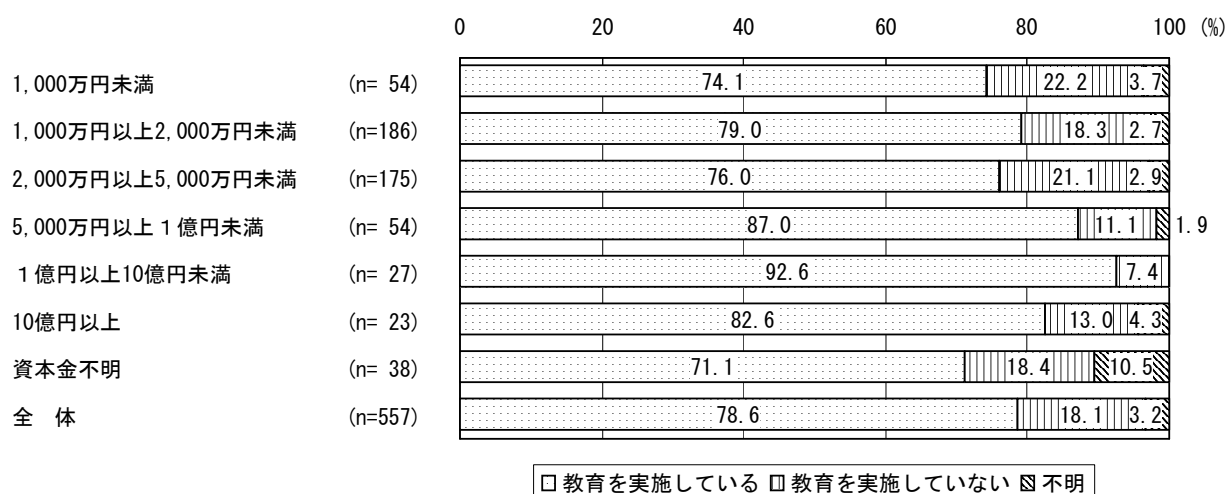
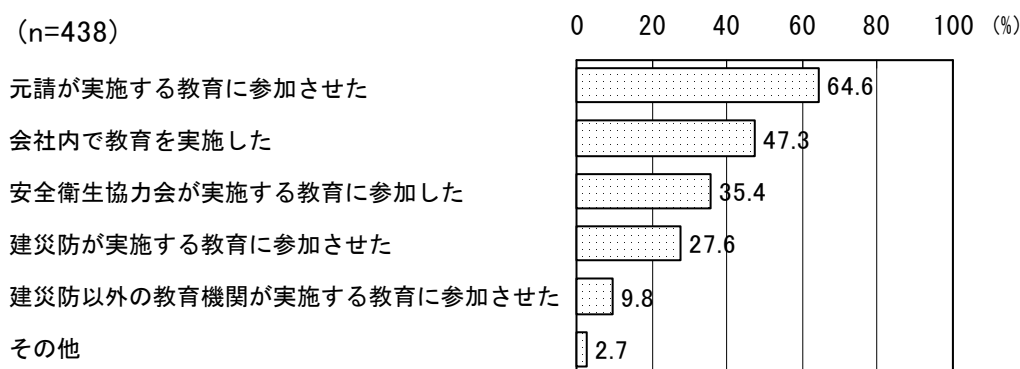


図 11-4 リスクアセスメントに関する教育の実施（資本金階層別）

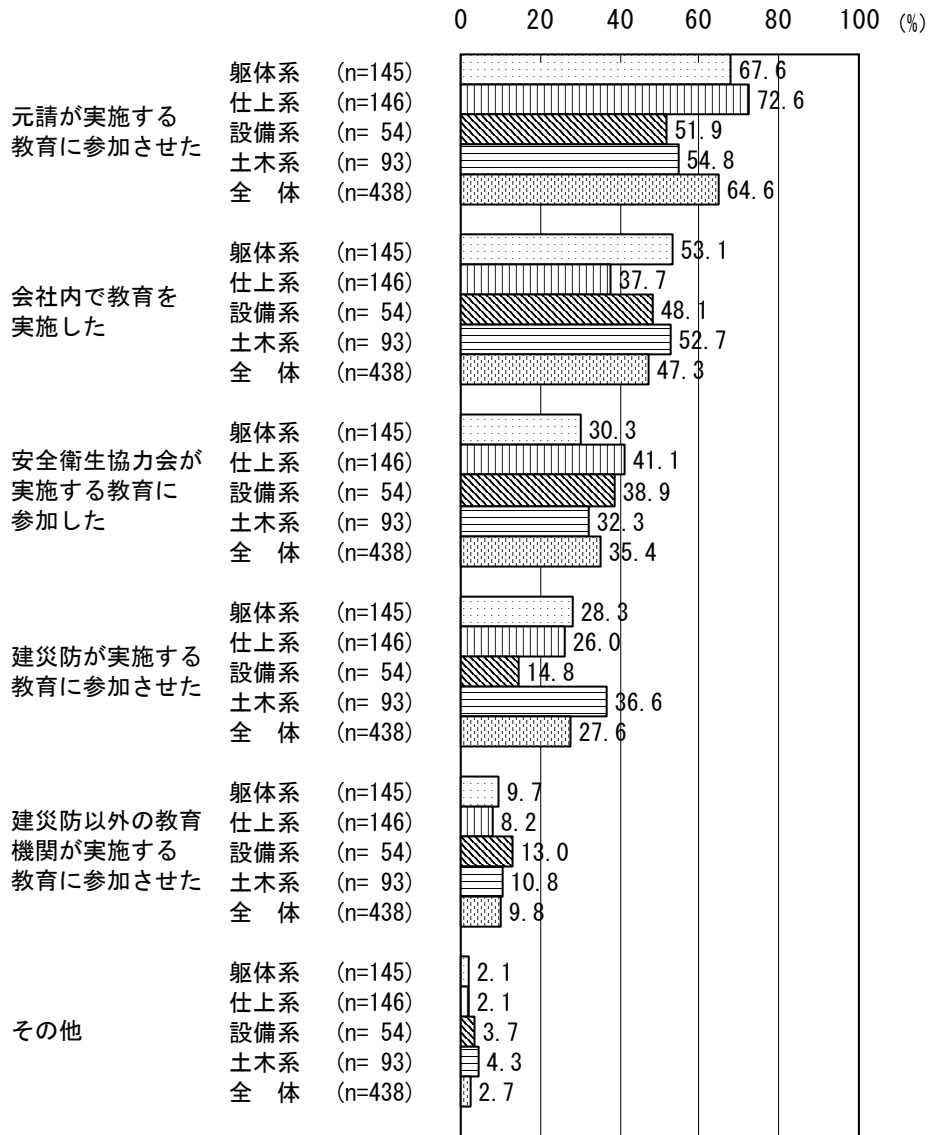
会社で実施しているリスクアセスメントに関する教育の実施内容は、「元請が実施する教育に参加させた」が 65%と最も多く、次いで「会社内で教育を実施した」が 47%となっている。



注) サンプルは、リスクアセスメントに関する教育を実施していると回答した 438 社。

図 11-5 リスクアセスメントに関する教育の実施内容（複数回答）

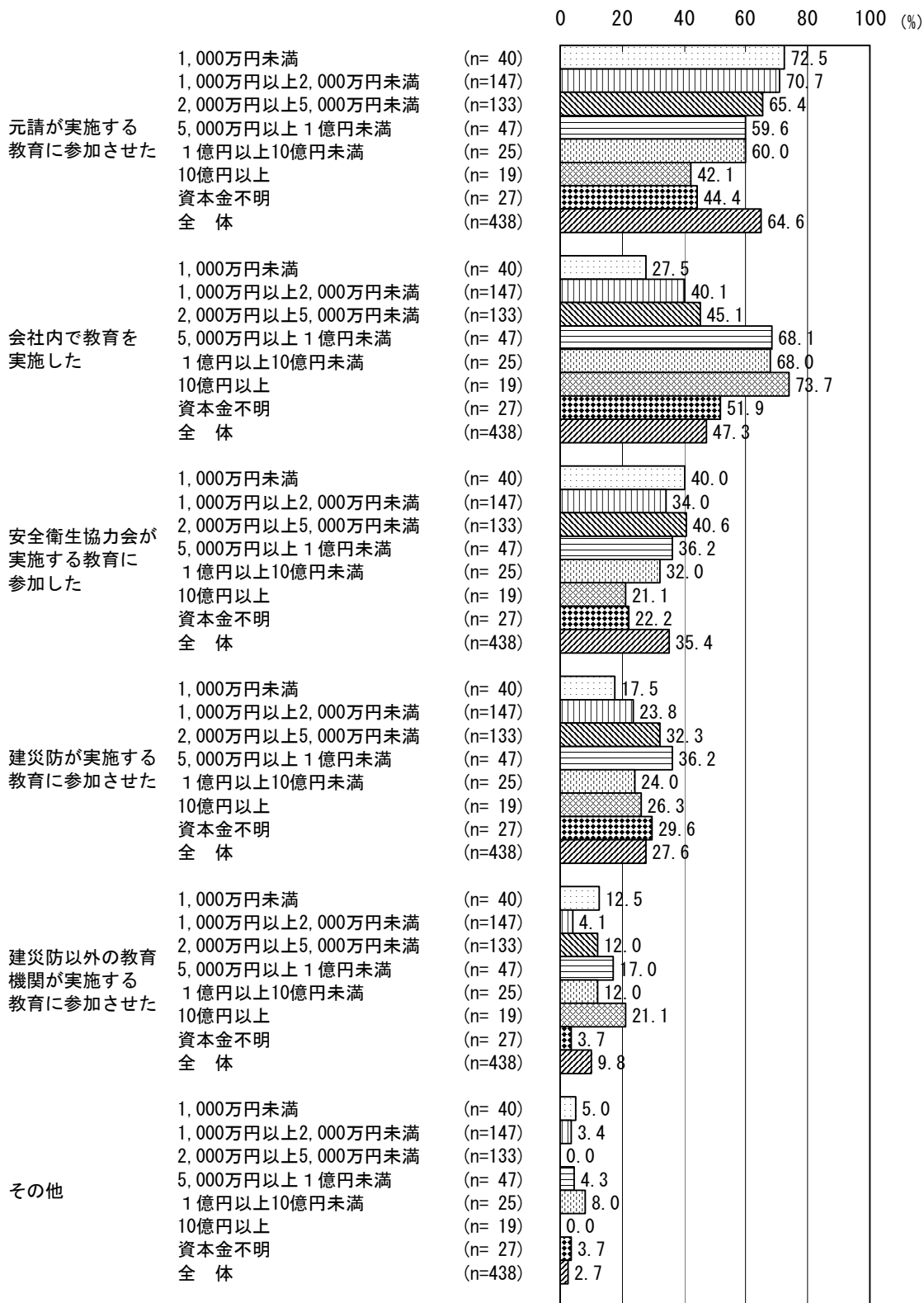
リスクアセスメントに関する教育の実施内容を職種分類別に見ると、躯体系、仕上系では「元請が実施する教育に参加させた」が特に多く、設備系、土木系では「元請が実施する教育に参加させた」とともに「会社内で教育を実施した」も多い。「建災防が実施する教育に参加させた」は、土木系で比較的多いが、設備系では少ない。



注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントに関する教育を実施していると回答した会社の数。

図 11-6 リスクアセスメントに関する教育の実施内容（職種分類別、複数回答）

リスクアセスメントに関する教育の実施内容を資本金階層別に見ると、資本金が大きくなるほど、「元請が実施する教育に参加させた」割合は低くなり、「会社内で教育を実施した」割合が高くなる傾向が顕著に見られる。「建災防が実施する教育に参加させた」は、資本金2,000万円以上1億円未満の会社で比較的多い



注) サンプル数(n)は、リスクアセスメントに関する教育を実施していると回答した会社の数。

図 11-7 リスクアセスメントに関する教育の実施内容 (資本金階層別、複数回答)

リスクアセスメントに関する教育の実施内容について、「その他」と回答した 12 社の記述内容は以下の通り。

表 11-1 リスクアセスメントに関する教育の実施内容「その他」の記述回答

職種分類		記述内容	職種
躯体系	1	近圧協	圧送
	2	安全技術講習会の時	圧送
	3	会社内でリスクアセスメントについて、その存在とおおまかな説明をするにとどめた。	クレーン
仕上系	4	自社で社長が説明指導。	板金
	5	特定な工事では行なう。	塗装
	6	大手企業の安全講習会を定期的に受けている。	内装
設備系	7	危険予知活動を実施している。	標識
	8	社内安全衛生大会の実施	標識
土木系	9	自社安全大会にて講師を招いて。	機械土工
	10	当社が元請工事の作業所内で実施した。	機械土工
	11	ゼネコン安全担当者講師の出張講義	造園
	12	組合と監督署の講習会	造園